

杏 口ジャーナル

Anzu Journal
2011 No.28



●巻頭言
故郷
自炊の功德

●応援します あなたの学生生活
教育成果を高める
キャンパスにおける絆作りを目指して
キャリアサポートセンター長からのメッセージ

●特集
私の国際交流

●特集
私の趣味

コーポレート・ガバナンス～欧州型モデルはうまくいくか
義経北行伝説を追いかけて
私の記者時代

食品中の放射性物質に関するリスクコミュニケーション

2011年杏園祭

ゼミナール紹介

巻頭言

- 故郷 跡見 裕 2
自炊の功德 松田和晃 4

応援しますあなたの学生生活

- 教育成果を高める 小野田欣也 6
キャンパスにおける絆作りを目指して 原田奈々子 8
キャリアサポートセンター長からのメッセージ 豊島典雄 10

- キャリアサポートセンターの紹介 12
先輩方の声「故郷の力になろう」 13

特集1：私の国際交流

- デンマーク 加藤 拓 14
タイ 木村有里 16
カナダへの無鉄砲旅行 木暮健太郎 18
海外合宿を通じて学ぶ事 渡辺 剛 20

特集2：私の趣味

- 鉄道の旅 岩隈道洋 21
ダーツ 競技としてのダーツ 糟谷 崇 24
落語の魅力 高田京子 26

ESSAY

- コーポレート・ガバナンス～欧州型モデルはうまくいくか 田中信弘 28
義経北行伝説を追いかけて 内藤高雄 30
私の記者時代 劉 迪 30

- 社会科見学ツアーについて 大山 徹 34
東日本大震災後の復興支援活動に参加して 岡村 裕 38
プレゼミナール 41
ゼミナール紹介 47
ゼミナール代表者連絡会 67
2011年杏園祭 70
学際演習 72
新任教員紹介 74
読書のススメ 76

- 食品中の放射性物質に関するリスクコミュニケーション 野山 修 78

- 地域交流委員会より 80
父母の声 81
杏会総会のご報告 84
杏門会より 85
卒業記念パーティーのお知らせ 85
入試案内 86
編集後記 88



故郷

学長 跡見 裕

ふるさとは遠きにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの
よしや うらぶれて
異土の乞食となるとても
帰るところにあるまじや
ひとり都のゆふぐれに
ふるさとおもひ涙ぐむ
そのころもて
遠きみやこにかへらばや
遠きみやこにかへらばや

室生犀星の有名な詩です。金沢で生まれ悲惨な生活をしていた犀星が上京し、故郷を偲んでうたったのでしよう。在京生活もあまり恵まれたものではなかったはずですので、この少し甘酸っぱい詩には、彼の屈折した心がよく現れているではありませんか。

私はどちらかといえれば楽しい田舎生活を過ごしましたので、いまでも田舎に帰りたいなあとおもいながら東京で過ごしています。私が大学に入学するため愛知県から上京し

たのは、一九六三年（昭和三十八年）でした（ちなみに室生犀星は前年の昭和三十七年に七十三歳で亡くなっています）。翌年に東京オリンピックを控えており、大阪と東京を結ぶ東海道新幹線が建設中でした。高校生であつた私たちも含め、日本全体が活気に溢れて、何となく高揚感に包まれていた時です。それまで私たちの高校の進学者は地元の名古屋か、京都、関西系が多かったのですが、一気に東京志向となっていました。同級生で百五十人くらいが、東京の大学に進学したはず

です。大学の入試にはいろいろな思い出があります。受験のため、当時の「特急つばめ」で東京にやってきました。名古屋東京間は五時間かかったとおもいます。その列車には多くの同級生が乗っており、さながら貸し切り列車でした。先輩からの助言の中に、上京の途中で富士山をみると入試に落ちるといふのがありました。同級生で話し合い、最初に富士山を見つけたものが、「富士山だ」と叫ぶこと

にしました。この人は落ちるのですが、残り
は合格という作戦です。汽車は順調に走って
います。そろそろ富士山かなど考えていると、
誰かが富士山だと叫びました。乗客は一斉に
窓から外を眺め、富士山をみました。もちろ
ん私たち受験生もその仲間に入っていました。
本当にきれいな富士の姿が今でも目に浮かび
ます。そして、いささか重い気持ちで東京駅
のプラットフォームに降り立ちました。

東京駅には義兄の友人が迎えにきてくれ
ているはずですので、しばらくボツとたってい
ますと、それらしき人がやってきました。

「跡見君かい？」にハイと答えると、「どこ
に送っていけばよいの」と尋ねられました。

「なんとか会館」といったのですが、東京に
は何とか会館の名称がついたものは数多くあ
るとのことでした。そんな馬鹿なことが、私
の田舎では会館と名がつく施設は当然一つだ
けなのです。いささか呆然とした義兄の友人
は、その後私を乗せて東京中を駆け回り、と
うとう目的の宿舎を見つけてくれました。夜
の九時頃のことです。今でもその方に会うと、
話題は必ず夜の東京を探しまわったことにな
ります。こんな様子では必ず落ちると思っ
たとそうです。運良く大学に受けりましたが、
同様に富士山をみてしまった同級生も、殆ど
が合格しました。

大学一年の秋に、翌年のオリンピックの入
場券が売り出されました。これを手に入れる
のは大変です。神宮球場の切符売り場に徹夜
で並びました。開会式、閉会式や人気のある

種目の行われる日を目指すのですが、一人が
入手できる枚数は限られています。十人くら
いの友人が手分けをし、作戦を練って並びま
した。切符の交換などをして、最終的には陸
上競技の最終日のチケットを三枚手に入れる
ことができました。これは田舎にいる母と叔
母二人に差し上げることにしましたが、見返
りが大きく、思いもかけずかなり高額な入場
券となった記憶があります。

新幹線ができるまで、帰省するのはもっぱ
ら準急でした。約七時間かかったのですが、
本数も多く重宝しました。また夜の十一時頃
東京駅を発車する普通列車があり、これは田
舎に朝の八時頃着きます。対面式の四人掛け
の席に座ると、前にいたおじさんがポケット
からウイスキーの小瓶を取り出し、ぐーと飲
みます。やがて、「おいおまえも飲むか」な
どと話しかけられ、おどおどしたこともあり
ました。当時の汽車では若者が一人で乗って
いると、年配の方は果物やお菓子などを勧め
てくれたものです。さすがウイスキーはこの
ときだけでした。

帰りの汽車が浜名湖を越えるとなぜかほっ
としますし、周りでも名古屋弁が飛び交うよ
うになります。今の東海道新幹線では、名古
屋東京間が一時間四十分です。十年位たつと
リニアモーターカーで、三十分と通勤圏内に
なってしまうます。ふるさととは時間的には遠
くでなくずいぶん近くなりました。それでも
ふるさとという言葉には、やはり甘酸っぱい
思い出がいっぱい含まれます。



自炊の功德

総合政策学部長 松田 和晃

本学部の学生部が発行している『学生部かわら版』は、折おりの学内情報や教員の執筆した読み物などが掲載されていて、毎号学生諸君に好評であるが、なかでも「一人暮らしのあなたに贈るミスターXの簡単レシピ」は、すでに連載11回を重ねる人気のコーナーである。市井の書肆に並ぶ料理本の中には、本気でその記事どおりに調理してみようという読者がいるなどとは端から想定していないかのような、料理人気取りを楽しむだけのものもあるが、安価な材料をもとにこの連載が展開する簡潔にして明快な指南は、時として学術論文もかく在りたいと思わせるほどである。

とはいうものの、実のところ私は全く料理ができない。学生時代は自宅通学であったし、結婚したのはちは、家内が色々と案じた料理を工夫してくれているため、有難いことにその必要性を感じなかったからである。しかし、そのような私にも、今まで二度ほど危機があった。いず

れも子供が誕生した時のことで、産後しばらく妻が実家に帰っていた間は、豊玉姫とよたまひめに置いてけ堀を喰らった火遠理命ほのおのりのみことのように暫く茫然としたものの、料理上手の先輩や友人たちに電話をかけまくって、アジの開きの焼き方だの、味噌汁の出汁の取り方だの、あれこれ教示を乞うた。その時得た知識が全く身につかなかったのみならず、どうして危機を乗り越えたのか記憶すらないのは、恐ろしかった過去を忘却したいという自然の摂理かもしれない。

このような私が、近年は「自炊」をはじめた。一応は日本古代史の研究者という自意識が邪魔をするため、自ら率先して今風の流行り言葉を振り回すことはないのだが、最近の言い方で「自炊」とは、書物などを画像データとしてコンピュータに取り込むことなのだそうだ。その昔、写真撮影の時には光量不足を補うためフラッシュを用いた。フラッシュは電球様のバルブの中に詰め込まれたマグネシウムの細いリボ

ンに点火して、燃焼による発光を利用しようというものであるが、それを光らせる行為を「焚く」といった。焚いた直後のフラッシュバルブを急いで交換して火傷した経験のある方もおられよう。時は移って現代、コンピュータに書類などを読み込ませる際にスキャナーという道具を使用するが、コピー機に似て、光源が移動しながらデータを撮像素子へ吸い上げる。その様子からフラッシュを連想し、自分で炊くのなら「自炊」だろう、ということになったとか。

文系の研究者が物理的にも書物に溺れそうな日常を送っていることは夙に知られるが、ご他聞に漏れず私も、研究室や自宅が古今の書籍で溢れかえり、僅かな隙間に家族が逼塞している有様である。安政の大地震の折り、水戸藩の儒学者藤田東湖が老母をかばって圧死したのは有名であるが、決して他人ごとではない。そこで数年前、それらを一網打尽にして電子化することを思い立った。悪事に手を染める時とはこのような心持ちであろうか。最初の一冊の抵抗感さえ克服すれば、あとはさしたる後ろめたさもなく、機械的に腕と身体が動き、恐らくは随分と装丁にも心を砕いたであろう書物でさえ、みるみる内に解体され、自動読み取り口に消えてゆく。

しかし、ふと疑念がわいた。デジタル化したことだけで、その本の中身を理解した気になってはいないだろうか。普段学生に漢文を教える時、「読み下しただけで文意を理解した気になつてはいけない。」などと言っているくせに、同じような過ちを犯しているのではないか。そこで、知り合いの仏教学研究者に尋ねたところ、彼は平然として、「写経の功德に同じ」と答えた。なるほど、写経をする人の多くは、その経文の記すところを正確厳密に理解しようとしているのではなく、ただひたすら無心に書写の行為に没頭し、そこに心の平安が生まれる。所願成就の利益があると信じる人にとっては、尚更であろう。しからは「自炊」の功德は如何にというところ、死蔵覚悟で揃えた書物が、たとえ一時なりとページを繰られ、数瞬の再評価の機を与えられたことくらいで、心の平安などは、写経に比するほどのものもない。

気がつけばすでに万余の書物が裁断機の刃の露と消え、それらはファイルサーバの中に、実体のない亡霊のような姿で並んでいる。これほど刻んでも、一向に蔵書が減った気配のないことが、僅かに心の平安をもたらしているのは、皮肉なことである。



教育成果を高める

教務部長 小野田欣也

教育成果の重要性

日本は現在、専修学校を含む高等教育機関への進学率が八十%程度、学士課程教育を提供する大学（学部を有する四年生大学）への進学率が五十%程度となっております。二十五年前、保護者様が高等教育を受けられた時代にはそれぞれ五十%、三十五%程度でありましたから、一段と進学率が向上しております。一部には現在の大学進学率の水準を過剰とする見方もありますが、世界を見ると北欧諸国は七十五%以上、アメリカは六十五%程度、韓国は六十%程度であり、日本は、現在経済危機が話題となっているギリシャ、スペインと同程度で、OECD（経済協力開発機構、いわゆる先進国）平均を下回っております。若年人口の過半が高等教育を受け、今後ますますその傾向が高まる、というのが現状です。

大学は、大学の理念に沿った学生を募集し、高等教育を実施し、問題解決能力を有する二十一世紀型職業人として社会に送り出すことを目的としております。いわば大学を「入口」、「中」、「出口」にたとえると、「入口」は入学センター、「中」は教務部・学生部、「出口」はキャリア・サポート・センターがそれぞれ主管しております。しかし「中」、すなわち学士課程教育の成果が「入口」や「出口」に大きく影響することから、その編成や実施の重要度が増しております。

大学の目標も近年大きく変化しております。従来のように多様化するニーズに応じて高い教育を提供するという立場から、職業人としての基礎能力を高め、課程教育の質や成果を保証するという方向へシフトしております。例えばシラバス一つを見ても十年前と比べて、到達目標（この授業を履修することにより、どのような能力が獲得できるか）の説明、半期十五回の厳密な授業計画の提示、準備学習（予習と復習の仕方）の明示、平常点二十%、小テスト三十%、定期試験五十%など評価方法の明確な説明など、成果の保証とそれに至る道筋を明記しております。成果の目に見える指標の一つは資格であり、解りやすさの点で学生の資格志向も高まっておりますが、職業人の能力は資格のみで評価されるものではありません。業務の課題や問題を解決する上で、情報を収集し（情報収集能力）、分析し（分析力）、判断する（論理判断力）ことが重要であり、総合政策学部での基礎教養科目や専門科目の受講を通じて確実に高まっております。

学士課程教育のガーディアン

大学にはいろいろな部門がありますが、先ほどの「入口」、「中」、「出口」の話との関連で学生が多く接しているのは入学センター、教務部・学生部、キャリア・サポート・センターです。四年間の学

園生活に限ると教務部・学生部の役割が重要です。教務部は文字通り学生の教育に関すること、学士課程教育の構築と運営（科目履修時間割管理、進級卒業判定、進路指導、学習アドバイスなど）を担当し、学生部は教育を除く学生生活全般（キャンパス施設運営、クラブなど課外活動、下宿などの住環境支援、学生事故に対する対応など）を担当します。ここでは教務部の活動に話しお話しいたします。

教務部は教員組織としての教務委員会と、事務組織としての教務課が存在します。一般的な大学では教務委員会が大学教育に関する立案審議機関、教務課が運営機関ですが、当学部では教員もオリエンテーションなど教育関連の運営に携わり、事務部門も立案に参加するのが特徴的です。

しかし、学生が学士課程教育を順調にこなしてゆく上で、教務部だけがそれを支えているだけでは十分とは言えません。総合政策学部では学部理念たる「Person to Person」の教育のもと、全ての教員と事務が一丸となって学生を見守っております。いわば学部の教員は学部学生のガーディアンであります。

平成二十二年度より、一年配当科目のプレゼミナールは必修科目となりました。また平成二十三年度より二年配当科目の基礎演習に全員登録が義務づけられました。三、四年の演習（ゼミナール）は選択科目ですが、演習に参加しない学生は演習とは別の形で教員全員が指導しております。こうして全ての総合政策学部生は一年から四年までの学士課程教育の全期間を、教員が見守る中で過ごします。いわば総合政策学部生である限り、守られなくてよい人はいないわけです。現代の大学教育は教育成果が重視されますことから、授業への出席確認や理解度確認のための小テストが、ほとんど全ての講

義科目でも実施されています。科目によっては授業への出席状態を、学期末試験の受験条件としているケースもあります。昔のように、授業はあまり出席していなくても、学期末試験で一発逆転を狙う、という試みは不可能なのです。

授業半ばであきらめる人の特徴は、授業欠席↓不登校↓単位不足↓留セメスター↓退学、の流れが一般的です。少しの欠席の連続が続くとやがて退学に至ってしまう恐れがあり、教員はこの流れを早く発見することが重要です。特に一年生はまだ大学生活に不慣れなことから注意が必要です。特に一年生はまだ大学生活に不慣れなことから注意が必要です。昨年度からプレゼミナール担当者による「プレゼミ担当者会議」がほぼ毎月実施され、個々の学生の状態が細かく連絡されております。語学や基礎教養など必修科目を中心に学生の単位取得・出席状態が集計され、一年生はプレゼミナールで、二年生は基礎演習で、三、四年生は演習や演習未受講者の特別指導で、それぞれ学生への指導が実施されます。また、集計結果を基に教務委員会で、個別学生の保護者様に対し「注意」や「警告」という喚起を文書でお知らせしております。

退学の事由は教科だけの問題にとどまりません。経済的事由や生活面での問題など、またそれらが複合的になった事態もあります。学生の問題点を識別するために、教務部だけで無く学生部との連携が重要です。昨年度からは退学者の減少を目指して教務・学生委員会合同の中退者対策会議が実施されております。

このように総合政策学部では教育成果を高めるために、教職員が一体となって活動しておりますが、保護者の方々にもご家庭において一層のご支援をお願い申し上げます。



キャンパスにおける 絆作りを目指して

学生部長 原田奈々子

キャンパスには様々な居場所があります。学生の皆さんにとっての居場所としてまず思い当たるのは、講義の教室です。そのほかに想像されるのは、生活の場である学生食堂などでしょうか。では教員はどうでしょう。教員の居場所は、学生と同じように講義の教室。これは学生の皆さんと同じ空間を共有するものです。その他研究室があります。当学部における講義の多くはF棟の教室が割り当てられており、学生と教員とがシェアする居場所はF棟の教室です。また総合政策学部の教員の研究室はG棟にあります。

居場所とは、講義の教室など特定のスペースといった物理的なものを指すだけでなく、その所属する場、心のよりどころとなる人と人との関係をも含むものです。総合政策学部は、右のような物理的な場だけでなく、正課正課外を問わず、さまざまな居場所を学生の皆さんに提供しています。

正課においては、通常の講義だけでなく少人数制によるプレゼミナールがあります。プレゼミナールは本学部に入學したばかりの一年生が高校生から大学生へと自然に移行することができるように、担当の教員と少人数の学生達とが比較的近い距離感でお互いの関係

を作っていくための仕組みです。この場に大学生活で最初の居場所を作り、次なる居場所へと関係の輪を広げていく学生さんも少なくありません。二年生以上になると、基礎演習やゼミナール(研究会)といった、勉学の要素を媒介とした関係を取り結ぶ仕組みへと変化していきます。

正課外では、クラブや同好会といった同様な関心事をお互いにシェアする場があります。現在総合政策学部・外国語学部の公認クラブ・同好会は五〇を超え、これらに加入する学生は、延べ人数で一〇〇〇名を超えています。これらの学生達もそれぞれの場で居場所を作り、大学で活動しています。

大学のキャンパスに自分の居場所(活躍の場)がある、このような環境は日々の大学生活をより一層有意義なものにします。したがって総合政策学部においては、こうした正課、課外を問わず、学生の皆さんにはキャンパスにおける自分の居場所を見つけてもらえよう、さまざまな活動への積極的な参加を奨励しています。

しかしながら他方において、最初の居場所と定めた場での日々の生活の中で、上手に他の学生との関係を取り結ぶことができなく

なったり、またうまく居場所を見つけないことができなったりすることもあります。そうなるただ講義に出るために大学へ登校し、一日中誰とも接することなく、講義が終われば下校するという毎日が繰り返され、キャンパスに教員や友達との交わりの楽しみがないため、学外にそれを求めて（それ自体は決して悪いことではありませんが）、自然と大学に行くのが億劫になったり、入学時は大きな興味を抱いていた講義も色褪せて見え関心が急になくなってしまふことは往々にしてあることです。

そこで八王子キャンパスでは、講義、ゼミ、プレゼミ、クラブ同好会活動以外にも、学生の皆さんの居場所となりうる参加の場を設けています。以下、そのいくつかを紹介いたします。

総合政策学部には、卒業アルバムや卒業パーティといった卒業準備のための活動を学生の皆さんの手によって行う卒業準備委員会という特別公認団体があります。これは次の春に卒業する四年生が準備委員長を務めるものですが、他の準備委員は四年生を送り出す側として、三年生以下の学生さんの参加を歓迎しています。

また学部横断的な組織として、キャンパスにおける一大イベントである学園祭の企画・準備を行う杏園祭実行委員会がある他、学生支援センターが主催するキャンパス内のクリーンキャンペーンや社会見学、キャンパスグッズの企画・実施を担当する学生は常時募集されています。ここには学部・学年を問わずたくさんの学生さんが参加し、自らの居場所とするとともに、またさまざまな活動を通して、企画力・運営力を発揮しています。

イベント企画・実施を目的とするもの以外にも、キャリアサポートセンターでは、公務員試験や警察官試験を合格するための受験サークルを立ち上げ、ここにも多くの学生さんが参加しています。

また本年度四月から、教職員も各部署や研究室などのホームポジションを飛び出し、学生の皆さんのニーズが高いテーマをレクチャーする「八王子キャンパス学生塾」が立ち上がりました。

こうしたさまざまなキャンパス内の活動は、学生さんの皆さんにできるだけ多くの居場所を提供し、そこでそれぞれのテーマに即した活動を通じて、教職員と学生の皆さん、学生同士の絆を育むことを目的としています。多くの学生さんにこれらの活動に参加してもらい、本学八王子キャンパスにおける学生生活を有意義なものにしてもらいたいと願っています。

学生の皆さんにはほんの小さな一歩を踏み出して欲しい。そうすれば、八王子キャンパスにはさまざまな体験ができる可能性がそこかしこにあります。ご父母の皆様には、ぜひお子様方にこうしたさまざまな活動への参加を促していただければ幸いです。今後ともご理解とご協力を、切にお願いする次第です。





キャリアサポートセンター長 からのメッセージ

キャリアサポートセンター長 豊島 典雄

就活は一生の大事

デフレ、リーマンブラザースの破綻、外国人の採用拡大で、大学の就職戦線は就職氷河期を上回る厳しさが続いています。さらに、東日本大震災、福島原発の事故もあり、事態はより厳しさを増しています。今年春の卒業生についても四人に一人は進学も就職もできなかつたとも報じられています。

昨今の不安定な経済状況を反映してか公務員関係の採用試験は警察官を含めて難易度が上がっているようです。就活は四年生になつてから慌てて取り組んでもとても間に合いません。

正社員になるか、非正規社員かでは待遇に大変な違いがあります。フリーターの生涯賃金は正社員の三分の一であり、婚姻率も半分です。

また、企業研究を怠ると入社後に、「こんなはずではなかつた」というミス・マッチを起こし退職になる場合もあります。入社後三年で、中卒の就職者で七割、高卒の就職者で五割、大卒の就職者で三割が退職するといわれてきましたが、今は大卒の退職率は四割といわれています。未就職状態で卒業し、卒業後再チャレンジを期しても常勤での内定確保は難しいのが現実です。

民間企業は意欲的な外国人の採用を増やしていますが、今後さらに増やすと伝えられています。就活も国際競争です。「就活の勝ち

組」になるには早め早めの対応が必要です。就活は一生の大事です。先手必勝です。備えあれば憂いなしです。

一つ燃えたものを

まず、大学生の志、計画的な努力が求められます。

就職活動では一人一人の大学生の学生生活そのものが問われます。「学生時代に一番力を入れて取り組んだものは何か」などと面接で聞かれます。武道、スポーツ、語学検定、国家資格であれ、学内の講座であれ、必死で取り組んだものを一つ言えなければなりません。就活の時期になってから気づいたのでは間に合いません。汗は結果を裏切りません。努力は報われます。

先手必勝

大学生には、入学直後から、キャリアサポートセンターを利用して就職マインドを高めて欲しいと思っています。強力な味方になります。センターでは①、警視庁などの官庁や企業を訪ねて業務の説明を聞く見学会の開催。②、官庁や企業の担当者に大学に来ていただいての業務説明や採用情報の提供。③、公務員関係講座、マナー指導、面接指導などの各種講座の開催。④、インターンシップ（就業体験）授業への支援。⑤、警察研究会、就職研究会という就職支援サークルの設置——など様々なメニューを提供しています。十分活用していただき準備怠りなきようにと期待しています。

学力の向上を

もちろん、企業等の説明会が開始されるまでにどれだけ学力を向上させるかも大事です。その季節になれば、毎日のように就活に走り回ることになります。学力向上はその場になってからでは遅すぎます。特に、公務員を目指すなら、授業への真摯な取組と同時に入学時から学内公務員関係講座への参加、ダブル・スクールは必須です。

就活の武器 “インターンシップ”

就活への備えの一つとして欠かせないのがインターンシップ（就業体験）の経験です。就活の必須アイテムとなっています。敵を知り己を知れば百戦危うからず、です。

このインターンシップとは、学生が一定期間（概ね十日間）、官庁、企業などで研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行う制度です。職業意識を確立し、勉学や就職活動への一層の意欲向上を計るものです。春 semester の「インターンシップⅠ」という授業は、企業や官庁での研修に携わっているベテランコンサルタントによる講義、グループ討議、ロールプレイなどで構成される実践的な授業です。

夏休みに行うインターンシップに参加できるように、主としてビジネスマナーが身につくことを目的としています。

総合政策学部のインターンシップⅠという授業は三年生を中心ですが、二年生も受講できます。

社会の常識に合わせる

言うまでもないことながら、無断遅刻・欠席は認めず出欠は毎回厳しくチェックし、服装、頭髪なども指導しています。ホーレンソウ（報告・連絡・相談）を特に重視します。

大学の常識ではなく、厳しい社会の常識に合わせるように繰り返し強調しています。

以上の事前講義をクリアした者のみをインターンシップ先に送り出すので、受け入れ企業などからは好評を得ています。

この夏は六十人の学生が武蔵野市、八王子、三鷹市、立川市役所などの市役所、大手書店、テレビ局、薬の卸、デパート、旅行代理店、ホテル、車のディーラー、外食チェーン、行政書士事務所、自動車教習所、介護施設、病院、杏林大学等でインターンシップを行いました。

夏休みのインターンシップを終えると九月末から秋 semester の「インターンシップ体験報告会」（インターンシップⅡ）を実施します。インターンシップで何に気づいたか、学んだかを発表してもらいます。

就活の前に就業体験は「常識」になっています。ご子弟にこのインターンシップ授業の履修を進めて欲しいと思います。

ご家庭の支援も

大学生の取り組み、大学の取り組み強化とともに、ご家庭でも、ご子弟への指導をより一層強めていただき就活に勝利したいものです。

そのためには、社会の常識に適合するよう生活習慣を改革するよう指導していただきたいものです。①、早寝早起きのリズムを確立する。②、朝起きたらNHKなどのニュースに耳を傾け、新聞にじっくり目を通す。③、挨拶やホーレンソウ（報告・連絡・相談）の習慣を身につける。

また、親子の対話も重要です。食後などに大きなニュースや就職難、企業や官庁が求める人材像などを話題にしたりして、ご子弟の視野を広げていただきたいと思います。

就職氷河期をも上回るといわれる就職難に打ち勝つには、大学生本人の高い志、早め早めの対応と同時に、大学、ご家庭の強力な支援が必要です。

キャリアサポートセンターの紹介

キャリアサポートセンターでは、学生の皆さんの就職支援やキャリア形成支援など卒業後の進路選択や自己実現のためのバックアップを行っています。

学年に併せた各種プログラムを備えており、一年間の支援スケジュールについては「学生ハンドブック」に掲載し、四月のオリエンテーション時に学生全員に周知をしています。

個人面談・進路相談

当センタースタッフが学年を問わず個人面談・進路相談を行います。面談を通じて適切なアドバイスができるよう体制を整え、学生の進路や就職活動をバックアップしています。大学に来ることができない場合窓口以外での相談も受け付け、また担当する学生には進路が決まるまで、模擬面接訓練やメールでのやり取りを続けるなどきめ細かいサポートを行っています。

一人で悩まずにどうぞ気軽に相談をしてください。

ジョブスタディ（社会見学）

学生が直接企業へ出向き、実際に働く現場や働く姿を見学することで、「働くこと」に興味・関心を持ち、将来の進路選択に役立てるために、企業の協力のもと実施しています。

例年夏休みを利用して、公務関係を始め、ホテル・金融・商社など十企業（施設）を訪問しますが、昨年度は学生の強い要望もあり、夏に加えて春休みにおいても実施しました。

学内合同企業説明会

学内合同企業説明会では、杏林大学八王子キャンパス内において採用実績企業・地元企業はもとより、各業界より採用意欲の高い企業を招いて、学生と企業の出会いの場を提供しています。

厳しい就職環境を受け、昨年度は四年生を対象にした企業説明会を、前年の二回から四回に増やして一八五社を招いて実施したところ、延べ五九六名の学生が参加をしました。この説明会をきっかけにその後の採用試験受験の機会をもらい、内定を得た学生も多くなります。

警察官受験サークル

警察官を目指す方に

各都道府県の警察官を目指す学生を対象としたサークルです。仕事紹介、職場見学により警察官の仕事を理解することをはじめ、試験合格に向けた受験参考書の選び方、サブノートの作り方などの勉強方法の伝授、過去問題、時事問題等の学習を支援します。また、当センターの専門スタッフによる相談やきめ細かい個別指導に加え、試験前には論文の添削、面接試験対策などを集中的に行います。



ジョブスタディ
(日興コーディアル証券→東証見学)



警察官受験サークル

就活サークル

民間企業への就職を目指す方へ

民間企業への就職活動の準備に加え、働く上で何を大切にしているかを考えるサークルです。当センターが独自に開発・作成したツール「キャリアポートフォリオ」を活用しながら、学生が主体的に目標を設定し、その達成へ向けた取り組みや振り返り、目標のグレードアップを図り、着実に成長していくことを目指します。また、当センターのスタッフや教員の協力を得ながら適切な支援・助言を行い、民間企業への就職を力強くバックアップしていきます。

先輩紹介 「故郷の力になろう」

「故郷の力になりたい」という志をもって卒業していった先輩方のいまを紹介します。

下田浩貴さん（二〇〇八年度卒、馬田ゼミ）は、出身地である群馬県のもつ魅力を発信する仕事につきたいと、地元高崎の広告会社に就職しました。今年、下田さんが制作したポスターが、みごとにコンペを勝ち抜き「群馬デザインネーションキャンペーン」の公式ポスターに採用されました。ドステイネーションキャンペーンとは、全国のJR六社とその年に選ばれた自治体が共同で行う大型観光キャンペーンです。下田さん制作のポスターは、七月から



群馬デザインネーションキャンペーン
公式サイトより <http://gunma-dc.net/>

九月の三カ月間、全国の主要なJR駅構内に掲示されたほか、公式パンフレットや公式ホームページのトップ画面にも採用されました（写真）。子供たちの最高の笑顔をテーマに群馬県の各所をめぐる撮影された作品は、故郷の魅力を伝えたいという下田さんの情熱の結晶です。現在は、JR高崎駅ビルのインテリアや、駅ビルでのイベント企画などを行っていて、大学時代にキャリアアサポートセンターの資格講座で学んだ色彩コーディネーターの知識も仕事に役立っているそうです。

岩淵茂宏さん（二〇〇七年度卒業生、野山ゼミ）は、宮城県東松島市の出身。

環境福祉コースで学んだ知識を活かし、人びとの日常の健康を支えたいと、地元の大手ドラッグストアチェーンに就職しました。三月一日の震災当日は、石巻で営業中でしたが、津波のなかを見知らぬ方に声をかけられ、建物の二階に引き上げられて難を逃れたそうです。しかし、営業用の車やトラックは流され、宮城県内では三店舗が全壊し閉店を余儀無くされました。医薬品のほか粉ミルクやおむつなどの必需品を扱うドラッグストアには、早期の営業再開が求められました。インフラや物流網がなかなか回復しないなかで、大変な苦労があったそうです。この九月、震災から半年を節目に、心機一転、人材サービス会社に転職しました。震災とその後の混乱のなかで多くの人が仕事を失い、また同時に、企業も多くの働き手を失っています。今、復興が徐々にすすむなかで、人材に対するニーズは高まっているそうです。人と人、人と職場を結びつけて新しい「絆」をつくる仕事にとってもやりがいを感じているそうです。

野山先生へ「先生の教えを守り、朝ごはんを食べています！体重も回復してきました、元気でがんばっています！」との伝言がありました。（インタビュー・文責 木村有里）

デンマーク

講師 加藤 拓

私は二〇〇四年八月から二〇〇五年七月まで慶大商学研究科の交換留学生に選抜されデンマークのコペンハーゲン・ビジネス・スクールに留学しておりました。私の遠い祖先は北欧出身で（大きな声では言えませんが今のノルウェー付近で何か悪いことをしていたそうです）、北欧諸国は特別に関心のある土地でした。

物価の高さや天気の変わりやすさなど驚くことの連続でしたが、最も苦勞したのはデンマーク語でした。事前に聞いていた話とは異なり、英語は一部の人が話す程度で街中の様々な表示、役所からの通知等はすべてデンマーク語でした。九月から *Studioskolen* という語学学校の夜間クラスで週3日×三時間、サバイバルのためにデンマーク語を勉強していました。外国人のデンマーク語力については国によって六つの *Module* (ランク) が定められており、筆記と面接の検定試験があります。留学中、私は下から二つ目の *Module 2* まで行きました。ちなみに居住者は受講料が全額免除されます。

多くの皆様には馴染みの薄い言語と思われるので、印象に残ったフレーズを紹介しつつ、関連した体験談をお話しさせていただきます。

Denmarkで最初に覚えるべきフレーズで「生ビールの大をください」という意味です。Ølはビールの意味。Denmarkはビールが安く、*Carlsberg* が世界的にも有名ですが、現地では *Tuborg* というブランドも人気があります。ビールについては「安いビールを求めてスウェーデン人はDenmarkへ、Denmark人はドイツへ、ドイツ人はチェコへわざわざ出かけます」という小話があります。

Jeg skal have stor fædøl. (発音：ヤ・スカ・ヘ・スト・フェドゥ)

もののサイズはLが大、Sが小と思いがちですが、Denmarkでは反対で、Sが *stor* で大、Lは *lille* で小という意味です。コーヒーショップで節約のため小を頼もうとSと伝えると大が出てきてしまい、変えてくださいとDenmark語で言えずにとても悔しい思いをしたことがあります。買い物の際には注意が必要です。ビールにちなんで乾杯は *Skal* (スコー) です。Denmark語では語尾は発音しません。

お茶を飲みに行きませんか？ いいえ結構です。家に帰ります、というフレーズ。その教科書によれば、Denmark人は家と職場の往復が日課で、近所のスーパーマーケット（夜7時には閉まってしまいます）を除けば途中でどこかに立ち寄ることはほとんどありません。Denmark人は用事が済むとすぐに帰ってしまふと感じたところに学んだフレーズで、なるほどと思いました。夜9時には繁華街の *Strøget* も人通りがほとんどなくなります。

Vi du med på kaffe? Nej, tak. Jeg skal hjem.

(発音：ヴィ・ドゥ・メツ・パ・カフェ？ ナイ・タック・ヤ・スカ・イエム)

これはスカンディナビア独特の言葉で温もり・心地よさなどの意味があります。それが転じて、友人や家族、親類を自宅に呼んでお茶やお酒を飲みながら共に時間を過ごす習慣を *Hygge* と呼びます。なぜそれがDenmark独特のものなのか最初はまった

Hygge

(発音：ヒューゲ)

飲みながら共に時間を過ごす習慣を *Hygge* と呼びます。なぜそれがDenmark独特のものなのか最初はまった

have はハブではなく「へ」です。

く分かりませんでした。

デンマークの冬は夜がとても長く、朝9時になってもまだ真っ暗で、ようやく薄っすらと空が明るくなってきたと思つたら、昼過ぎには太陽が沈んでしまいます。私はこの環境に慣れることができず、気が滅入り、何もする気がなくなる日が続きました。困り果てて大学のカウンセラーやデンマーク人の友人にそのことを話すと、「冬の間、デンマーク人はみんな気が滅入っていますよ。あなたは正常ですよ」と明るく言われました。その後、その友人が自宅に呼んでくれて、それが自分にとって最初のHyggeでした。

デンマーク人の特徴として「デンマーク人の心は氷で覆われていて、それが溶けたと思つても、翌日はまた氷で覆われている」という表現があります。なかなか他人と打ち解けないということを意味するようで、実際、最初はなかなか友達ができませんでした。しかしその氷が完全に溶けると、大変親切で、温かい人達でした。

間接照明とロウソクの炎の下、暗く長い冬を楽しむかのようなHyggeの雰囲気を楽しむ、やっとその言葉の意

味が分かりました。デンマーク到着から三ヶ月後のことで、これで長い冬を乗り切れると思つたものでした。Hyggeに因んで最後はデンマークのあるデザートについて。

Rødgrød med fløde

(発音：表記不可能)

ラズベリーを粥状に煮つめたものに生クリームをつけて食べるのですが、問題はその発音の難しさにあります。以下、お試しください。最初のrはガラガラとうがいをするときの音に似ています。rの発音練習を何度もやると上あごの辺りが腫れてきます。三つ含まれているøは、汚い表現で恐縮ですが胃の中のものを吐き出すときのオエという音です。恥を捨てて思い切り発音しないと通じません。これまた三つあるd。これは英語と異なり舌の先を下の歯の裏につけて息を吐き出して発音します。外国人は何度も練習させられるため、なかなか食べさせてもらえない恐怖のデザートです。こ



の難解な発音は冬に気温がマイナス10℃くらいになり、寒さでくちびるが動かなくなるとありがたさ(?)を痛感します。

帰国が近づくころは夏至祭がありました。日本では夏至を祝う習慣はありませんが、冬とは違って変わって夜中の一時まで明るい、短い夏を楽しむデンマーク人の明るい表情が印象的でした。

と、まだまだ話したいこともございますが、今日はこの辺で。

Tak skal du have! (発音：タック・スカ・ドウ・へ、ありがとうございました、の意)

タイ

准教授 木村 有里

〈タイは未開の地?〉

私をはじめタイを訪れたのは、いまから三〇年以上も前のことです。当時は、「タイに行きます」と言うのと、「え? タイワンに行くの?」と聞き返されるくらいタイはまだ日本人には馴染みのない国でした。そして、私達家族が赴任することになるその国が、東南アジアの一国なのだとわかると、まるで未開の地に送られるかのような同情と心配をうけたものです。実際、その頃のタイはまだ医療・衛生のレベルも低かったので、出発の三ヶ月前からコレラだのマラリアだの予防注射をたっぷり打たれました。私達家族が羽田空港から出発する際には、父の上司や同僚、親戚一同が総出で見送りに来てくださり、出征兵士さながらに万歳三唱のうちに送り出されたのです。それだけ、タイは遠い国だったのですね。

父は開発援助のプロジェクトに携わっていましたので、駐在先は首都バンコクではなく、タイ東北部にあるコンケンという街でした。東北部は農村地帯で、たびたび旱魃や洪水に悩まされておられ、タイのなかでも貧しい地域です(今でも、キックボクサーとマツサージガールは東北出身者が多いのです)。街にアスファルトの道路はありません、車もたまにしか通りません。

赤い土の畦道をアヒルや水牛、ときどき象がのんびり歩いてるよ。うなところでした。私はお友達と蝶々をつかまえたり、そこらになつてゐるマンガーやバナナ



屋台の食事は安くて美味しい



タイは象の国でもあります、国立の象トレーニングセンターにて

をもいだり、南国の色とりどりの花で花輪をつくったりして遊んでいました。南国の木からは樹液がたくさん出るので、気をつけなければなりません。樹液が手につくと、ひどくかぶれてしまうのです。ですから、私はしょっちゅう近所のおばさんにタイガーバームを塗られていました。

しばらくして、私は六歳でしたが、現地の小学校に入りました。もちろん最初はタイ語がよくわかりません。でも大丈夫、子供の頃はテレパシーと身振りでも通じるものなのです。

一度だけ、「トイレに行きたいのだけど紙がほしい」という内容を伝えることができなくて苦労しました。伝統的にタイのトイレには紙がありません。水がめから柄杓で水をすくって上手に

流す手動ウォシュレットなのです。クラスメイトも先生も私が「何を」ほしいと騒いでいるのかまったく想像もつかなかったようで……六歳の人生最大のピンチでした。

実は、コンケンには帰国後、一度も行ったことがありません。現在は、北島先生がコンケンを研究拠点にしているらしいですが、お話しを聞くとずいぶん発展しているようです。でも、私はあの楽園のような場所の記憶を書きするのが怖くて行けずにいます。

〈タイふたたび〉

小学校三年生で帰国してからは、勉強や部活に追われてタイのことなど思い出す暇もありませんでした。タイ語もすっかり忘れてしまいました。とこ

ろが、センター試験の終わった後に「さて、この点数で入れる大学はどこかなあ」と一覧表を眺めていると、ふと東京外国語大学東南アジア学科の文字が眼にとまり、「いいじゃん！」という感じで選んでしまい、再びタイ語を勉強することになったのです。

外語大では、学生は学期中にせっせとアルバイトをしてお金を貯めて、休みに入ったとたん蜘蛛の子散らすように世界中に出て行き、休み明けに海外での武勇伝を披露しあうというのが伝統でした。私も、アルバイトを二つ三つ掛け持ちしては、休みのたびにタイに行き、そこからバスや鉄道で各地をめぐり国境を越えて近隣国を旅したものです。

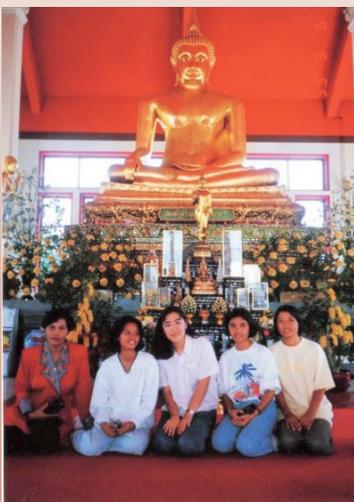
バンコクには「バックパッカーの聖地」とよばれるカオサンという一角があつて、安食堂、Barと旅行社、それに一泊三〇〇円くらいの安宿が立ち並んでいて、世界中から旅人が集まっています。旅人はみんな小さなノートを持っていて、現地の言葉や、旅の情報、詩や日記を書きとめています。☞mailなどない時代でしたから、知り合いになるとお互いのノートに住所を書きあうのが儀式でした。そして、「また今度は私の国で会おう！」と言って別れるのです。スウェーデン、

ナイジェリア、スペイン、イスラエル……タイにいながら、ずいぶんいろいろな国に友達ができました。

両親からは、「危ない所にはいかないで」と懇願されていたのですが、若い時はそんな事を聞くわけありません、場所も時間も関係なしで飛び回っていました。一度、深夜のクラブでマフィア同士の喧嘩がはじまり、店内に銃声が響き、映画のようにみんながキヤーと叫んで地面に伏せたときには、血の気が引いて失神寸前に……二二歳の人生最大のピンチでした。旅のなかで出会った人には、本当に親切な人もいれば、騙そうとする悪い人もいます。ものすごく美味しい食事にありつけることもあれば、下痢で泣きそうな日もある。毎日が超ラッキーと超ピンチのくり返しです。そんな中で、だんだんと自分の限界を知り、安全と危険を見極める力をつけることができました。旅から学んだことは本当にたくさんあります。いま、この年齢であの頃と同じ旅ができるかと言われればもう無理です。学生時代だからこそ可能だったのですね。

現在、タイと日本の間には一日に三〇便もの飛行機が往来しています。バンコクにはコンビニはもちろん、大戸屋からCoCo。一番までありますから何

の不自由もありません。その一方で、アジア的なイメージングな部分もすっかり残っています。航空券代も滞在費もとても安いですからね、学生にはオススメの行き先です。是非、みなさん長いお休みには海外へ出かけてみてください。私はいつでも旅の相談にのりますが、もちろんその時は「危ないところには行かないで」と言うと思います。



友達とお寺詣り、大学1年生の頃



タイ随一のパワースポット「ドイステープ」

カナダへの無鉄砲旅行

講師 木暮健太郎

「二六歳までに一人で海外に行かなければ、一生、その経験をする事はない」。沢木耕太郎の『深夜特急』に出てくる台詞です。私はその時、まさに二六歳でした。一人でカナダに行こうと決心したきっかけの一つです。

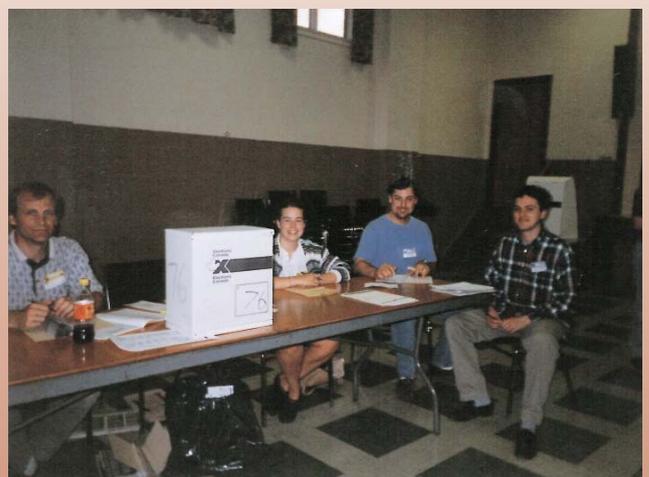
フライトと宿泊の予約を済ませ、ユナイテッド航空でシカゴを経由し、トロントへ向かいました。トロント空港からのシャトルバスでダウンタウンに向かうと、すでにあたりは暗く、宿泊先のYMCAがなかなか見つかりません。治安の良いカナダでも、さすがに怖くなって、開いている店に飛び込んだことを懐かしく思い出します。こうして、一九九七年の選挙を視察するという無鉄砲きわまりない私の「弾丸ツアー」がはじまりました。

カナダとの出会い

カナダを研究してみようと思ったのは、単純な理由でした。大学院に進学すると、私の指導教員から、どこかの地域を対象に研究をスタートさせてみたらどうか、というアドバイスがありました。その頃、カナダで選挙が行われ、与党であった進歩保守党という政

党が、前回の一六九議席から、たった二議席になるという衝撃的な結果が起きました（ちなみにカナダではよくこうした大きな変化が起こります）。途上国ならまだしも、なぜ、先進的な民主主義国でこのような出来事が起こるのだろうか。政党や選挙について研究したいと考えていた私は、迷わず、カナダについて調べてみようと思いましたが。

一九九七年七月に選挙が行われると知って、私は現地で選挙を視察したいと考えはじめました。必死で渡航費をかき集め、当時のアルバイト先も説得し、一〇日ほどの日程を確保しました。ちょうどその時、カナダ政治を研究されている大東文化大学の加藤普章先生が、首都オタワにあるカールトン大学に客員教授として滞在されていました。私は無遠慮にも、日本から手紙を出し、ぜひお会いしたいと伝えました。加藤先生は、勢いだけの若者を快く受け入れて下さり、滞在先のホテルでは先生の手料理までご馳走になりました。選挙の当日、私は投票所へと向かいました。投票所のスタッフたちに、観光ではなく、日本からわざわざ選挙を見に来たのだと伝えると、そろって驚



きの表情をされましたが、投票所の中に招き入れてもらい、写真の撮影も許可してもらいました。日本では小学校などが投票所ですが、カナダでは教会が投票所となっており、文化の違いを垣間見た気がします。せっかくの機会でしたので、投票所を出てくる人たちに「突撃インタビュー」を試してみました。ぶしつけにも、「どの政党に投票したか」と聞きましたが、彼らはとても丁寧な、そして親切にも投票した理由まで答えてくれました。もっと事前準備をして、きちんとした調査ができ

れば良かったと後悔することもありますが、私のゼミで出口調査をするようになったのは、この経験があったからかもしれません。

思いがけない出来事

もちろん、少しだけ観光も楽しみたいと思い、フランスの雰囲気をもつ都市、モントリオールを訪れました。街並みもきれいで料理もおいしく、すばらしい場所です。ちょっとした事件にも巻き込まれ、さらに忘れられない街になりました。

オタワからバスでモントリオールのターミナルに到着し、一休みしていると、体の大きな係員からいきなり、「Get out here!」（出て行け!）と叫ばれました。わけもわからず戸惑っていると、周囲の人も皆、同じようにターミナルから外に出されています。理由を聞けば、ターミナルに爆弾をしかけた（!）という電話があったというのです。後にイタズラだったと発覚しましたが、旅先でテロ未遂事件に遭遇するとは、思ってもみませんでした。騒然とする状況を眺めている間、ターミナルで働いているイタリア系移

民のカナダ人と知り合いになりました。ニコレッタさんという方でしたが、しばらく仕事に戻れそうもないので、その間、モントリオールの街を案内してくれるというのです。イタズラの爆弾事件がなければ、出会うこともなかったでしょう。とても素敵な経験でした。私のカナダ旅行記のような話になってしまいました。話を戻しましょう。カナダ政治の研究は、今でも日本ではマイノリティであり、決して活発ではありません。しかし、日本と同じ議院内閣制であり、選挙制度も小選挙区制

を採用していますので、アメリカとの比較よりも、類似点は多いと思います。カナダという国を通して、日本を見てみることで、何か新しい発見があるのではないかと感じています。

いつか、大陸横断鉄道で東海岸から西海岸まで、ゆったりと旅を楽しみたいとも思っています。みなさんも機会があれば、ぜひ、カナダを訪れてみて下さい。きっと暖かく、やさしいカナダ人たちが迎え入れてくれるはずですよ。



海外合宿を通じて学ぶ事

准教授 渡辺 剛

小職のゼミナールに於いては、毎年夏に海外合宿を行う慣行があります。その際に心がけている「目標」をご紹介します。と思います。

1、良き観察者たれ…出発前に、現地に関する情報を事前学習する事が重要なのは云う迄ありません。しかし、それら

の情報は、権威の有る書籍や報道であれ、いかがわしい風説であれ、全て「誰か」が取捨選択し加工したものです。事前情報を参考にしつつも、実際に自分の目で見て皮膚で感じたことに基づき、それらを検証することが肝要です。偏見や予断を排して、真実を見逃さない鋭い観察眼は全ての正しい行動指針の第一歩です。

2、異文化耐性をつける…海外で戸惑うのが、食生活と生活習慣の違い、所謂「異文化」でしょう。異文化の中で過ごす事によって、自分とは異質の人々や環境に対する「耐性」、即ち大概の事では動じない逞しさと大らかさを身につけることができます。それは、新しい環境や人間関係への適応力、そして価値観の異なる同僚や取引先との協働といった、実社会で生き残る力の基礎となります。

3、日本の矜持発見…現在日本は色々な意味で自信を喪失し、呻吟しています。しかし、海外に出かける事で、日本のイメージの良さ、日本人の相対的民度の高



さ、社会システムの高度さを再発見し、日本の「底力」を改めて実感することができます。現地との比較を通じて、日本と日本人の矜持を回復することができます。この矜持は、これから先、日本社会を背負う学生達に必須の心の支えとなるでしょう。

これらは、学生達が将来国際社会活躍する際には勿論、日本国内で社会人となる際にも役立つスキルであると考えておられます。



鉄道の旅

准教授 岩隈 道洋

このところ少々ブームは去ったようだが、俗に「鉄ちゃん」「鉄子」あるいは単に「鉄」と呼称されるグループの人々が存在することがよく知られるようになった。私も広い意味ではこの「鉄ちゃん」に含まれるのだろうとは思いますが、実は最近いささか自信が持てないでいる。その理由を説明してゆくと、一般的な「鉄」の生態と、私のそれとの偏差（ズレ）を指摘することができ、今回の課題である「私の趣味」を語った（騙った？）ことにもなるのかと思う。

「鉄ちゃん原体験」

かつて、実家のある札幌から祖母の家がある川崎まで、何度か鉄道だけで移動したことがある。初めて挑戦した時、当時は青函トンネルが未開通だったので青函連絡船を利用した。青函連絡船は国鉄（JRの前身・日本国有鉄道）が運営し、時刻表や乗車券も鉄道路線とシームレスに運用されていたので、鉄ちゃん同志の間で、船舶でも鉄道扱いしてもらえたのである。偶々好天に恵まれており、札幌から函館までの車窓の風景は森の緑と湖の青のコントラストが形を次々に変えて目の前を

走り抜ける自然の美術館であった。函館駅で青函連絡船に乗り換えるのだが、その頃合いには燃えるような夕焼けで、出船とともに赤い空が群青、そして漆黒へと変わってゆく様子を甲板から飽きもせず眺めていた。青森駅からは寝台特急ゆうづるで上野駅まで向かった。一つのコンパートメントに左右三段計六人が眠る寝台が設えてあり、かつて



は地方から東京や京都奈良への中高の修学旅行などではよく利用したものが、今ではめっきり少なくなった。真夜中に目が覚めてしまっても、寝台は上半身を起こすことも困難なくらいの狭さである。もともと這い出して、車窓から外を見る。真っ暗で景色など見えないのだが、構わない。補給や乗降、すれ違いのために停車する駅や、大きな通過駅は夜通し明かりがついているので、駅名を確認し、路線図や時刻表で現在位置を確認するのだ。何のためにと言われても困る。それが面白いからとしか言いようがない。早朝上野に到着する。国鉄（山手線・中央線）で新宿まで出て、小田急線で祖母の家に到着したのは朝一〇時前くらいだっただろうか。中学一年のことである。美しい風景と、子供特有の趣味への没頭感を、今でもはつきり思い出すことができる。

「鉄ちゃんは飛行機に乗らない」

日本は島国であるから、海外や離島に旅行する際には航空機か船舶を利用するしか方法がないので、この原則を貫徹することは不可能なわけだが、国内旅行においては概ね可能である。そして、「鉄ちゃん」達は、東京―札幌、東京―福岡など、一日に一五便以上のフライトがあり、新幹線や特急列車では飛行機の五倍近い時間がかかる路線の移動であっても、頑なに鉄路を利用する。

その後も、修学旅行や個人的な旅行

で何度か津軽海峡（青函トンネル）を鉄道で行き来したものだだったが、一方で、家族揃って祖母をはじめとする関東の親戚筋を訪ねるときにはもっぱら飛行機を使っていた。父の休暇には限りがあるし、母は鉄道の旅そのものには興味はないから、やはり札幌―東京間の移動は時間・費用の両面から見て効率の良い飛行機を使うことになる。私も大学生になり、鉄道への興味が薄れてきたこともあり、東京からの帰省の際にはほとんど飛行機を使うようになっていた。時間は夜行の一〇分の一、費用も片道一万円程度ということになれば、止むを得ない。しかし、この合理的な選択は、筋金入りの「鉄」からは、「墮落」との烙印を押されることになる。確かに、「青春18きっぷ」（一枚で普通列車と快速列車のみ乗り放題のJR企画切符。五枚一組のセット販売。



売。一枚当たり二三〇〇円）を用いて、駅泊や野宿を覚悟すれば、札幌まで片道四六〇〇円で行くことが可能であり、時間のある大学生が夏休みに倍以上の値段を払って飛行機に乗るなど、言語道断というわけだ。現在ではどうかと言え、学生時代とは違ってそれなりに忙しい身である。特にここ二〜三年ほどは、国内で講演や発表の機会を頂くことも多く、遠方への出張の場合やはり飛行機を用いる。

やはり私は「墮落」したままなのだ。
「鉄は新幹線に乗らない」

筋金入りの「乗り鉄」ともなると、全行程「青春18きっぷ」を利用するため、新幹線や有料特急すら利用しない。鉄ちゃんには「乗り鉄」と「撮り鉄」の二大種族が存在することも最近広く知られているが、「乗り鉄」の神髄は青春18きっぷを用い、計画的にその時乗った路線のすべての駅で下車し、周辺を散策観光し、次の列車に乗るといふ各駅停車の旅である。その証拠品として、硬券という厚手のボール紙で作られた乗車券または駅入場券を購入したり、路線によっては駅に設置したスタンプを帳面に押すなど、収集癖の傾向が強い鉄ちゃんに対応したサービスを行っている路線も少なくない。

私も、どちらかと言えば、乗り鉄に属する方だと思いが、各駅停車の旅は

意識的に挑戦したことはない。青春18きっぷも、東京―名古屋間を大垣夜行（ガキヤ。かつて一番安く東京から名古屋・関西方面に旅するために使われた快速夜行列車。現在は「ムーンライトながら」になっている。）を使いつつ移動した時に使用したことがあるに過ぎない。一方で収集癖は人並み以上にあり、北海道の赤字ローカル線がほとんど廃止の憂き目に遭った一九八〇年代後期には、廃止が決まった路線には乗りに行き、各駅の切符セットなどを購入したものだ。しかし、目的の路線のターミナル駅までは、自動車や特急列車を使用して行き、各駅下車するわけでもなくお土産用の切符セットを購入しているようでは、乗り鉄としては「未熟者」なのだ。関西や信越、東北への出張では新幹線多用し、関東圏での移動はほとんど自動車を利用している現在、私は依然として「未熟者」のままなのだ。



「様々な鉄ちゃん」

鉄ちゃんには他にも模型や駅内放送・駅売り弁当・時刻表・車両編成・駅舎・レール・車体・部品など、細分化された各領域にそれぞれディープなマニアの世界がある。例えば、同僚の中に、電車のモーター音に精通した先生がいる。私はそれらに参入できるほどの蓄積はなく、そういったマニアに接すると、「すごいなあ」と思うだけである。そんな私にも、他の追隨を簡単には許さないと勝手に自負しているニッチな鉄ちゃん領域が二つある。一つ目は、鉄道営業に関わる法制度の知識である。私が専門とする行政法を中心に、会社法や民法、刑法など、多くの法分野が交錯する、難しいが、面白い領域である。実はこれにもディープな先達がいて、書籍も数種類公刊され



ていたりする。二つ目は、ケーブルカー（鋼索鉄道）やロープウェイ（索道）の敷設に関する歴史や沿革についての知識である。日本には意外とケーブルカーやロープウェイが多いのだが、それは日本の有名寺社が山の中に建立されていることが多く、そこへの参拝、観光客のアクセスを確保するのが狙いであることが多い。そのため、中には宗教法人直営など、経営形態が特殊なものも多く、興味は尽きない。訪問できれば、観光と研究と趣味が同時に成立するという、嬉しいことになるのかもしれない。まだそのような体験はしていないが、近いうちに機会はあるの



ではないかと期待している。とはいえ、私の鉄ちゃん活動は、健全な非鉄のみならず、正統派の鉄ちゃんからも関心を寄せられることは少なく、墮落した未熟な自己満足の世界である。でも、趣味とはそういう世界なのだと思ふし、そこで培った好奇心や探究心は、職業人としても役立つ資質だと思う。特に学生諸君に学業はもちろん重要だが、どんなものでもよいから、心から思いつきり楽しめる趣味を持つことを勧めたい。短くても、趣味に没頭する時間が取れると、次の仕事も頑張れるものなのだ。

ダーツ—競技としてのダーツ

助教 糟谷 崇

二〇一一年七月三日(日)にポートメッセ名古屋で行われた「D-1 Nagoya Tournament 2nd」というダーツの大会で、競技歴4年2カ月にして初めてビクトリーナメントで優勝することができました。

もともと何か趣味を始めようと思っただきっかけは、前職が、非常に忙しく毎日夜遅くまで働いていたこと、勤務地が関西だったため職場以外の知り合いがほとんどいなかったこともあって、

二年半の間は休日のほとんどを寝る以外に何もすることが無く過ごしていたということが大きいのです。

転勤が終わって、東京に戻ってきて、大学院に復帰したこともあって少し時間に余裕ができたし、研究の息抜きに何か始めよう。そして、どうせ始めるなら、競技大会に参加

できるスポーツがいいと考えていました。

当初は、学生時代、積極的に部活動に参加してこなかった自分が三〇歳目前でスポーツを始めるには、なるべく体を動かさず、きついトレーニングをしなくてすむ(だったらスポーツじゃなくてもという気はするんですけど…)ということ、また面倒くさがりなため練習をする場所が比較的簡単に見つかるもの、というくらいの気持ちでした。

そして、たまたま後輩と何かの打ち上げで遊びにいったときに出会ったのが「ダーツ」でした。実家に住んでいたころ、ケーブルテレビで、野球中継やツール・ド・フランスなどのスポーツ番組を見ていた時に、合間にダーツの世界大会が放送されていた覚えがあったので、競技会があるだろうことは何となく想像していました。また、家の近くにダーツバーがたくさんあったことも始めるのに、ちょうどよかった理由です。

さて、ダーツというと、ボーリングやビリヤード(あるいはカラオケ)のように、飲み会後にみんなワイワイ楽しむものだというイメージがありませんか? ダーツをやっていると、よくビリヤードも上手なんですかと聞かれますし、ダーツバーにいらると二次会でやってくるサラリーマンの方々もよく見かけます。

しかし、実はダーツの競技としてのハードルは、ボーリングやビリヤードに比べて、高いと思われます。ボーリングをやったことがある人で、ストライクを出したことがない人はほとんどいないと思いますが、ダーツでハットトリック(真中に三本入れること)を出したことがある人は、なかなかいないのではないかと。

実際、ダーツの競技はほとんど「01」というびったり0にしたほうが勝ちというゲームで行われるのですが、これがまた難しい。狙ったところに三本一本くらいは入れられるようにならないとゲーム自体が終わりません。

最近、バーだけではなくゲームセンター、インターネットカフェやボーリング場など、たくさんのお店でダーツマシンが設置されるようになりました。ボーリングやビリヤードに比べると間口は広いはずのダーツですが、競技と



してはボーリングやビリヤード以上にメジャーにならない理由がいくつかあります。ひとつが、この技術的な難しさと単調なゲームの繰り返しというゲーム性にあります。

ダーツマシンメーカーは、アワードの演出や壁紙、PC・ケータイ・スマホとの連携など、いろいろな点に力を入れてプレイヤーを楽しませようと試みています。しかし、ゲームとしての難易度が高いため、しばらくは熱心に練習する必要がありますので、すぐに限界を感じて、あきらめてしまうことがあります。

また、競技性の単調さは、ゲームに参加していない人間には退屈かもしれません。要するに観戦にはむかないスポーツだと言えます。実際に、以前、ダーツの日本選手権を観に行ったことがあるのですが、決勝が始まるころには観客の半分が帰っていたことがあります。



もうひとつは、ダーツを取り巻く環境の問題です。日本選手権の決勝の例はそ

れを象徴している出来事だと思います。単調なゲームの繰り返しで観戦にむかないとはいえ、少なくとも日本選手権のような最高峰のトーナメントのひとつであれば、プロ同士の非常に激しい戦いが楽しめるはずですが、にもかかわらず、なぜ観客の半分が帰ってしまったのでしょうか。それは観客のほとんどが出場している選手の身内だったり、その人が働いているダーツバーのお客さんだったりするからです。仲間うちで応援しにきて、その選手が負けたら、一緒に帰ってしまう、そのため日本選手権のような大会ですら決勝にはほとんど観客が残っていません。

そして、ダーツ業界は、現在、商業的にも岐路にたたされています。ダーツマシンメーカーは日本では、おおよそ三つ団体が競争をしているのですが、それぞれの縄張り意識が非常に強いです。それぞれの団体が限られた競技者を囲い込むのに必死で、新規の顧客獲得にたいして積極的であるとは言えません。

また、こうしたメーカーが、シヨップ（ダーツバーなど）に対して高額な手数料（ネットワークに接続するための通信料）を設定しているため、多くのダーツバーの経営がけつしている状態にないことも問題です。さらに最近

では、メーカーあるいはディーラーの直営店のゲームセンターやダーツ場に押されて、なかなか新規の顧客をつかみづらくなっています。直営店は比較的、安価にダーツが楽しめる一方で、ゲームセンターに近い形態であるため、大会に参加するようなプレイヤーを育てるにはむいていません。

日本はもともとマイナースポーツには厳しい風土ですが、老若男女問わずプレイできること、集中力を養うスポーツとして弓道やアーチェリーよりも手軽にプレイできることなど、競技としてのダーツにも非常に良い点がたくさんあります。

最初は、ボーリングやビリヤードの代わりでもいいと思いますので、ぜひ一度、近くのダーツバーをのぞいてみてください。もしかしたら私のように気が付いたら日本中を遠征しているようになっているかもしれませんよ。



落語の魅力

准教授 高田 京子

◇実は

以前は、趣味を尋ねられても言葉を濁していた。スポーツや美術鑑賞、楽器演奏などといった素敵な趣味を答えたいところだが、私の一番の趣味は、落語である。時間があれば寄席に行き、落語番組を欠かさず録画する。以前は通勤中も落語CDを聞いていたのだが、車の中で独り笑う姿を客観的に想像し、自粛するようになった。

最初に落語というものに出会ったのは、子供の頃に聞いたラジオであったろうか。小学生の頃は、寿限無やガマの油売りの口上を覚えて喜んでいた。本格的に落語を楽しむようになったのは、大学進学を機に上京した後、寄席という場所が身近になってからである。

◇寄席の魅力

落語は老若男女が楽しめる娯楽である。寄席の客の年齢層は高めだが、会社員や学生、子どもを連れた若い夫婦などもいる。隣席の見ず知らずの方が見どころを教えて下さったり、ひよい



とお菓子を下さることもあったりして、寄席には懐かしい人間関係が残っているように思う。

寄席の中でも、とりわけ、新宿の末廣亭に立ち寄るのが好きだ。その気になれば、昼の部と夜の部を通して、つまり、昼の一二時から夜の九時までを二七〇〇円で楽しむことができる。演目は、序盤は若手の落語から、講談や漫才、演芸を途中に挟みつつ、後半はベテランの落語……という順である。飲食もできるので、失礼ながら若手の出番のうちに弁当をいただいで、後半はしっかりと落語を聞いて……などと目

論むのだが、結局、若手の話にも聞き入ってしまい、お弁当が手つかずになることもある。

末廣亭に限らず、どの寄席でも、舞台と客席との距離が近く、落語家は客層を見て演目を選び、客の反応に合わせて話ぶりを変える。客がよく笑えば、調子が上がって、客が居眠りしていれば、わざと大きな声を出して起こすこともある。寄席は、寝不足でも、食事しながらでも、一人でも連れ立ってでも、いつでも受入れてもらえる、懐の深い場所だ。

◇お人よしの魅力

落語にも、古典と新作、楽しい話、怖い話、人情話や風刺話など、さまざまジャンルがある。しかし、ほとんどの場合、悪い人は登場しない。落語に登場するのは、お人よしで、頼まれごとを断れない、おせっかい、お調子者といった、愛すべき人たちである。稀に、がめつい大家や酒癖の悪い亭主などの小さな悪役も登場するが、彼らは最終的に、人情に触れてころっと改心したり、仕返しをされて大人しくなったりして、愛すべき人たちの仲間入りをしてしまう。

落語には、クライマックスも結末もオチも、あっても良いし、なくても良



い。映画や小説のようにハラハラさせる訳ではないが、お人よしたちののんびりした日常が何だか可笑しい。この、ゆったりした安心感がとても心地よい。

◇職人や商人の魅力

古典落語には、職人や商人が登場する話が多い。植木屋や大工職人、宿屋の亭主、唐茄子（かぼちゃ）の行商人、商家の隠居や番頭、使用人たちが、一生懸命に……と、いうよりは、肩の力を抜いて、誠実に働いている姿が好ましい。

職人は、自分の仕事や作品に誇りと愛着を持っている。商人は、自分の店のために生き生きと働き、主人と番頭、使用人の関係もあたたかい。使用人の恋を叶えるために奔走する主人や、商いの成功を自分のことのように喜ぶ使用人がいる。現代のような、社長は遠い人、上司や社員は煩い人、商品にも愛着はなく、売り上げが落ち込んでも給料とは無関係……というアルバイト店員に接客される時代から見れば、実に懐かしい、うらやましい時代だ。

◇技の魅力

落語家は、わずかな説明と、落語家の声色や身のこなしだけで、自由自在に場面を転換し、いろいろな人物や動

物、神様や宇宙人まで登場させる。小道具もたった二つで、手拭は湯呑や本になり、扇子は箸や煙管、蛇の目や刀になる。蕎麦を美味しそうにする姿を見れば、客の何割かは、帰りに蕎麦を食べたくなることだろう。

テレビや芝居では、こうはいかない。場面を変えるなら、口ケをするか、背景や装置を作らねばならない。登場人物を増やすなら、役者を連れてきて衣装を用意しなければならぬ。熱々の蕎麦を用意しても、美味しそうに見せることは難しい。落語家の力量一つで、自在に話を展開し、見えないものを見せる。そういった落語家の技を見て、想像力を働かせるのも面白い。

◇野望

落語を聞いてみると、落語家の話術を授業に取り入れられないものか、という野望が湧き起こってくる。私が担当している科目は簿記や会計学だが、制度やシステムを、学生の記憶に残るように伝えることはとても難しい。そもそも、学生たちは商売をしたことがないのだから、掛（後払い）で商品を買うこともなく、払いすぎた保険料を来年に繰り越すこともなく、取引を実感することなど無理難題なのだ。

そこに、落語のように、八つあんと

クマさんと大家さんを登場させれば、もう少し実感のわく分かりやすい授業ができるのかもしれない。例えば、為替手形は、自分が債権を持つ相手に対し、債権の取消を条件として、自分の負債を肩代わりさせるしくみである……が、こう自分で書いていても、非常に分かりにくい。

そこで、八つあんとクマさんの登場だ。「クマさんクマさん、大家の野郎がね、あつしに家賃を早く払えつてえ煩いんですよ。」「何だよ八つあん、またかい。しょうがねえなあ、じゃあ前にあんたから借りた金を返すから、それで家賃を払いなよ。」「いやだよ。大家とはもう顔を合わせたくないし、その金はクマさんから大家に払っといっておくれよー。」こんな具合で説明すれば、学生たちも為替手形のしくみを理解してくれるのではないだろうか。九〇分間の、学生にとってはとても長い授業。途中で八つあんになったりクマさんになったりして、笑いを取れたら楽しいだろうと思いつつ、まだその野望は果たせていない。

コーポレート・ガバナンス 「欧州型モデルはうまくいくか」

教授 田中 信弘



1 日本の模索は続いている

コーポレート・ガバナンスとは企業経営者を監視するための仕組みを設計する議論である。日本ではこの十数年の間、企業不祥事の防止（あるいは企業競争力の増強）をめぐる多くの議論が交わされてきた。いくつもの大規模な法制度改革が行われ、近年では独立役員（義務化）や役員報酬の開示規制が導入されたが、世界の潮流を意識した改革はなお必要とされる状況のようにもみえる。

近年、アジアの周辺諸国を含めてコーポレート・ガバナンスの制度的収斂化が世界的に進展しているなかで、わが国はどちらかといえば従来のスタンスを維持しようとしてきた。一つには社外取締役の活用について、日本企業は米国で発達してきたこの監視システムを横目で眺めつつ、結局のところ積極的に受容せずに至ったといえる。現在も、上場会社の約半数が社外取締

役を受け入れていない状況である。たしかにコーポレート・ガバナンスの形式要件が整備されることで、ガバナンスの有効性が十分に確保されるというわけでもない。また、企業競争力を考える上では、柔軟な仕組みに配慮することも必要である。本稿では、日本企業に適合するガバナンスの様式を考えていく上で、EU（欧州連合）の対応を紹介してみることにする。

筆者は、これからのコーポレート・ガバナンスを考えていく上で必要な視点は、企業の情報開示を通じた外部監視の影響力を重視する見方であると考える。このような動きは欧州のCSRをめぐるとの対応にもあらわれており、企業に対する監視主体として、株主とともに多様なステークホルダーが発達してきている状況に注目してみたい。欧州の事情がわが国に示唆するものも少なくないように思われる。

2 各国の多様性に配慮した

EUの仕組み

EUでは各国の多様性に配慮しつつ、その上で実現可能となる調和化（harmonization）を志向してきたため、域外の諸国においてもEUの施策を採用しやすい面があると考えられる。現在の加盟二七カ国のコーポレート・ガバナンスは各国の実情に応じて多様であるが、EUとしては、指令（Directive）や勧告（Recommendation）といった規制手段を用いて加盟国のルールの調和を推進してきている。ただし、会社法や労働関連法規などのハードローについては、現状において一つの仕組みに収斂させることは難しい。そのため、各国がそれぞれに作成したコーポレート・ガバナンス原則に対して、企業の情報開示を促す方策を採用するようになった。具体的には、二〇〇六年にEU指令が出され、上場会社は各国のコーポレート・ガバナンス原則に対

し、遵守状況を開示していくことが義務付けられたのである。

このルールはイギリスにおいて一九九〇年代のコーポレート・ガバナンス改革で活用されたもので、“comply or explain”（遵守か説明か）のルールと呼ばれるものである。すなわち、原則から離れる場合はその理由を説明せよというもので、企業側にある程度柔軟性を与えつつも、情報開示の責任を課すものである。このルールに対しては、EU各国における上位企業の情報開示が充実化したこともあって（一方、中堅企業の情報開示は十分でないともいわれるが）、さまざまな関係機関によって概ね好意的に評価されている。欧州委員会はこのような状況をふまえて同ルールの意義を積極的に認め、EUの共通ルールとして堅持しつつ、さらに開示をめぐる規制強化の方法を検討しているというのが現況である。

3 CSRでも進行する

情報開示規制

一方、コーポレート・ガバナンスと類似した内容を含むCSR（企業社会責任）の領域においても、EUでは似たような方向性の施策が採られようとしている。CSRは企業の環境、社会、労働などの対応を含んでいるが、EUでは「欧州2020戦略」などのプラ

ンが打ち出されており、その中でCSRが政策として重視され、推進されていることが特徴である。そのため、CSR推進のツールとしての企業規制が議論されるようになり、二〇〇九年頃からCSRの情報開示規制の強化がその方向性として打ち出されるようになった。なかでも、デンマークは国内の大企業等に対して、ESG（環境、社会、ガバナンス）情報の開示を法的措置として講じ、注目されている。すなわち、企業としては、CSRのベスト・プラクティスを積極的に訴えていくことが、社会からの信認を得ていく意味でも重要となった。そのため、多くの企業がCSR報告書やアニュアルレポートの報告内容に工夫をこらすようになり、またそれらの内容を保証するために、第三者の意見や審査を制度として組み込むようになってきた。このようなプロセスの中で、現代企業はさまざまなステークホルダーとのエンゲージメント活動を必要とし、それを推進するようになってきているのである。

4 わが国の課題

このようなコーポレート・ガバナンスとCSRの方策を通じて、現代企業に対する社会からの監視はますます厳しいものになっていくことが予想され

る。その際、一つの規制手段として情報開示の強化が重要な位置を占めつつある。これまで日本ではコーポレート・ガバナンスの議論がやや迷走を続けてきた感があり、日本企業に適合するガバナンス手法を整備していく作業はなお途上の段階にあると思われる。そういう意味では、近年の欧州の取り組みを重視していく意義もあろう。情報開示規制が有効なものとなるには、各国の状況に応じたベスト・プラクティスが示され、それに対する企業側の情報開示をエンフォースする仕組みが必要である。一方で、情報の受け手側の処理能力の問題があり、株主としての機関投資家のみならず、社会の姿勢も問われることになる。社会からの監視能力という点については、私はどちらかといえば中長期的な意味では樂觀しているのだが、皆様はどのようにお考えであろうか。

私自身のこれからの研究活動としては、現状把握を行うのに、関係団体の現場の声の収集に努めていくつもりである。ここ数年は、欧州の関係機関を訪問し、意見交換を行うようにしている。幸いなことに政府の科学研究補助金を獲得することができ、本年は欧州の先端を行く国々を訪問する予定である。

義経北行伝説を追いかけて

教授 内藤 高雄

「吉野山峰の白雪ふみわけて
入りにし人の跡ぞ恋しき

しづやしづ賤のおだまきくり返し
昔を今になすよしもがな」

壇ノ浦の戦いで平家を滅ぼし、意気揚々と都に凱旋した源義経は、兄である源氏の頭領、源頼朝の不興を買い、追われる身となる。おそらく一一八七年（文治三年）ごろ、少年期を過ごした奥州平泉に逃げ込み、藤原秀衡を頼ることになる。義経の愛妾であり、都で有名な白拍子であった静御前は、捕らわれ、鎌倉に護送されて尋問を受けることになる。そこで頼朝に舞を強要された静は、一一八六年（文治二年）四月八日、鎌倉鶴岡八幡宮で、頼朝以下、居並ぶ鎌倉方の諸将の前で、義経を恋い慕う、冒頭の歌唄を堂々と唄いながら舞った話は、鎌倉武士の度肝を抜いた話として余りにも有名である。もともと幼少の頃から歴史に興味を持ち、中学生の頃には『幻の邪馬台国』（宮崎康平著、一九六七年・講談社）

を読み、NHKの大河ドラマは欠かさず見るなど、わたしは日本の歴史が大好きであった。徳川家康や源頼朝が大嫌いで、石田三成や源義経が大好きという、絵に描いたような判官鼻頂である私は、大学一年生の夏、『成吉思汗の秘密』（高木彬光著、一九五八年・光文社：私が手にしたのは一九六〇年の改訂版である。）に出会い、義経北行伝説にどっぷりとはまってしまった。以来、本書は私の中でバイブルとなり、何度も読み返すことになる。高木氏は本書の中で、水戸光圀の『大日本史』、アイヌ民族の中に残るホンカイサマ伝説、一九二四年（大正一三年）に出版された小谷部全一郎氏の大論文「成吉思汗は源義経也」とそれに伴っておこった論争など、「義経IIジンギスカン説」の肯定論と否定論を併記しつつ、丁寧にストーリーを組み立てている。中でも私の心を揺さぶり、決定打となったのは、仁科東子氏からの手紙に敬服し、その回答として改訂、新たに加えられた第一六章である。仁科

氏が成吉思汗を漢文式に「吉野山の誓い成りて静（汗はさんずいに干でスイカン、すなわち白拍子の衣装）を思う」としたのに対し、成吉思汗を訓読みすると「なすよしもがな」となるとした点である。冒頭の静御前の歌唄に対して、成吉思汗という名前は見事に返歌となっていたのである。これが義経北行伝説を私が追いかけることになったきっかけであった。

そこで私はまず、『義経記』や鎌倉幕府の正史である『吾妻鏡』で義経終



焉の地とされる高館（判官館）の現場
検証から行った。高館はその名の通り、
小高い丘である。そして眼下に、藤原
四代泰衡の政庁である柳御所と私邸で
ある伽羅御所、無量光院などを見渡す
ことができる。三代秀衡がいかに義経
を大事にしていたかがよくわかる場所
に位置している。もし正史にあるよう
に泰衡が義経討伐のための兵を集めて
いたなら、すぐにそれは義経達にわか
ることになる。それに対して何も対応
せず、ただ泰衡に攻められるのを待つ
ていたとは私には信じられない。まし
て『義経記』にあるように、常陸坊海
尊ら数人が寺に拜みにいって不在だっ
たなどというのはあり得ないことであ
る。「ここでは義経は死んでいない」
と私は意を強くした。もっとも最近の
研究では、義経の終焉の地は高館では
なく、衣川館であるという説が強く
なってきたいるのだが……。

次いで私は義経の足取りを追うこと
にした。追跡調査である。よく知られ
ていることだが、義経の逃走経路は平
泉から津軽海峡を渡るところまでは、
一本の線のようにはっきりしている。
すなわち平泉―遠野―江差―釜石―宮
古―八戸―三厩・竜飛岬である。本当
なら平泉から追っていくべきなのだが、
私はいきなり本州の最北端、津軽半島
に向かった。季節は冬、津軽半島には

冬景色が似合うと思ったからである。
本州最北端の竜飛岬には、青森から
津軽線に乗り、蟹田で乗り換え、三厩
へ出る。そこから竜飛岬まで、バスで
三〇分、一日三往復の便である。バス
に乗って海岸沿いを走って約一〇分、
津軽海峡を見下ろす山の中腹に義経寺
がある。一六六七年（寛文七年）、義
経が岩の上に残したとされる観音像を
僧円空が発見したことにより建立され
た義経寺は、江戸時代の創建である。
そしてこの義経寺から海岸に向かうと、
三厩の地名の由来である三厩岩がある。
曰く、義経がこの地に来ると海が荒れ
ていた。そこで観音像を海岸に置き、
三日三晩祈ったところ、三頭の駿馬が
岩窟の中につながれていた。義経一行
はこの三頭の駿馬にまたがり、穏やか
になった海を渡って北海道へと向かつ
たのである。また岩手県や青森県の観



光協会では、義経北行伝説のパンフ
レットを発行しており、義経が落とす
ていった兜である兜岩をはじめ、多く
の伝説の遺跡が残っているのである。

私の専門は会計学である。したがっ
て当たり前のことであるが、歴史家で
はない。いわば歴史マニア、義経マニ
アといって良いであろう。専門の歴史
家からは荒唐無稽であるとされる義経
北行伝説も、マニアならば信じてい
てもかまわないであろう。いわば義経教
の信者のようなものである。私のライ
フワークとして、これからも義経北行
伝説ゆかりの地を旅して歩いて行き
たいのである。次は黒森神社、判官稲荷
神社など、名前を聞いただけでゆかり
の地であることがわかる宮古（この宮
古という地名も、義経があこがれた都
から名付けられている）へ行こう、そ
う思っていた矢先の三月一日に、東
日本大震災が起こってしまった。自分
が愛していた東北地方が心配でならぬ。
もっとも日本人は底力を持った民族
である。いつの日か、震災の復興成
った三陸地方を、義経を追って旅して歩
けることを信
じているし、
その日を楽し
みにしている。



私の記者時代

准教授 劉 迪



大学院を卒業した一九八八年、私は

記者になった。大学院生だったある日、指導教授だった葉涓渠先生に、新聞記者になる気があるかと聞かれた。それまでずっと研究者を志願していた私にとってマスメディアは全くの未知の世界であった。しかし私は葉先生にそう聞かれて、思わず首を縦に振った。それは、葉先生が言った「記者」が、一般のメディア記者ではなく、人民日報国際部（外報部）の記者であったからである。当時、人民日報の記者は、ジャーナリズム専攻の学生たちをはじめ、多くの若者が憧れる職業だった。なぜ人民日報社は私のようなジャーナリズム専攻ではない人間を採用したのか。これについて後日、私は上司だった国際部主任（外報部長）の羅爾庄氏に、尋ねたことがある。彼は、私が東アジア経済協力についての論文を書いていたこと、それと、日本語がわかることを理由として答えてくれた。羅氏は、中国の改革開放は日本から多くを学ばなければならぬという考え

を持っていた。

記者時代に、アジア経済は私の重要なテーマであったが、実は学生時代に経済学を専攻していたわけではない。1982年に大学を卒業した後、地元黒竜江省の社会科学学院に勤務していたときのことである。上司の肖揚氏は私に、中国は西洋近代経済学を知るべきだと言った。経済学と言えば、大学時代、マルクス経済学を少し学んだだけの私に、肖氏は、P・サムエルソンの『経済学』を渡してくれた。これが私の近代経済学の学習の始まりであった。先の羅氏が言った東アジア経済協力についての論文とは、私がこの時代に書いたものである。

現在に至るまで、人民日報は一貫して特殊なメディアである。中国共産党の機関紙であり、中国共産党中央宣伝部に直接属している。何においても「官僚本位」の中国では、行政的には最高レベルのメディアと言える。

あの時代、人民日報社の内部のことは、中国の一般の人々に、あまり知ら

れていなかったように思う。人民日報国際部は一〇〇人ほどの大所帯で、そのうち編集・記者スタッフが六〇人、残りは事務スタッフであった。当時の中国の新聞社は日本と異なり、「編採合一」制度をとっていた。記者全員は「記者」であると同時に「編集スタッフ」でもあるという制度である。社外で取材もするし、編集部内で編集作業も行う。

当時、人民日報社ではすべての新人に「即戦力」が求められた。私も取材テクニックなどについては、実践を通じて学んでいったのはもちろんであるが、メディア関係書などの本からも多くを学んだ。そのなかでアメリカ人 John Brady が書いたものは面白かった。また同僚たちからも多くのことを学んだ。私が同僚から学んだことの中で、最も印象深いことの一つが、「最もよい取材とは、こちらから誘導せず、取材相手自身の話を引き出すことである」ということである。しかし、これを実践するのは大変難しいこと

だった。

当時、人民日報国際部は幾つかの班に分けられていた。私はまずアジア班に、後に総合班に配属された。そのころ国際部はまだ衛星アンテナを設置していなかった。もちろんインターネットもなかった。編集・記者スタッフにとって最も重要な情報源はやはり紙媒体であった。毎日午前中は、中国及び諸外国の新聞、雑誌を読むのが日課であった。国際部は数百種類の国内外の新聞や雑誌をとっていた。そのなかに『朝日新聞』、『読売新聞』、『毎日新聞』、『日本経済新聞』、『産経新聞』、『エコノミスト』、『世界経済評論』などの日本の新聞や雑誌が多数あった。当時の国際部は有名な論説委員や記者を多く抱えていた。たとえば、蔣元椿氏と張允文氏はそれぞれ一九五〇年代と一九八〇年代の著名なジャーナリストである。論説の名人として有名だった蔣氏は、一九五五年に人民日報社に入社。一九五七年に「右派分子」とされ、迫害を受けたが、二〇年後に名誉を回復した。私が国際部に入ったとき、蔣氏は顧問として週数回出勤していた。一度だけ私の論説を添削してもらったことがあるが、その鋭さには感服させられた。張允文氏は大学で二〇年間教鞭をとっていたが、一九七九年に人民日報社に入った。英語、

ロシア語ともに精通する大物記者だった一九八〇年代にワシントン支局長を長らく務めた。彼が書いたチャレンジャー号爆発事故についての記事は、後に中国の中学校の国語の教材となり、中国の「80後」（八〇年代生まれの世代）にも広く読まれた。

私の主な仕事は編集作業と評論の執筆であった。私は可能な限りグローバルな話題を取り上げようとしていた（写真1）。取材も兼務した。一九八八年一〇月二三日は、日中平和友好条約発効一〇周年の日であった。特別記事を書くことになった私は、在中国日本国大使にインタビュを行った。中島大使は一九八七年に着任し、一九八九年に離任。その後帰国し最高裁判官になった。一九八八年当時はまだ冷戦が終結しておらず、ソ連という共通の敵を持ち、日中両国関係は相対的に平穏な時代であった。和やかな雰囲気の中で取材を行った（写真2）。

入社した翌春、民主化運動が勃発した。二年後の一九九一年、私は新聞社から長期休暇をもらって来日した。そしてそのまま私は日本に残り、新聞社を辞めてしまったわけだが、当時はこのような形で辞めることになるとは思っていなかった。月日のたつのは早いものである。二〇年という月日があっという間に過ぎていった。私の記者時代も遙か昔のことになり、上に名前を挙げた方々の多くも今は故人となつてしまった。

新聞記者をしていた三年間に築いた友人関係は、今も私の大切な財産である。またその三年間、中国が抱える問題を数多くこの目で見た。中国のメディアの在り方、政治の在り方について考えずにはいられなかった。来日後、「表現の自由」と「中国の国家構造問題」という二つのテーマを中心として研究してきたが、その出発点は記者時代の体験である。

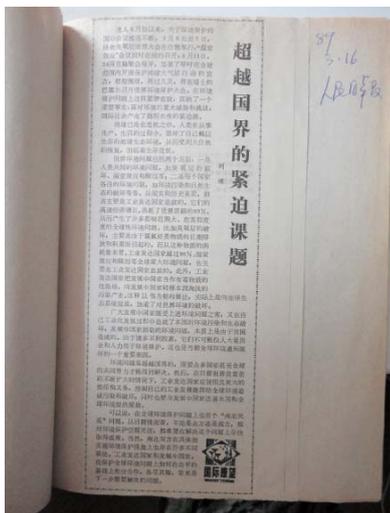


写真1 筆者が書いた地球温暖化問題についての評論



写真2 在中国日本国大使の特別インタビュー記事

社会科見学ツアーについて

准教授 大山 徹

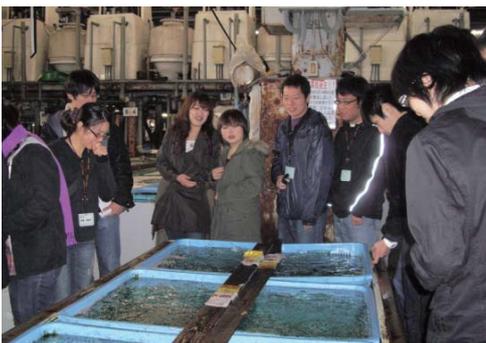
私が大人の社会科見学というテーマに興味を持つようになったのは、二〇〇七年四月に杏林大学八王子キャンパスアメニティー委員会・ネットワーク部会の委員になったことが一つのきっかけである。以来、八王子キャンパスの学生たちを引率して日頃行かない都心やキャンパス外の施設を見学している。見学の際には、時折、外部のゲストスピーカーに講演をしてもらっているが、これは学生の皆さんに新鮮な気持ちでさまざまな知識を吸収してもらいたいと考えたからである。以下では、これまで実施した社会科見学ツアーやそのコースなども記載するが、このようなツアーが実現したのは、企画学生や学生支援課の職員であった南島幸代さん（現在は入試センター係長）のご尽力の賜物である。

・「築地市場のいまを考える」 社会科見学ツアー

（二〇〇八年一月一日実施）

コース…築地市場駅 ↓ 築地市場見学（ゲストスピーカー…東京都築地市場管理課・杉田伊平氏） ↓ 佃島 ↓ 月島にてもんじゃ焼きを食す。

企画者は佐藤光浩君である。移転問題で揺れていた築地市場を見学した。二〇〇八年当時、築地の中央卸売市場を江東区豊洲地区へと移転する問題が議論されており、学生たちと私は早朝に築地市場駅に集合した。原油高騰による全国の漁業の経営不振がもたらす築地市場への影響や全国の漁業団体の休業、築地という街が担ってきた食文化の維持等の問題を肌で感じる事ができたというのが参加者の感想であった。土壌汚染や生鮮食品の品質管理などの問題の存在も身近なものとして感じる事ができたことである。総合政策学部原田奈々子学生部長の提案で築地市場見学の後、佃島を散策しもんじゃ焼きを食べに行った。





・「武相荘と町田の街づくりを学ぶ」 社会科見学ツアー

(二〇〇九年九月一〇日実施)

コース・・鶴川駅 ↓ 武相荘 ↓ 能ヶ谷いこい会館(ゲストス
ピーカー・・町田観光コンベンション協会の事務局長・徳尾
和彦氏)

企画者は中村篤人君である。武相荘は白洲次郎が日本の敗戦を見
越して戦時中に購入した邸宅である(戦後食糧難になることを予想

して別宅を町田の鶴川に購入したという)。吉田茂の側近であった
白洲次郎は戦時中妻正子とここで週末を過ごしていた。質素な茅葺
き屋根の邸宅であるが、それでいて粋な漆器や陶器等が置かれてい
る。学生たちは当時をしのびながら、邸宅や贅沢な邸宅の調度品に
見入っていた。

武相荘見学の後は、能ヶ谷いこ
い会館に移動し、そこで町田観光
コンベンション協会の事務局長・
徳尾和彦さんより「町田市の観光
コンベンションについて」ご講演
を頂いた。五一年前の町田市は人
口六万人の規模の街にすぎなかつ
たが、現在では四二万人の規模の
都市に発展したとのことである。
都心のベッドタウンとしての機能
を果たしている町田市だが、観光
に力を注ぎはじめたのはごく最近
の話であり、町田市役所に産業観
光部が設置されたのも二〇〇七年
の話だということであった。現在
の日本の観光業界では、半日で終
わるような「ニューツーリズム」
が流行りであり、それと町田市の
街づくりとを連動させていくのが
難しいとのことであった。ひとく
ちに観光といっても、現在では、
従来型の「マスツーリズム」と
「ニューツーリズム」(第三種旅



行業が中心となる着地型旅行・現地集合現地解散の小規模旅行)の二つに種類が分かれており、町田は後者の路線でやっていくとのことであった。講演者の徳尾さんは民間出身の方で町田市の公募で事務局長の職に就任した方だが、さすが狭き門を突破しただけの方で、弁舌さわやかな見事な講演であった。学生たちも講演に熱心に聞き入っていた。

・「東京港と東京都のゴミ問題を考える」 社会科見学ツアー

(二〇〇九年一月三〇日実施)

企画者は吉田雅人君である。首都圏で生活する我々はゴミ問題とは無縁ではありえない。また、港湾の果たしている役割につき理解を深める機会を持つことは有益だと思われる。このように考えて、この見学会の実施を決定した。



コース：竹芝駅 ↓ 竹芝小型船ターミナル ↓ 視察船新東京丸乗船 ↓ バスで埋立地に移動。

商業施設やホテルなど再開発が進む芝浦ふ頭や、中国や韓国などからのコンテナ船が発着する品川ふ頭、工業製品や輸出品を扱う大井コンテナふ頭を付近を船で回り、国際的な物流の仕組みについて学ぶ機会を得たことは貴重な機会であった。また、中央防波堤埋立地をバスで回

り、(多少の異臭にとまどいながら)埋立地が直面している問題を肌で感じる事ができたことは得難い経験であったように思う。この見学会を通じて、私自身もゴミ処理の過程でできたスラグが建設資材として使用されることを知り勉強になった。



・「管理・監督過失をめぐる論議と防 災をめぐる問題について考える」

社会科学見学ツアー

(二〇一一年二月一〇日実施)

コース…麴町駅5番出口 ↓ いきいきプラザ一番町会議室にて講
演会 ↓ 消防博物館 ↓ プルデンシャルタワー前(ゲ
ストスピーカー…慶應義塾大学常任理事・井田良氏)

企画者は生亀宏晃君である。かつて耳目を騒がせたホテルニュー
ジャパン火災現場の跡地に行った(この事件のことを知らない人も
多くいると想像するので、簡単にホテルニュージャパン火災事故の
概要をここで述べておこう。ホテルニュージャパンは横井英樹が経
営する高級ホテルであったが、一九八二年二月八日深夜、在日イギ
リス人の寝煙草が原因で出火し、同ホテルの九階と一〇階が延焼し
た火災事故である。火傷や飛び降りて三二人が死亡し二九人が負傷
する大惨事に発展した。) ホテルニュージャパン跡地は凄惨な事故
現場ということも相まって競売にかけられてもなかなか買手がつ
かず長らく廃墟となっていた。今はプルデンシャルタワーという立
派な建物が建っており、当時を忍ぶ面影はない。ホテル・デパート
火災事故が発生した場合、ホテルやデパートの経営者を業務上過失
致死傷罪で問擬するのが国の判例であるが、刑法学上は、この
論点は管理・監督過失と呼ばれて先鋭的な議論が展開されている領
域となっている。この事件におけるホテルは防火区画も設置されず、
防火戸もなく、非常放送をする防災体制も不十分であった。ホテル
ニュージャパンでは、消防、避難訓練も実施されていなかった。学
問上は火災発生以前のこうした怠慢行為を過失行為として捕捉する

ことができるか否かについては盛んな議論が展開されている。刑法
学会の第一線で活躍しておられる井田良先生をゲストスピーカーに
招き講演会を開催した。講演後、消防博物館やプルデンシャルタ
ワーに向かい、歴史的な事件に思いを致した。



学生の公募に基づき実施していた社会科学見学ツアーであるが、私
はこの仕事に従事してきたことを誇りに思っている。先日、山形大
学のFDシンポジウムに参加したが、文系学部でも、昨今は、体感
学習やフィールドワークの時間を積極的に設けていく必要があると
の声が異口同音に会場で囁かれていた。たとえば山形大学では「最
上川学」という教育プロジェクトが創始され、「最上川の匠たち」
と上流から河口まで旅をし、実地で郷土のありようを学ぶ講義があ
るといふ。山形大学のFDシンポジウムに参加して、八王子キャン
パスで行われてきた社会科学見学ツアーは時代の先取りの試みで
あったことをその時確信した。今後とも学生支援センター(学生支
援センター長は黒田有子外国語学部教授)のもとで、この試みが継
続的に実施されていくと聞いている。

東日本大震災後の復興支援活動に参加して

准教授 岡村 裕

はじめに

震災発生時、私はインドネシア人介護福祉士候補者の国家試験対策支援のために地元長野県の介護施設を訪問中でした。大きな揺れが長く続いたので、スマトラ地震を経験しているインドネシアの方はひどく怯えていたのですが、私には今まで経験した地震の揺れより少し長かったぐらいの印象のものでした。その時はまさかそんな大惨事になっていようとはまさに知る由もありませんでした。

その後、様々な団体が震災後の復興支援を企画していることを知り、微力ながら宮城県の石巻市と亘理町の復興のお手伝いに参加する機会がありましたのでその概要を報告したいと思います。

石巻市

五月二二日（日）、水戸市の旅行会社石塚観光と茨城県社会福祉協議会共催の「宮城県災害ボランティアバス」に参加し、石巻市を訪れました。日帰りで宮城県内の被災地を訪問し、被災地の復興の手伝いを行う企画で、費用は日帰りの往復バス料金と昼食代の三〇〇〇円でした。

事前の連絡によると、活動内容は主に泥のかき出し、家財運び出

し、瓦礫撤去、清掃、漁業復興のお手伝い等で、数人のグループにわかれて班ごとに活動することでした。

持ち物は、食事と飲み物、長靴、汚れてもよい服装、帽子、着替えと履き替えの靴、ゴム手袋、軍手、粉塵用マスク、ゴーグル、タオル等でしたが、自宅からそれらを持って電車を乗継ぎ、集合場所に行くまでが少々大変でした。

早朝四時二〇分に水戸駅前に集合し、参加者約八〇人が二台のバスに分乗して、石塚観光の大型観光バスに乗り込み石巻へ向かいました。当日は雨が降っており、説明によると着いても豪雨の場合には安全面を考慮し、作業をせずに引き返すことがあるとのことでした。

車中ではボランティアバスのガイドダンスが行われました。添乗していた石塚観光の担当者は、「赤字でも復興を見届けるまでバスを送り出したい。他のバス会社や旅行業社が、商材としてもっとたくさんボランティアバスを企画してもらいたい。それで、被災地に人が集まれば、ボランティアの先鞭を付けた者としてこれ以上に嬉しいことはない」と、車中で話していました。同社の社長がひたちなか青年会議所（JC）の元理事長で、姉妹都市の宮城県石巻市のJCと一五年來交流してきた経緯があり、震災後にJCメンバーと自転車、ガンリンなどの救済物資を何度も届けたそうです。

社員たちも顧客のキャンセルが続き、できた時間をあてて石巻で

ボランティアをしながら「何とかしたい」と社長と同じ思いだったようで、個人での活動の難しさを感じて団体企画を発案しました。県社協に相談すると、ボランティア希望者が多い状況がわかって、共催となったことでした。一方で、運行は本業の利害と絡む懸念があり悩んだとのことですが、社協の皆さんに背中を押していただいたそうです。

午前10時頃に石巻市大街道のとあるコンビニエンス店裏の駐車場に到着し、早速作業の準備にかかりました。地元受け入れのNPOのリーダーより作業場所や手順の指示を受け、徒歩で作業場所に向かいました。割り当てられた作業場所は、現在避難され住んでいない被災された方の自宅でした。まずは散乱していた家財道具などを整理し、そのあとで家周りの側溝の泥さらいを行いました。それが終わると床をはがして軒下にたまった泥をさらって土嚢につめて運ぶという作業を繰り返しました。

津波が押し寄せた地域のため、側溝には油混じりのヘドロが堆積していました。

そのヘドロを放置しておくとも夏場に乾燥して埃とともに空気中に散乱し健康被害を引き起こすとのこと、今やらなければならぬ作業であるとの説明をうけました。二軒の家をふた手に分かれてのヘドロの撤収作業は、異臭と油混じりの重い泥との格闘でしたが、午前は一時間半、午後は二時間半の計四時間ほどの作業時間でした。午後三時過ぎ



には現場を清掃して作業を完了しました。

亘理町

「東日本大震災被災地支援の会」（豊島区）が主催するバスツアーで宮城県亘理町を訪れました。当会は、震災直後に被災地復興のみを目的として設立された非営利の一般社団法人です。ツアーは六月二四日（金）の午後十一時にJR池袋駅を出発し、翌二五日（土）の午前八時に亘理町に到着、午後三時まで作業をしてその日の夜10時に池袋に戻るというスケジュールで、費用は参加費五八〇〇円でした。

亘理町は、いちご生産量が東北一の宮城県南部に位置し、いちご狩り農場としても有名です。しかし約四五〇軒あった全てのいちご農家が津波で被災し、大きな被害を免れたのは約七〇軒だけでした。その約七〇軒の農地もヘドロの除去作業と塩害整地を秋までに完了しなければ年内の収穫は全滅とのこと、J Aみやぎ亘理の依頼により、いちご田畑に蓄積した汚泥の除去作業やいちごの苗の作付けに関連する作業がボランティアによって行われていました。

J Aみやぎ亘理の会長さんのご挨拶の後、作業開始前に亘理町から隣の山元町



へとバスで案内していただきました。亘理町では人口約三万五〇〇〇人のうち二五〇人以上が亡くなったそうです。畑は津波にのまれ茶色になり、全半壊した家屋跡が点在し、がれきの中に壊れた車が埋まるなど、生々しい爪痕を前に言葉が出ませんでした。

午前九時、数班に分かれていくつかの農家へ移動しました。ビニールハウスが全滅した農家は無事だった農家からハウスを借りていちごを育てていくとのことでした。亘理のいちごの苗は全滅だったので、栃木県から寄贈の「とちおとめ」の苗が使われていました。ビニールハウス内での苗の植え付けの作業では、まず手分けして多くのプランターに培養土を入れ、さらにそのプランターへの苗の植え付けを行いました。いちごの苗の植え付けなどは初めての体験で一から教えてもらいながらの作業でしたが、「一人でやれば何日もかかるが大勢だと一日で終わりました。本当に助かります」という言葉に励まされました。昼食時は持参した弁当をハウスの中で農家の皆さんとお話ししながらいただきましたが、言葉にならないご苦労をかかえながらも、皆さん明るく前向きであったことが印象的で

した。石巻同様にあっという間に時間が過ぎ、午後三時に作業を終了し、挨拶をして迎えのバスを待ちました。農家の方が最後まで見送りしてくれたことも心に残りました。

活動に参加して

今回の宮城県での活動で、特に印象的だったのはJAみやぎ亘理の会長さんのお話でした。「全国各地から来ていただき、本当にありがとうございました。感謝の気持ちで一杯ですが、残念なのはなぜ我々は阪神淡路大震災の時に現地に行かなかったのかということ、それを今になってとても後悔している」とのことでした。なんらかの手助けができる立場にありながらそれをしない場合なんとなく後ろめたさを感じるものですが、そのようなある種の罪悪感や自分自身が手助けされる立場になることでさらに強くなる傾向があるようです。もしかしたら被災者の中にはそのような思いに駆られて自ら要望を控えている人がいるのかもしれない。今回の震災では我慢強さを日本人らしい美徳として称賛する報道

がありました。そこには罪悪感に苛まれた人々の負の感情が見え隠れする気がします。困った時に助けをもらうにはまず助けなければならぬ、あるいは助けたい人は助けられるべきでないという行き過ぎた互恵主義への誘いが背後にあるように感じました。本学で社会福祉の科目を担当している私にとっては、学ぶことの多い機会となりました。



いちご苗植付け作業前



休憩—お茶の時間



作業後

プレゼミナール

Person to Person

木暮健太郎

総合政策学部では、1年生の「プレゼミナール」という授業を非常に重視しています。プレゼミナールには、1クラス10名前後の学生が所属していますが、各クラスには、1名の教員が担任のような形で配置されています。基本的には、30歳代を中心とする若手教員がクラスを担当していますので、学生にとっても非常に接しやすい雰囲気があります。入学後に大切なことは、まず大学生活に慣れることです。そのためにも、新しい友人をつくることや、教員との関係づくりが重要になります。

・活動の内容

プレゼミナールで最初に取り組むのは、履修相談です。高校の授業とは違って、大学では自分のとりたい授業を選択し、履修していきます。各自の興味や関心にしたがって選択できるのですが、高校を卒業してすぐの新入生にとってみると、「どの授業を選んだらいいのか」、「どういった内容の授業なのか」がわからずに戸惑うことがよくあります。そこで、プレゼミナールの時間を利用して、担当の教員が履修相談を行うようにしています。

また、実際に授業を受けてみると、そこでも高校との違いがあります。高校までは、教員が板書をしてくれますが、大学では、授業の情報量も多く、スピードも速いため、あまり板書をしないようになります。そこで、「ノートの取り方」を学ぶ必要がでてきます。プレゼミナールでは、効果的なノートの取り方や、概要（レジュメ）の作り方やレポートの書き方など、大学生活で必須となるスキルを学んでいきます。

最近では、就職も意識して、資格に対する関心が高まっています。そこでプレゼミナールでは、1年生全員を対象とする漢字検定の受検を行っています。初挑戦で2級に合格する学生も出るなど、その効果は徐々に始まっています。また、就職への意識をできるだけ早い段階で持つことも重要です。そこで、キャリアサポートセンター（就職課）とも連携し、各種の就職講座をプレゼミナールに設置するなど、就業力の向上に向けた取り組みも行っています。

・プレゼミが目指すもの

総合政策学部では、少人数教育を重視していますので、1年生ではプレゼミナール、2年生では基礎演習、3年・4年生では演習（ゼミナール）と、入学から卒業まで、学生は一貫して少人数のクラスに所属することになります。大学での目的意識を明確にし、学生生活をさらに充実させるためにも、学生と教員との関係を密接に保つことが必要だと考えています。総合政策学部に入學して良かったと思えるように、プレゼミナールでの活動をこれからも発展させていきたいと考えています。



岩隈プレゼミナール



荒井(火)プレゼミナール



大山プレゼミナール



荒井(水)プレゼミナール



岡村プレゼミナール



伊藤プレゼミナール



木村プレゼミナール



糟谷プレゼミナール



久野プレゼミナール



加藤プレゼミナール



木暮プレゼミナール



川村プレゼミナール



島村(木)プレゼミナール



斉藤(崇)プレゼミナール



進邦プレゼミナール



佐藤プレゼミナール



高田プレゼミナール



島村(水)プレゼミナール



半田(木)プレゼミナール



中村(水)プレゼミナール



藤原(水)プレゼミナール



中村(木)プレゼミナール



藤原(木)プレゼミナール



半田(火)プレゼミナール



渡辺プレゼミナール



劉プレゼミナール

プレゼミナール 内容紹介

- ◇大学生活のためのガイダンス
情報センターガイダンス、図書館ガイダンス、履修相談、個別面談など
- ◇キャリア教育
キャリアサポート講座、漢字検定対策と模擬試験、SPI模擬試験、
就職内定者による体験談など
- ◇基礎学習
ノートテイキング、レポートの書き方、ワークショップなど
- ◇IT演習
メールの設定、Word、Excel、PowerPoint 演習など



ゼミナール紹介

岩隈 道洋

「ゼミ」と呼ばれるこの授業は、いわゆる文系の大学においてはもっとも重要な科目に位置付けられているものです。一般的な講義は大教室での一斉授業形式で行われ、時々学生の参加感に乏しい「マスプロ授業」として批判されることもあります。大教室の講義にもいろいろな良さがあり、我々教員も日々魅力ある講義のために努力してはいるのですが、「ゼミ」はそういった講義とは一味違う、格別の思い入れがある授業でもあるのです。

「ゼミ」は、大学の上級学年となり、大学での学問や生活のあり方が板についてきた頃を見計らって募集が始まります。専門科目担当の先生と、現役のゼミ生たちによって、日頃どのような研究（その他？）の活動が行われているかを紹介する冊子が配布され、それに続いて説明会が開催され、新学期からどのゼミに入ろうか迷っている学生諸君を誘います。

演習（ゼミナール）は、一人の指導教員に対して、講義と比較すると少人数の学生が「弟子入り」（少し古臭い表現でしょうか!）する形で結成されます。個々の教員の専門とする学問を、調査や作業、討論や発表といった能動的な形で、みっちり深く勉強する学習グループであると同時に、大学生活をきっかけとした、かけがえのない人間関係（師弟・友人・ライバル・先輩後輩・恋人？・etc…）を育てる場でもあります。

大学の教員は、そのほとんどが自分の学生時代のゼミの時に、専門とする学問の魅力に憑りつかれ、今もその学問を追いかけている人たちです。だから、教員たちはゼミでの学生との付き合いはとても大事だと思っていますし、できればゼミでの経験が、（学問でなくてもいいから!）それぞれの学生の一生に残るものになって欲しいと、心から願っているのです。

最近の学生は、ゼミでもサークルでも、「濃い」人間関係をやや敬遠しがちだといわれますし、教員の視点から見ても時折それを感じることもあります。ただ、言い古された言葉ではありますが、大学時代の友人、中でもゼミナールで出来た友人は、利害関係に揉まれる実社会ではなかなか得難い、本音で語り合える一生ものの親友になるといいます。

大学でバリバリ勉強したい人、部活やサークルをエンジョイしてる人、なんとなく過ごしている人、趣味に明け暮れている人、いろいろな学生にとって、大学生活の前半とは違った、困難はあるけども確かな満足感のある変化を、「ゼミ」で体験できます。ちょっとの勇気と、そこそこの努力（もちろん全力投球 Welcome!）で、研究室の扉を叩いてみませんか？

先輩たちや先生方も、新学期の出会いを楽しみに待っています。

阿久澤ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

ゼミでは、民法の財産法に取り組んでいます。この分野は、将来社会生活を送るうえでの強力なバックグラウンドとなるものです。ゼミの目標は、公務員・資格試験に合格することあるいは実力のある有能な会社人になることです。ゼミの学生諸君は、その目標に向って一生懸命頑張っています。

★先生のプロフィール

専門は、民法、労働法そしてドイツ法です。ドイツに二年間留学し、たいへん有意義な学生生活を送りました。そのときの経験は、私のその後の生活の幅を大いに広げてくれました。

趣味は、テニス、スキー、クラシック、スポーツ観戦です。ゼミの合宿では勉強のあとテニスを、冬合宿ではスキーやスノーボードを一緒にやっています。

★ご父母、学生へのメッセージ

私のゼミでは、法律論であれ、日々の生活のことであれ、自分の考え方をはっきり主張し、自分の存在を十分アピールできる人になることを最終目標にしています。

★学生からの一言

やる時はやる、遊ぶ時は遊ぶ。とメリハリのある授業を目指しております。ゼミ生同士仲が良く、何でも話せる為お互いに刺激し合える関係です。

荒井ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

本研究会では、国際経営について理解を深めている。また国内外のプレゼン大会への参加という目標に向かって、ゼミ生主体で発表テーマを決め、調べ、議論し、パワーポイントを作成し、聴衆の前で発表を行う。このような経験を通じて、論理的思考力、討論力、理解力、コミュニケーション能力など総合的な能力向上をはかる。

★先生のプロフィール

専門：国際経営論、イノベーション・マネジメント、経営戦略論
担当科目：国際経営論Ⅱ、経営情報論Ⅰ、キャリア開発論Ⅰ・Ⅱ、

学際演習、基礎演習、プレゼミ

★ご父母、学生へのメッセージ

本研究会には、幸いにして大変やる気のある学生が集まっており、日々切磋琢磨し、よい雰囲気になっています。向上心のある仲間が集まり、活躍の場を設定すれば、学生は素晴らしい力を発揮してくれます。

★学生からの一言

荒井ゼミでは、経営の新鮮な話題を取り上げ、それを発表するスタイルで行っています。さらに、ゼミのみんなはやる気に満ちていてお互いに刺激し合える仲間が集まっています。

ゼミナール紹介

伊藤ゼミナール



交流しながら研究を進めています。

★ゼミの指導内容や特色

会社法に関する研究を中心に活動しています。会社をめぐる環境は、日々変化しており、会社に関する法規制も大きく変動しています。新会社法や金融商品取引法（旧証券取引法）の施行といった法令の変化、敵対的買収や企業再編といった実務界における動向等を、具体的事例を取り上げながら研究しています。上級生と下級生がグループを作り、ゼミ員同士が

★先生のプロフィール

会社法、企業取引法、有価証券法を担当しています。現在、「企業環境の変化と会社法の変遷」という点に興味を持ち研究しています。また、横浜出身ということもあり、海法にも興味を持ち研究しています。

★ご父母、学生へのメッセージ

いろいろなことにチャレンジし、本当にやりたいことを早く見つけてほしいと思います。また、ゼミナールで得た友人は一生の宝です。本当に大切にしたい時間であり、機会であると思います。

★学生からの一言

会社法は、学生にはなじみがない科目ですが、話題となった実際の出来事を題材に研究を進めることで、興味を持つことができ、また、将来にとって役に立つのではと思います。

岩隈ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

憲法および行政法判例を中心に、法律学の学習を進めています。どの法律分野でもそうですが、判例を読みこなしていくためには、憲法なら憲法だけを勉強していてもわからない部分が出てきます。そういう部分を理解するのに必要な範囲で他の法律についても学ぶ機会もあります。希望があれば、裁判所や官公庁などの訪問学習も行

います。

★先生のプロフィール

プライバシー権や個人情報保護法といった情報法を専門としていますが、これらは憲法や行政法という、国・自治体と私たち市民の関係を規律する法制度の一部なので、本学では情報法制だけではなく憲法や行政法関連の科目を担当しています。公務員試験や法律系の資格試験の受験相談にも応じています。趣味は旅することと食べること。

★ご父母、学生へのメッセージ

「空気を読む」ことが尊いとされる昨今ですが、私はこの言葉が大嫌いです。空気を読むことは、しばしば思考の停止を伴い、かつ正当化します。時に空気の流れを切り裂くことができる力量をつけることが大切だと考えます。

★学生からの一言

先生の憲法概論という授業のせいで、岩隈ゼミは厳しいと思われるかもしれませんがそうでもなくて、先生は意外にも話しやすいです。勉強も大学生活も充実させたい人は来てください。

馬田ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

国際経済の問題を考えるゼミである。ゼミ生は総勢37名（うち女子14名）。今年の研究テーマは「金融危機と世界経済の新秩序」。世界金融危機はなぜ起きたのか、危機の後遺症とは？これからの世界経済はどんな構図になるのか。国際経済の動きを探ることがいかにエキサイティングであるか、その面白さがわかるようなゼミを目指している。

★先生のプロフィール

専門は国際経済学。「世界経済体制（WTO、FTAなど）」と日本の通商戦略」が主な研究分野。担当科目は世界経済論、アメリカ経済論、演習など。趣味は「花より団子」で、旨いものを食べること。しかし、最近は妻から美食は体に悪いと言われ、カロリーと塩分控えめの食生活を押し付けられ、趣味に生きるのもままならぬ状況だ。そこで始めたのが「男の料理」。

★ご父母、学生へのメッセージ

「熟慮、決断、実行、責任」。学生から人生相談を受けたときに必ず贈る言葉である。右か左かの選択をするときは優柔不断になるな。熟慮を重ねて決断し、躊躇することなく実行に移せ。自らの決断と行動には責任を持って。

★学生からの一言

「最近の学生は新聞を読まない」、これが先生の口癖である。そのためだと思うが、毎回ゼミの最初に先生が、新聞記事のコピーを配って最新の国際経済問題を解説してくれる。熱意が伝わる授業である。

大山ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

私達のゼミでは刑法について学んでいます。授業では、代表者がレジュメを作成して発表し、そのテーマについてひとりひとりが意見を出し合い、論じていきます。採り上げているテーマは抽象的事実の錯誤や管理・監督過失などです。ゼミの特色としては、学年別に授業を行っています。それぞれの学年にあった学習ができます。また、先生と学生との関係がフレンドリーなので、疑問に思うところがあれば気軽に先生に質問が出来ます。法学検定試験の合格にも力を入れており、資格試験の勉強なども両立がしやすい環境であるところも特徴です。

★先生のプロフィール

専門は刑法総論と経済刑法で、現在「刑法総論」「刑法各論」「経済刑法」「税法各論」などの科目を担当しています。研究テーマは「管理・監督過失」と「詐欺罪の現代的役割」で、このテーマで研究報告をしたりしています。趣味は料理で、パエリア作りに熱中しています。

★ご父母、学生へのメッセージ

努力の重要性をいまの学生に伝えたいと思っています。

★学生からの一言

私達のゼミは皆で活発に意見を出し合い、学習しています。また、緩やかな討論形式の授業ですので堅苦しさなくのびのびとした授業で参加者全員が和気あいあいと勉強しています。（三年・大野七奈）

岡村ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

ゼミのテーマは「高齢者の介護問題を考える」です。多くの人がいずれは関わりざるをえない「高齢者の介護問題」への対処のあり方を、ゼミ生同士の議論や交流を通じて考えています。今年度は近隣の認知症高齢者のグループホームを定期的に訪問するなどして、地元の高齢者介護施設への支援のあり方について考えています。

★先生のプロフィール

専門は社会福祉学と保健学で「社会福祉学」、「社会福祉政策論」などの科目を担当しています。研究テーマは「高齢者の介護政策」で近年は特に外国人介護労働者の受け入れ政策に関心を持っています。趣味は「走ること」で月に一回は各地のマラソン大会に参加して体を鍛えています。

★ご父母、学生へのメッセージ

大学は様々な考えを持った人々との出会いの場であると思います。できる限り多くの人と議論をしながら、より多くの視点で物事を考える力を身につけて欲しいと思います。また、他者との議論を通じて自分自身がするべきことは何かについて深く考えるところにも、「協働」の場である社会での生き方を学んでいただきたいです。

★学生からの一言

高齢者の介護問題に対してまずは身近なところからできることを探そう心がけています。時間の許す限り、地元にある高齢者の介護施設を訪問したり、地域に住む高齢者の方々との交流の機会を持つたりしたいと思います。

小野田ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

国際経済・環境問題で日本経済との接点を対象とし、日本という立場から世界を見据えることを目的としています。現代経済討論会、共同・個人研究発表、チームデイベート大会などの手法をもちいて、経済問題へのアプローチの仕方を学んでもらいます。新入生歓迎会、夏合宿、学園祭発表、春合宿、卒業コンパなど、「よく学び、よく遊べ」のモットーで、行事は多彩です。

★先生のプロフィール

国際経済学が専門です。担当科目は国際貿易論Ⅰ・Ⅱ、環境政策論、基礎演習、演習、卒業研究（以上は学部）、国際経済論、国際貿易特論、開発協力、国際貿易論演習（以上は大学院）、などです。趣味は、学生時代の文芸研究・執筆から始まって、スキー、ゴルフ、推理小説、戦記物、ワインなど様々変わりますが、とにかく「熱しやすく、さめやすい」のが欠点です。

★ご父母、学生へのメッセージ

ゼミ活動を通じて、学生一人一人がうちに秘めた未来への可能性を大いに開花できるよう、努めています。やがてソフィステイケートされた人間に育ち、社会に巣立って行くことを期待しています。

★学生からの一言

2年と3年合同で共同研究をおこなっております。研究成果は学園祭の共同研究発表会で披露します。先生からのコメントはいつも辛口ですが、努力はかってくれます。

加藤ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

マーケティングを中心に、企業経営や市場分析を多角的に学ぶゼミです。2年次は「鍛える」がテーマで、締切日の異なる複数の課題を並行して処理する能力を養います。3年次はマーケティングに関する各自の素朴な疑問を出発点に、関心のある領域の自主学習、杏園祭等での成果発表、卒業論文の構想・途中経過のプレゼンテーション準備等を通じて学ぶことの「楽しさ」を実感します。4年次は現状分析↓問題意識↓客観的なデータに裏付けられた論の展開↓戦略的示唆の流れに沿った卒業論文を形にして「達成感」を得ることを最終目標としています。

★先生のプロフィール

修士課程修了後、市場調査会社に2年間、スターバックスコヒージャパン株式会社経営企画室、店舗開発本部ほか約10年間勤務（その間、後期博士課程単位取得退学）。マーケティング・プランニング、出店計画の立案、新規出店時の売上予測モデル構築、店舗のパフォーマンス分析等に携わりました。

★ご父母、学生へのメッセージ

お陰様で明るくて前向きな2期生を多数迎えることができ、ゼミの活気が増しました。ご息が卒業までに何かを考え抜いた後に得られる達成感を味わい、実社会に出る上での自信をつけていただけるようにしっかり指導させていただきます。

★学生からの一言

ゼミ前日の水曜日はプレゼン準備で睡眠不足になることが多く大変だけど、メリハリがあり、みんな良い人で楽しいゼミです！ここは「ヤル気を自信に変える場所」です。

川村ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

川村ゼミでは、グローバル化社会に対応できる広い視野を持つように、様々な国際問題に関する国際法規範や制度を学んでいます。また、自ら課題を発見し、文献を読んで調べ、議論の中から理解を深め、問題解決方法を見出すといった社会人基礎力を高めることを重視しています。ゼミの仲間と協力して学内のみならず学外での諸活動にも積極的に参加することも推奨しています。

★先生のプロフィール

専門：国際法、特に人権法・人道法・国際機構法関連分野

担当科目：国際法Ⅰ・Ⅱ、国際協力論Ⅰ・Ⅱ、学際演習、プレゼミ

ナール、基礎演習、演習、卒業研究、国際法特論A・B、

国際法論、論文指導

趣味その他：ヨガ・太極拳・散歩・書道・美術鑑賞

★ご父母、学生へのメッセージ

大学生活4年間、教養を深め、個性を発揮しつつ他者と協力して生きていく力を培えるように、様々なことに主体的・積極的にチャレンジしていただきたいと願っています。

★学生からの一言

川村ゼミの良いところは、先生が、厳しくもゼミ生の主体的な行動を応援してくださるところです。ゼミ生間の繋がりが強く、研究に関しても充実しています。

ゼミナール紹介

北島ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

ゼミ生の関心が高い健康問題に関連したテーマを設定し、みなで分担をして研究をしています。関連する文献をもとにした報告や、アンケート調査の実施・データ分析などを行い、杏園祭での研究報告を目指して頑張っています。今年度は「八王子キャンパスの防災対策」について勉強をしています。

★先生のプロフィール

発展途上国の健康問題を研究しています。この10年間はタイのHIVの感染予防や治療へのアクセスについて、タイの研究者と共同研究を実施しています。担当科目は医療経済学、健康科学です。食べることで、お酒を飲むこと、映画を観ること、海外に行くことが好きです。

★ご父母、学生へのメッセージ

在学中に一度は海外（特に発展途上国）に行き、自分の世界を広げて欲しいと思っています。

★学生からの一言

北島ゼミでは、保健・健康をテーマとして活動をし、3年生は3月11日に起きた東日本大地震をうけ、八王子で大地震が起きた場合どうなるか、というテーマで活動しています。

木下ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

1、きちんと学ぶ楽しくかつ真剣に学ぶ。2、きちんと調べる調査力・探索力、情報力をつける。3、きちんと読み、考え、掴む分析力、解釈力、判断力をつける。4、きちんと表現する文章力、プレゼンテーション力、応用力をつける。5、きちんと聴き、討論・対話するコミュニケーション力をつける。この5つが木下ゼミのテーマです。

★先生のプロフィール

専門分野：出版産業、出版流通、著作物再販適用除外制度、流通、eコマース、消費社会論など。

★ご父母、学生へのメッセージ

青春とは果敢に冒険することです。学生時代にチャレンジしたことで、真剣に学んだこと、出会ったことなどの体験が、いつか必ず生きてくるときがきます。「いま」という時間を大切に切磋琢磨してください。「艱難汝を玉にす」、です。

★学生からの一言

前期は輪読でピーター・ドラッカー著『マネジメント』を取り上げ、全員で分担して読んでいき、なんとか全部読破しました。これは『もしドラ』の親本にあたる本ですが、いろいろ勉強になることが書いてありました。後期はフィリップ・コトラー著『コトラーのマーケティング・コンセプト』を輪読で読んでいます。ところで、就活ではなんとか内定をいくつか取ることができましたが、そこへいくまでが本当にいろいろきつかったです。（4年生・増田和馬）

木村ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

木村ゼミではおもに企業研究をおこなっています。今年の前期は毎週、各自が企業を1社ずつ取り上げてプレゼンをしました。日産から、観賞魚のエサを扱う企業まで、テーマとする企業選びにも学生の個性がでます。また、「震災と企業」をテーマに、全員で新聞スクラップを行いました。後期は日清食品に関する本を読み、カッ

プスードルミュージアムを訪問する予定です。5年目をむかえる木村ゼミは、なぜか男子学生ばかり。そのぶん、めめごともなく仲良くやっているようです。ただ、夏、冬の合宿時の暴れっぷりには頭が痛いです。

★先生のプロフィール

現在の担当科目は、経営組織論、国際経営論、キャリア開発論です。在タイ日系企業の研究を専門としていますが、最近では企業経営へのアジア的価値の導入について考えています。山ガールはじめました。「これはきつと防災にも役立つからいいよねっ」と自分に言い訳をしながら、たいして使わないアウトドアグッズを買って喜んでいきます。

★ご父母、学生へのメッセージ

ゼミ生諸君、私は皆さんがもりもり食べて、笑って、大きな声で意見を言えればそれで良いと思っています！でも、お願いだからちよつとだけ本を読んでください。「新書」とは新しい本のことはありません！

久野ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

本年度の前期、二年生はプレゼン技法、winwin型の交渉術、問題解決手法など、社会で役立つ各種の「お作法」を演習形式で学びました。三年生はマクロ経済学、ミクロ経済学の基礎を学習しました。夏休みには台湾でゼミ合宿を行い、現地経済事情に関するリサーチを行い、成果を杏園祭で発表する予定です。

★先生のプロフィール

民間のシンクタンクで10数年間サラリーマンとして勤務した後、脱サラし、昨年4月に本校に着任いたしました。専門は経済学、担当科目は経済原論演習、アジア経済論、経済開発論などです。趣味は音楽と旅行です。

★ご父母、学生へのメッセージ

ゼミ生が少しでも充実した人生を送るために自分に来ることは何か、日々自問自答しながら、楽しく、時には厳しく、真摯な態度で学生と接していきたいと思っています。

★学生からの一言

毎週何らかの課題や発表があり大変ですが、社会で困らないよう指導をして頂き、満足しています。厳しい面もありますが、勉強以外の相談にも親身に応じて頂ける先生です。

ゼミナール紹介

出口調査や意識調査など、授業では体験できないことに取り組めるのが、木暮ゼミです。またグループワークを通して、協調性を養えることもでき、社会人になっても通用するスキルを学ぶことができます。



★**ご父母、学生へのメッセージ**
ゼミは、学生にとつての「居場所」だと思っています。何かを学ぶことを目的に仲間が集まれる場所は、大学でも意外と少ないと思います。ゼミ活動を通じて、人間として成長するきっかけをつかんでくれればと願っています。

★**学生からの一言**
2、3年生は男子ばかりですが、皆元気いっぱい、浄水場見学、環境展見学など、活発にゼミの活動をしています。今年も杏園祭での合同ゼミ発表会に向けて勉強し、最終的には環境に詳しくエコな人間になれる様、皆で頑張っています。

★**先生のプロフィール**
専門は政治学で、とくに現代の民主主義に強い関心をもっています。担当する科目は、公務員試験対策を兼ねた政治学概論、専門科目としては公共選挙論・政治組織論などを担当しています。趣味は観劇で、蛭川幸雄さんが演出する作品がとても好きです。

★**ご父母、学生へのメッセージ**
ゼミの活動では、学生にとつて初めての経験となることが多くあります。仲間たちと良い刺激を与え合いながら、ともに成長している環境をつくっていききたいと考えています。

★**先生のプロフィール**
専門は環境経済学、環境政策で、最近では、廃棄物・リサイクルの問題に関心をもっています。担当科目は経済学A B、環境保全論I II、環境経済学I IIです。趣味はジョギングで、今年フルマラソンに挑戦する予定です。

★**先生のプロフィール**
して「福島原子力発電所事故」などのテーマに取り組みました。杏園祭では、合同ゼミ発表会と屋台（肉まん）で参加します。

木暮ゼミナール



★**ゼミの指導内容や特色**
ゼミでは、まず毎週800文字程度のレポートを書いて発表するという活動からスタートします。最初は大変ですが、慣れてくると文章も上達します。4〜5人のグループで政治的なテーマについてディスカッションもします。自分の意見を発表し、他人の意見を聞くということが、社会に出たときに、とても重要な力となると考えています。また、衆議院選挙や参

斉藤(崇)ゼミナール



★**ゼミの指導内容や特色**
斉藤崇ゼミでは、環境問題をテーマに、調べる・考える・表現することを身に付けていきます。今年度は、2年生によるプレゼンテーションのほか、テキストの輪読、グループワークの発表、浄水場の見学などをおこないました。グループワークでは、「チエルノブイリ原子力発電所事故」、「日本のエネルギー」、「スギ花粉」、そ

齋藤(元)ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

今年の齋藤元秀ゼミでは、アジアの冷戦や現代日本外交などを中心に勉強しています。報告者による報告の後、質疑応答の時間に入ります。最後に、その日ゼミで学んだ重要事項や自分の考えを指示された字数にまとめて先生に提出します。OKが出るまで、何度も書き直すように指示されます。ゼミ生諸君にとってなかなか大変ですが、文章表現力が確実についてきます。

★先生のプロフィール

出身は北海道の函館市です。高校時代にサイクリングに一時凝り、函館市の郊外に、友達と一緒に自転車をよくでかけました。大沼国定公園などです。冬はスキーを自宅の近くで楽しみましたが、近年は温暖化の影響であまり雪が積りません。以前は、水彩画をかくのも好きでした。

担当科目は、学部ではゼミの他に国際関係論、ロシア政治論、学際演習などを担当しています、大学院でも国際政治関係の授業を担当しています。

★ご父母、学生へのメッセージ

大学時代は自由に使える時間がたくさんあります。目標をしっかりと定め、有意義に過ごして下さい。いつも強調しているのですが、パソコンや英会話なども頑張って習得して下さい。

★学生からの一言

とても楽しいゼミです。秋の大学祭には、昨年同様、出店を予定しており、みんな張り切っています。天気気がかりです。

佐藤ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

昨年度は新聞記事を憲法の視点で料理しました。本年度は法学検定3級の憲法の問題に取り組んでいます。予習し、授業で問題を解き、先生の質問に応答し、復習する、という習慣を身につけるようにしています。さしあたっての目標は11月に実施される検定での合格。合格すれば卒論の負担緩和というご褒美が待っています。

★先生のプロフィール

憲法、行政法といった公法を専門としています。両者の関係がまだ十分に整理されていない過渡期にあるので、取り組み甲斐があります。担当科目は、憲法Ⅰ（統治機構）、憲法演習、法学A（法学入門）、法学B（日本国憲法）、基礎演習、ゼミ、プレゼミ、学際演習、教職総合演習（人権）です。

★ご父母、学生へのメッセージ

公法は公権力と個人の関係を規律する法です。「公」の存在意義は？目的は？限界は？時代に応じて考え続けてゆかねばなりません。

★学生からの一言

このゼミに入って良かったことは、他のゼミではできない経験ができたことです。五月に裁判所に行って裁判を傍聴し、その事件を憲法学的視点から考察しました。このような授業は自分の人生においてとても貴重なことだったと思います。また授業中の雰囲気も良く、非常に落ち着いています。一度見学に来てみませんか。

（文責、野口陽平）

ゼミナール紹介

島村ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

毎週、学生たちは、本か論文を読み、レジュメを作成して、プレゼンを行います。その上で、質疑応答や議論を展開します。また自分自身が感心を持った新聞記事を1枚以上紹介します。指導教官の私からも「*International Herald Tribune* 紙の記事を紹介することがあります。そして、「インテリカレッジ」の学生セミナーに、積極的に参加します。

★先生のプロフィール

「国際関係論」と「アメリカ政治外交」を研究・教育しています。趣味は、古典の本を読むこと、「国際関係論」以外の学問を学ぶこと、歌を歌うこと、絵を描くこと、見知らぬ街を散歩すること、姪と甥と遊ぶ（さりげなく英語と歴史を教える）ことです。

★ご父母、学生へのメッセージ

ある哲学者が言ったように、「大学とは学問を通じての人格形成の場である」と考えます。また大学では、学生が自由にすべてを選択するため、すべて自己責任です。できるだけ早く目標を定め、毎日毎日を大切に、有意義に過してほしいと思います。

★学生からの一言

「学問を真面目に学ぶもよし、話し合い等で自己を確立していくもよし、面白いしめになる。そんな基礎演習です」「島村先生のゼミでは他大学とのインターンカレッジに行くなど積極的に他大学との学生とのコミュニケーションをとっています。これにより自分自身の学問に対する視野を広げています。島村先生自身も学生の指導に対しては熱心な先生なので国際政治学を学びたいという人はぜひ島村ゼミに来てください」。

進邦ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

ゼミナールでは、日本の地方自治に関する研究を行っています。また学生諸君が「人前で話す」機会を設けることで、社会人基礎力を身につけてもらいたいと考え、論理的思考を養うため2年生はディベート、コミュニケーション能力を養う3年生は共同研究を行い、集大成として4年生は卒業論文をまとめています。運営の基本は、明るく、楽しく、厳しくです。

★先生のプロフィール

専門：行政学・地方自治（自治体における市民参加手続）

担当科目：行政学、行政学演習、地方政府論、ゼミ、プレゼミ

趣味：釣り（溪流、ワカサギなど。海釣りもやりたいのですが……）

映画を見ることも好きです。007シリーズがお気に入り。
食べ歩きも大好きです。

★ご父母、学生へのメッセージ

大学での4年間は長いようでいて、短いものです。しかし、人生の中でも珍しく他人に干渉されにくい4年間です。上手に使ってください。私たち教員も、できるだけそのお手伝いをします。後悔しないように。

★学生からの一言

私たちのゼミでは、ディベートやグループ研究などを行いながら、地方行政について学んでいます。先輩や先生の指導の下、日々目標に向かって頑張っています。（3年代表 船越聖奈）

高坂ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

人口と環境を主なテーマとしています。各学生はそれぞれの課題を半年ほどかけて指導教員と相談しつつ主体的に選定し、その課題について調べ、勉強した成果を定期的に発表します。発表者はレジュメを作成・配布し、質疑に応じ、討論します。発表の十分な準備はもちろん、ゼミ生全員が積極的に討議に参加することを重視しています。

★先生のプロフィール

専門は人類生態学です。環境や適応を考えつつ多様な環境に暮らす人間の生存システムを明らかにする学問分野です。ジャワ島やアンドン高地で長期の現地調査、パプアニューギニアやトンガあるいはラオスで短期の調査を行ってきました。人口学や国際保健学も担当しています。むかし剣道をやっていました。現在ラグビー部の顧問をしています。

★ご父母、学生へのメッセージ

学生は大学で良い教育を受ける権利を有しています。学生がこの権利を放棄せず、存分に行使して大学を活用し、実り多い学生生活を送ってほしいと思っています。欠席や授業中の私語は権利の放棄にほかなりません。

★学生からの一言

毎週数人ずつ各自のテーマについて発表しており、全く知らなかった環境のことや、複雑な人口のしくみを知ることができ、学年を問わず皆とても仲のよいゼミです。『自らが伝える』ところが、通常の講義とは達成感が違います。

高田ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

高田ゼミでは、2年生は簿記の勉強を、3年生は会計学の基礎理論を勉強しています。学生同士、分からないところを教え合い、発表者の理解を深めるような問題点を見つけ、質問やフォローをするようになりました。あまり実感の持てる分野ではないのですが、資格を取り、企業や社会の状況を理解できるようにすることが目標です。

★先生のプロフィール

専門は会計学で、不確実な将来事象、とくに負債を、いかに財務諸表に反映させるかということに関心を持っています。今回の震災では、多くの企業において、既存のものが破壊され、将来的な支出を負うことになりました。これらの出来事の財務諸表への影響にも注目しています。

趣味は、芝居や落語を観る（聴く）ことです。

★ご父母、学生へのメッセージ

大学の4年間は、人生における宝物のような時間だと思っています。自分で選択し、自分で学び、自分を成長させられる時間を、ぜひ大切にして下さい。

★学生からの一言

ゼミの友達と話しながら勉強できるのが楽しいです。簿記は難しかったのですが、だんだん面白くなってきました。



武田ゼミナール

★ゼミの指導内容や特色

組織心理学、人材マネジメントの領域について、2人乃至3人でチームを組み、テーマ設定をし、研究した内容を、発表・討議するという授業形式でゼミが進められている。

★先生のプロフィール

長年企業で人事部門の仕事に従事した経験と、大学で専攻しその後研究を継続してきている心理学を活かした、実践的な授業を心掛けています。

★ご父母、学生へのメッセージ

大学時代に何か一つでも、打ち込んだ体験がもてるとよいです。

★学生からの一言

テーマ発表の準備は結構大変ですが、やり遂げた後の充実感は何ものにも代えがたいです。



武内ゼミナール

★ゼミの指導内容や特色

ゼミのメンバーには留学生も多く、国際色豊かである。くだらない偏見で他の国をみるのではなく、世界の多様性を見つけられるようにゼミの学生たちに要望している。

★先生のプロフィール

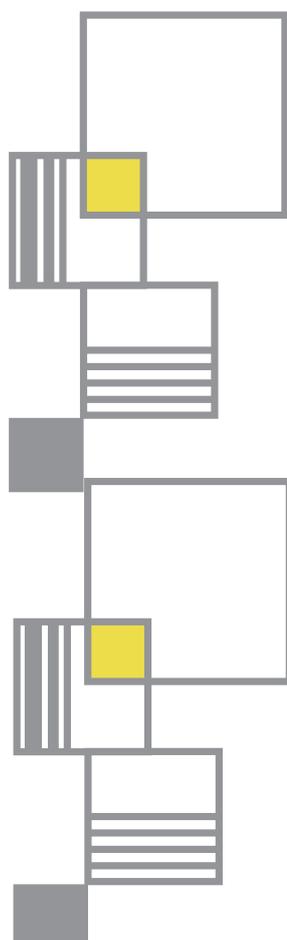
専門は経営学・経営史である。これに関連した科目を担当しているが、世界の動きに関するニュースを輪読している。

★ご父母、学生へのメッセージ

日本の内外とも不安定な様相を呈しているが、グローバルな世界への対応を考えてほしい。

★学生からの一言

厳しい先生の指導のもと、グローバルな世界で羽ばたけるようがんばりたい。



田中ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

経営学の著書を輪読し、討議を行います。学生らは、人前で意見を述べることに徐々に慣れていきます。また、八王子市主催の発表会でビジネスプランを発表したり、本年は日本経済新聞・野村證券が主催する「ストック・リーグ」で証券投資プランを提案します。コミュニケーション能力を向上させ、「就職力」を高めることが目的です。

★先生のプロフィール

専門…経営学、コーポレート・ガバナンス、CSR
担当科目…経営管理総論、財務管理論

趣味…テニス（テニス・エルボが直りましたが、今後とも注意が必要です）、マイナーな国の映画を見る、小説を読む。

★ご父母、学生へのメッセージ

限られた4年間ですので、毎年、何らかの目標設定を学生らと面談を通して決めるようにしています。勉強や資格試験以外にも、視野の広がる経験を願っています。

★学生からの一言

毎回の授業で企業や社会をテーマにして話し合い、自らの意見を主張することや他の人の話し方を聞くことで自分の力となります。ゼミナールの良さがわかるゼミだと思います。

千葉ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

税法や会計学に関りのある千葉論文の発表を軸として、簿記の研究発表を行っている。簿記の研究では、四年生のみならず、大学院生の協力・指導もいただいている。夏の合宿では、先生から出題された課題を事前に検討した上で、現地（会津若松）に臨み、全員参加型の討論形式で運営している。なおゼミナールは学生自身の手による自主運営で行っている。

★先生のプロフィール

専門…税法・会計学
担当科目…税法（学部）、比較税法特論、会計学演習（大学院）

趣味…テニス、旅行

★ご父母、学生へのメッセージ

われわれ学生自身の手による自主運営であるため、他では味わえない、さまざまな体験を楽しんでいます。

★学生からの一言

自主運営を円滑にするため、さまざまな企画の体験をしています。社会に出てからの自己アピール力が養えるゼミである、と自負しています。

ゼミナール紹介

豊島ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

「この国の形」をテーマにして、新聞や文献を用いて政治、経済はもちろん社会面を賑わす事件なども話題にして日本の今を分析し熱い議論を行っている。

毎週行われる発表では皆関心分野が異なり、各人が様々な方面から「この国の形」の変化を分析し、豊島教授の下で切磋琢磨している。また、有識者をお招きしたり、学外の研究会に参加して視野を広

げ就活意識も高めている。

★先生のプロフィール

時事通信社記者（佐藤、田中内閣、国会などを担当）、法務省大臣秘書官（政務担当、中曽根内閣）、大正大学講師などを経て作新学院大学教授、平成18年から杏林大学総合政策学部教授。

日本の政治論などが担当科目であり「戦後日本の首相の施政と政治手法」を研究テーマにしている。またインターンシップ（就業体験）授業も担当している。

★ご父母、学生へのメッセージ

豊島ゼミナールは行動するゼミとして今後も大学行事に積極的に参加し、杏林大学をますます盛り上げていきます。また、ゼミでも国会、憲政記念館、防衛省、最高裁見学などを行い視野を広げ就活意識も向上させている。就活水河期を乗り切るため、新聞を読み、ニュースを視聴するなどの良い習慣を身につけるよう促してもいる。

★学生からの一言

豊島教授はゼミ生の一人一人に熱心に指導されています。これに応えるよう我々ゼミ生も学生の自分である研究活動に打ち込み、大学内外の行事にも果敢に取り組んで行きたい。

内藤ゼミナール



★ゼミの活動内容や特色

会計学を研究しています。3年生はグループに分かれ、課題を研究します。今年はまず4月～6月に企業の財務諸表について研究し、資金調達についてのシミュレーションを行いました。次いで現在はアメリカの会計理論について、歴史的に研究しています。4年生は卒業論文の作成を行います。ゼミナールは団結をモットーとしています。横のつながりだけでなく、先輩後輩といった縦のつながりも非常に良いゼミ

ナールです。

★先生のプロフィール

20世紀前半期のフランスにおける会計制度形成過程が専門研究領域です。2001年度には1年間、フランスのトゥールーズで在外研究を行いました。今年度の担当科目は財務会計論・基礎簿記各論です。硬式野球部の顧問もしており、学生達と時間を共有することが大好きです。

★ご父母、学生へのメッセージ

ゼミナールは学問だけでなく、大学生活の中心になると 생각합니다。ゼミナールでの学習を通して、複雑な現代社会を生き抜く武器を身につけるとともに、一生の友人を得て、素敵な思い出を作って欲しいと思います。私も大学生生活のさまざまな局面で、学生達のバックアップができればと考えております。

★学生からの一言

杏園祭や合宿で一致団結して課題に取り組むことができる、仲の良いゼミナールです。伝統である毎週火曜日のスーツでのゼミナールの活動は、気が引き締まると同時に就職活動前にスーツになれることもできて、とても有意義なゼミナールです。

西ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

西ゼミでは、①さまざまなデータを自ら加工する技術を身につける、②人前で適切なプレゼンテーションができる、③人の報告にコメントしたり、ディスカッションを行うことができる、の三つの能力を訓練することを目的として、本の輪読や、共同研究を行っています。

★先生のプロフィール

専門は国際経済学です。その中でも特に、マクロ経済政策や国際通貨制度の問題を研究しています。

担当科目は、国際金融論、経済原論等です。

趣味は、音楽（あらゆる分野の）、芸術（絵画、彫刻、建築）です。最近では合気道に精を出しています。

★ご父母、学生へのメッセージ

学問の本質は、知識をかき集めることではなく、考え方を鍛えることにあります。毎日、腕立て伏せや腹筋をするような気持ちで、考え方を鍛え続け、それを人に伝える工夫をし続けてください。

★学生からの一言

西ゼミは経済や金融についてディスカッションを行い、考察力や発言力を養い、社会に出て必要な能力を身につけています。少人数ですが、音楽とONE PIECEを愛する西先生のもと楽しく活動しています。

野山ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

本ゼミでは、「食」に関する理解を深めることを中心にゼミ活動を行っている。今年度はゼミ生の数が少なく、3年生と4年生が一緒になって、各自が決めた一つのテーマについて毎回報告を行っている。レポートを重ねることで、テーマへの理解を次第に深めている。選ばれたテーマは、朝食欠食、牛肉の生食による食中毒事件、栄養ドリンク、和食とは何か、ファーストフード産業の動向、食品の放射能汚染など。

★先生のプロフィール

専門は保健学（疫学、健康づくり）。学部では人体構造機能論と健康福祉システム論、大学院では国際疫学特論を担当している。杏ジャム作り、お祭りへの参加などを通じて、学生と地域との交流を試みている。

★ご父母、学生へのメッセージ

若い世代の育成は社会の将来に関わる重要な営みです。つい目先の仕事に追われてしまうのが日常ですが、様々な形の世代間交流にもっと時間を割いても良いだろうと思っています。

★学生からの一言

ゼミでは朝食欠食など、食について調べています。毎回、それぞれが食をテーマに調べレポートとして発表し、それに意見や考えを述べています。（平田）

橋本ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

今年度から、医療をめぐる法律問題について勉強しています。最初は、法律の基礎学力をつけることから、次第に具体的なテーマに杯っていきます。

4年生はこれまで通り、刑法、刑事訴訟法に関する卒業研究を行っています。

★先生のプロフィール

刑法、刑事訴訟法、医事法。この10年ほどは、病院前救護（プレホスピタルケア）をめぐる法律問題について研究・発表し、公的委員を務めています。

★ご父母、学生へのメッセージ

10年前までの「ガンガン」やるゼミから、今は、自分達の関心のあるテーマを選んで、勉強するようにしています。アット・ホームな仲で学問を感じとるようにしています。

★学生からの一言

楽しく、厳しく勉強したいと考えている人は入ゼミして下さい。

原田ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

研究会は、学年によりそれぞれ課題が異なります。二年生の基礎演習では、簿記検定3級または2級の合格をめざし、練習問題をこなすことを内容としています。3年生の演習では、前半は杏園祭で行う研究発表のための冊子作り、後半は卒業論文のテーマの検討と章立ての作成を行っています。4年生の演習では卒業論文の個別指導を行っています。

★先生のプロフィール

専門は会計学（財務会計論）。財務会計論の分野のうち、特に日本の近世および近代の会計史を専門に研究を行っています。講義では1年生向けの基礎簿記ⅠおよびⅡにおいて複式簿記の基本的な手続きを取り扱い、2年生以上向けに財務会計各論Ⅰにおいては現代の財務会計の諸問題を、Ⅱでは中世イタリアから現在に至るまでの複式簿記・会計の歴史をたどります。

★ご父母、学生へのメッセージ

学生のみなさんには、自由な大学時代に自分の将来についてじっくりと考えていただきたいと思っています。そして何かに興味を抱いたら、自由な大学生である間にその興味を大切に育ててください。その興味を大きく育てるために、時には冒険も必要です。勉強も必要です。きっと社会人になったとき、大学時代の経験があなたを支えることと思います。

★学生からの一言

原田研究会は、簿記や会計に関心をもった人だけでなく、経営のこと、そのほか様々な興味をもった人が集まっています。チームワークはばっちりです。ゼミで要求されることは、ゼミ活動に誠実に取り組めること、ただひとつです。毎週火曜日、みんなで仲良くゼミ活動をしています。

半田ゼミナール



いて学んでいきます。

★先生のプロフィール

専門は、政治学の一分野である日本政治史・行政史です。担当している科目は、政治学AおよびB、立法過程論、政策過程論、近現代史論、学際演習、基礎演習、プレゼミナールとなります。趣味は犬の散歩で、休みになると自分の運動も兼ねて、愛犬とともに長距離を散策します。

★ご父母、学生へのメッセージ

基礎演習は、ゼミに入るまでに身につけておかなければならない基礎知識を学ぶ場となります。しかしそれと同時に、一生涯仲良く付き合える友人を作る場でもあります。積極的にゼミ活動に参加してください。

★学生からの一言

半田基礎演習は今年より始まったゼミとなります。自分が気に入った政治に関する新聞記事を読んで、意見・感想などを書いていきます。新聞を読む機会も増え、好きな記事も選べるのでとても勉強になります。

★ゼミの指導内容や特色

半田基礎演習では、近現代の日本政治について、基礎知識を身につけることを目的としています。前期は、新聞記事を題材として短文の作成をおこなっており、その過程で時事問題への理解と関心を深めるとともに、文章表現の技術も学んでいます。後期は、近代日本政治史に関する文献を用いて、レジュメの作成や発表の技術につ

藤原ゼミナール



★先生のプロフィール

私の専門は、民法（不法行為法）です。そのほかにも、消費者関係法や環境・公害法なども専門としています。学部では、債権法・不法行為法、民法演習を担当しております。これといった趣味はありませんが、山中千尋さん（ジャズピアニスト）のライブは好きでよく行きます。

★ご父母、学生へのメッセージ

就職環境の変化などにより、大学生活における時間は少なくなる傾向があります。学生には早い段階から目的意識を持って、取り組むようにと指導しております。

★学生からの一言

藤原ゼミでは、ゼミ生の目指したい方向性に応じて、適切な指導をしてくれます。資格試験の学習についても熱心な指導をしていただいています。

★ゼミの指導内容や特色

藤原ゼミでは、法律学、なかでも特に民法を中心に学習・検討を行っています。民法は我々の社会生活にとって最も身近で重要な法律であるとともに、各種資格試験・公務員試験等においても必要とされる科目です。当ゼミでは各種試験の指導と学問的な深化をそれぞれの希望に合わせて行っています。

ゼミナール紹介

松田ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

古文書の読解演習や研究発表などを通じて、史料批判や史料操作の方法などが理解できるよう、指導しています。

毎年夏に実施している合宿では、奈良や明日香地方の現地踏査を通じて、日本の価値観の祖型が誕生した時代を体感するとともに、学生諸君やOBとの交流を深めます。

★先生のプロフィール

日本政治史・日本法制史のほか、大学院ではアジア交流史特論などを担当し、おもに諸文化の歴史の変遷を考察することを専門にしています。

とりたてて自慢できるような趣味はありませんが、近年とみに価格下落の激しい古書籍を、百円玉いくつか握りしめて衝動買いすることが、最近の密かな愉しみです。

★ご父母、学生へのメッセージ

このゼミに集う学生諸君の気質は毎年異なりますが、お互いの人格を尊重して思い遣る気風は、四半世紀にわたるゼミの伝統として変わることなく今に至っています。ぜひ次の代にも引き継いでいて欲しいものです。

★学生からの一言

最近の歴史ブームのせいか歴史のテレビ番組が増えた気がします。しかし、テレビでとりあげられているものは、ほんの一部でしかありません。日本人の広く深い歴史を、私たち松田ゼミは勉強しています。

劉ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

（ゼミ指導内容）

中国政治や日中関係に関する資料を講読し、発表と議論を行う。

〈特色〉

- 1、学生の関心に即して指導する。
- 2、広い視野から中国政治や日中関係を分析する。
- 3、異文化に対する理解を深める。
- 4、実際に日中交流に携わる人々に接し、学ぶ機会を持つ。

5、日本人学生と留学生とのディスカッションを通じて国際問題の理解を深める。

★先生のプロフィール

中国ハルビン生まれです。中国の人民日報外報部記者を経て、1991年に来日しました。専門は現代中国政治です。

学部の担当科目は比較政治学（Ⅰ、Ⅱ）、国際政治史（Ⅰ、Ⅱ）などです。今の関心を寄せている問題は中国の中央地方関係、日中関係です。大学で教育を行う傍ら、複数の国際政治コラムを持ち評論活動も行っています。

趣味は映画鑑賞、旅行です。

★ご父母、学生へのメッセージ

「温故知新」「自強不息」「特立独行」
学生諸君と共にこの3つの言葉を実践していきたいです。

★学生からの一言

日本人学生と外国人留学生が仲良く勉強しています。連日のように新聞の紙面をにぎわす日中関係ですが、ゼミの勉強を通じて、自分なりの視点を持って、議論するのが楽しいです。

渡辺ゼミナール



★ゼミの指導内容や特色

共通知識としての東アジアの政治・軍事・国際情勢を学んだ上で、その時々ホットな国際問題の調査報告を行います。また、皮膚感覚での国際センスも重視しており、年一回のゼミ合宿は海外渡航します。専門知識の習得以外にも、所謂「社会人基礎力」の育成にも力を入れ、就職率100%を目指します。

★先生のプロフィール

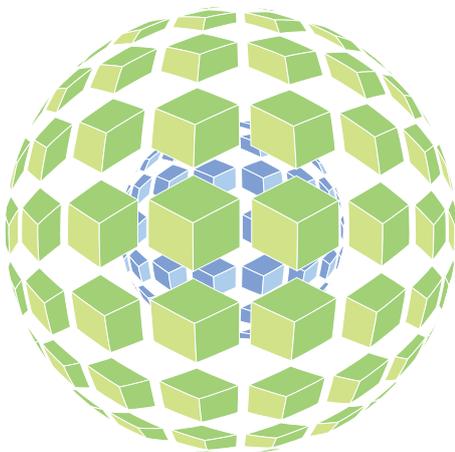
専門は中国・台湾の政治と国際関係です。特に、社会変動と政治の相関を研究しています。例えば、近年の中国に於ける経済成長が共産党一党独裁にどのような影響を及ぼしているのか等です。担当科目は、中国語、国際政治学、中国政治等です。杏林大学の他には、東京大学と一橋大学でも授業を担当しています。

★ご父母、学生へのメッセージ

就活は、3年生の冬から実質的に始まります。それまでに、必要なスキルを身に付け、アピールできる知識や体験を得られる様心がけて下さい。ただアルバイトや部活をするだけでは埋没してしまいます。

★学生からの一言

ゼミ中は結構緊張感があります。報告には、一人一つは鋭いツツコミを入れなければなりません。答える方も大変です。でも、コミュニケーション能力UPの実感は大です！

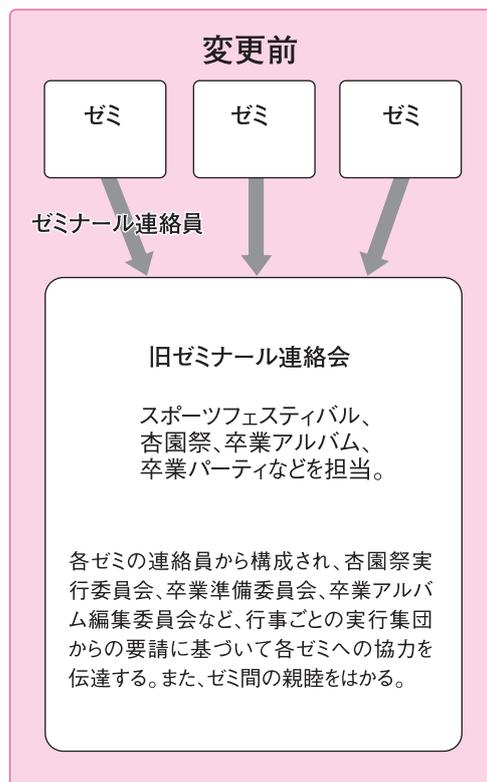
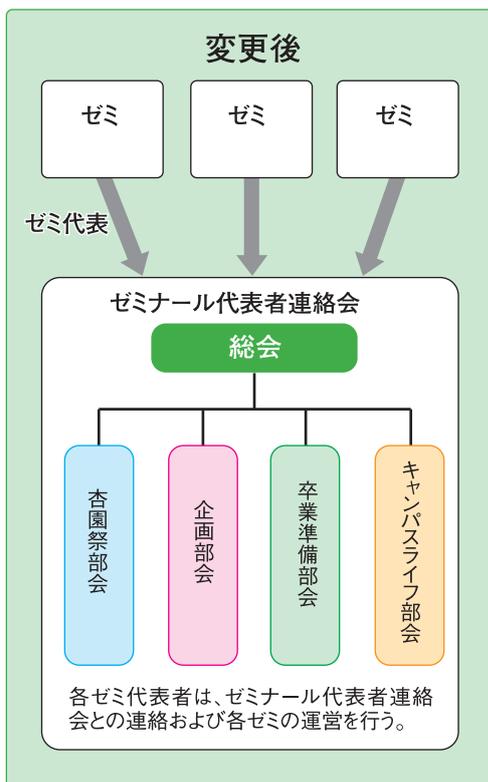


ゼミナール代表者連絡会

講師 久野 新

ゼミナール代表者連絡会（ゼミ連）は総合政策学部すべてのゼミナールの代表者で構成されている大学公認の学生組織です。本年度、ゼミ連の組織変更が行われ、四つの部会が新たに設置されました。学園祭における研究発表や講演会の企画・運営を行う「杏園祭部会」、ゼミ間の交流促進や学生自主活動の企画等を行う「企画部会」、卒業アルバムの準備や卒業記念パーティーの準備などを行う「卒業準備部会」、大学に対して様々な提言を行う「キャンパスライフ部会」です。本年度キャンパスライフ部会では、学生の視点から時間割やカリキュラムについて建設的な意見交換がなされました。企画部会では外部講師の方をお招きする講演会の企画や、社会見学の企画立案が行われています。引き続きゼミ連の活動に対するご支援・ご指導を宜しくお願い申し上げます。

ゼミナール代表者連絡会 組織図



杏園祭ゼミ連主催講演会を終えて

3年 勝木健太郎

(ゼミナール代表者連絡会委員長)

総合政策学部ゼミナール代表者連絡会は、毎年杏園祭において講演会を企画・実施しております。今年は一〇月八日(土)の午後、日本国際ボランティアセンター職員の佐伯美苗氏を八王子キャンパスにお招きし、「東日本大震災後の社会づくり」をテーマにご講演頂きました。

講演では、被災地気仙沼で撮影された豊富な写真を用いて復興状況のご説明を頂いたほか、震災後の社会づくりに関連する課題についても多くの視点をご提供頂きました。実体験に基づく佐伯講師のお話には説得力があり、我々の心に直接的に訴えかけるものでした。

講演中熱心にメモを取る学生や一般参加者の姿も見られたほか、講演終了後には震災ボランティアに参加した経験をもつ学生がフロアから質問を行うなど、東日本大震災後の社会のあり方に関する聴衆の関心の高さがうかがえました。

質疑応答終了後、総合政策学部を代表する四つのゼミナールによる研究報告がなされました。報告内容は「大学生と防災(北



島ゼミ)」、「介護施設における災害対策の現状と課題(岡村ゼミ)」、「デイズニールランドの震災対応に学ぶ(木村ゼミ)」、「震災復興における三つの視点(原田ゼミ)」など、いずれも震災や復興に関連するものでしたが、経営学や社会福祉など異なる学問分野から考察された、総合政策学部ならではの報告となりました。また佐伯講師より、発表を行った四つのゼミに対してコメントや今後の研究課題に関するアドバイスを頂いたことも、大きな収穫でした。

私自身、今回はじめて講演会の準備や当日の司会を担当させて頂きました。今回の経験から、本番の進行について何パターンも想定しつつ、準備を怠らざしつかりとリハーサルを行うことの重要性について学びました。物事を企画すること、大勢の方々の前で話をする、いずれも社会に出てから不可欠な能力だと思えますが、今回の経験を活かしていければと考えております。最後に、準備やリハーサルにおいて、学生委員会の諸先生方、私が所属するゼミの先生より多大なるご指導・ご助言を頂きました。改めて御礼を申し上げます。



杏園祭を振り返って

3年 山本 駿
 (杏園祭実行委員長)

参加された団体の皆さんも同じだと思いますが、実行委員にとっても一番の目標は杏園祭当日の活動で、意識は当日に向かっていましたから、終わってしまった今は、杏園祭以前の活動についてはあまり覚えていないというのが素直なところなんです。そのような中でも記憶に残っているのは、当時の自分たちにとって相当に「きついこと」や「大変だな、嫌だな」と感じたことです。実行委員の活動中、苦労したことや学んだことは、人によってそれぞれ違うものだと思います。実行委員も他の部活の活動も、4年でメンバーが入れ替わるという同じサイクルにいます。何事も初めて体験することに対し「大変だな」と感じるものだと思いますが、いろいろな経験の中で新しいことに気づき、成長していく内容は、同じサイクルにいても皆違うのだなと思いました。ただ、実行委員会は「自分たちがやりたいこと」を「やらせてもらえる環境」を頂いているわけですから、実行委員一人ひとりの意識の根底にはその考えがあり、「本当」に嫌なことは無いものだと思います（こんなことを言ったら無神経だと怒られますが）。

僕がのんきにいられたのも、個々が「やりたい」ことに対し真剣に取り組んでくれたからだと思っています。大学生活においては、いろいろな選択ができると思います。今考えると、僕は、「今しかない時の中で、今しかない仲間と実行委員の活動をする」という選択は最高の選択だったと思っています。皆さんに感謝です。

そして来年もそれぞれが、新しい気づき、学びを体験し成長していくと思います。初めての時「大変だな」と思ったことに対し、「もっとこうしたらどうか」と考えていくことで、実行委員全体としても、ベースアップ、レベルアップしていくことができると思います。来年の杏園祭にどうぞご期待ください。

2011年 10/8・9

杏林大学 八王子キャンパス 学園祭

杏園祭 2011

~color x color~

10月8日(土) 9:00~17:30

10月9日(日) 9:00~16:30

屋台
トークショー
展示
ステージ企画



ヒーロー見参!!!



平成23年度
総合政策学部
ゼミ連主催講演会
東日本大震災後の
社会づく



講演会
「東日本大震災後の社会づくり」
佐伯美苗氏



天高く馬...

今年度は八王子キャンパス全体を広く使用し、グラウンドに設けたGステージ、D棟前に設けたDステージでは、吹奏楽発表や軽音楽ライブ、チャリディレクションやダンスなどのパフォーマンスが繰り広げられました。仮面ライダーヒーローショーをお目当てにやってくる地域の子どもの姿も、毎年見られるほほえましい光景です。

屋内イベントでは、初日の木下優樹菜さんトークショーが全席完売の盛況となったほか、ファッションショーやゲーム大会も人気を集

十月八日(土)、九日(日)の二日間には、杏園祭2011が開催されました。今年度のテーマは「color x color」です。杏林生たちが、自分たちの色を見せる(魅せる)ことを目的に、日頃の研究成果やサークル活動の成果などを披露しました。幸い二日間とも天候に恵まれ、過去5年間で最多の3955人の来場者を迎えることができました。



がんばってます！

うれませんねー。

ミス・マスター

鉄道研究会

うまかった春園祭
また、来年に

腕に繕りを
かけて

焼

めました。
学習・研究成果の発表としては、写真部や鉄道研究会などのサークル展示、各ゼミの発表展示、合同ゼミ発表会やゼミ連主催講演会が行われました。
合同ゼミ発表会は、有志のゼミが研究成果を発表し合い、投票で優秀発表を決めるといふものです。ゼミ生たちは、国際関係、経済学、経営学や政治学などそれぞれの分野で、自主的に学び考えた成果を堂々と発表していました。
今年度は、震災の影響を受けて入学式が中止となり、電力事情から夏休みにはキャンパス内立入が制限されました。このような状況において、学生たちは、「自分たちに何ができるか」「自分たちは何をすべきか」を意識しながら、例年以上に限られた時間の中で、よく考え、よく行動していたように思います。この経験で得たものが学生たちの自信につながることを確認しています。
(高田京子)

学際演習

広い視野と柔軟な思考

講師 半田 英俊

「学際」とは何でしょうか？

「学際」という言葉を広辞苑で調べると、「いくつかの異なる学問分野がかかわること。」と出てきます。つまり学際演習とは、専門の異なる教員が数人集まって進めていく授業のことです。

総合政策学部には、社会科学を構成する政治・経済・法律・行政・環境・福祉・経営・会計などを専門とした様々な教員が在籍しています。この特長を生かして、教員が三〜四人のグループを形成、そして一つのテーマを比較研究し、学生とともに授業を作っていくことが学際演習の基本的な進め方となります。

また、学際演習には専任教員全員の参加が義務づけられており、その結果、多彩な授業テーマが設定されています（次ページ参照）。そのテーマの数の多さから半期だけでは収まりません。学生たちは春学期・秋学期ともに受講することができます。

そして、今年度から履修対象学年は三年生以上から二年生以上に、履修可能数は二科目から四科目まで拡大しました。したがって学生一人一人がより多くの学際演習を受講することが可能となっています。

旧来の多くの大学では「法学部」、「経済学部」、「商学部」、「文学部」など特定の領域に特化した学部が存在しています。これらの学部では、専門分野についてより深く研究することが可能となっています。

しかし、この地球上に存在する多くの社会問題は、複数の学問分

野にまたがっている場合が多くみられます。例えば「少子高齢化」という課題を考える際には、福祉のみならず、政治、経済、法律などの多分野からの視点を持つことにより解決の糸口が見えてくるでしょう。つまり、社会における諸問題を理解する上で、学際演習、総合政策学部は重要な役割を果たすと考えられています。

私たち教員は、学生たちが学際演習を積極的に履修し、より広い視野を身につけて社会に巣立ってもらいたいと願っています。



学際演習紹介

「企業制度を考える」

糟谷崇／伊藤敦司／木暮健太郎／中村周史

私たちの学際演習は、現代の企業の活動範囲を知ること、そもそも企業の目的はどういったものであるのか、なぜ経済活動は企業を中心に成り立っているのか、経営・法律・政治・経済の視点から理解することを目的としている。具体的な事例として、今年、三月に起きた東日本大震災に伴う東京電力の原発事故を扱っている。

今回の東京電力の原発事故は、企業不祥事の範囲を超えて、国の原発の管理体制への批判へと及んでいる。もともと電気事業は電力会社一〇社による地域独占体制によって成り立ってきた。一九九五年に電力自由化後がおこなわれたとはいえ、依然として事実上の地域独占が続いている状態にあるといえる。

当然、東京電力は公開企業であり国営企業ではない。にもかかわらず、福島原発事故をめぐる東京電力の損害賠償問題では、東電を現状のまま存続させ、賠償のために必要な原資を、政府が資金援助する方針となっている。電力料金を引き上げ、さらに税金を投入することで、一民間企業を救済することが、なぜ認められるのだろうか。

一方、アメリカでは、エンロンという総合エネルギー会社が、自由化された電力市場における取引ルールを悪用した、巨額の不正取引・不正取引の結果、四〇〇億ドルの負債額を抱えて、二〇〇一年に経営破綻した。エンロンの破綻は、当時の株価至上主義のもたらした弊害の結果でもあり、企業会計の不正に対処するために企業改革法（通称SOX法）の制定の要因となった。

こうした問題解決は、日米の電力市場の規制や自由化だけに限つ

たことではない。ここでの議論は、多くの大企業にも適用できる。大企業は多くのステイクホルダー（利害関係者）を持ち、そのうちの誰の利益を重視するのは、それぞれの考え方によって変わってくる。本演習ではそうした立場の違いを考えることのできる力をも身につけてもらいたいと考える。



学際演習一覧

担当教員	テーマ	分野
西、田中、藤原	政治・経済・社会について考え、意見を言ってみる	経済、経営、法律
岩隈、岡村、川村、久野	正義とは何か？	法律、環境福祉、法律、経済
原田、小野田、佐藤、渡辺	我が国の社会経済の発展の足跡	会計、経済、法律、政治
北島、加藤、島村	ファーストフードは問題か？	環境福祉、経営、政治
斉藤(崇)、進邦、中村	地域活性化	環境、行政、経済
馬田、劉	最新中国事情	経済、政治
橋本、豊島、半田	汚職の歴史	法律、政治
斎藤(元)、高坂	時事問題を考える	政治、環境福祉
大山、阿久澤、木村	「働くこと」の光と陰	法律、経営
野山、高田、島村	学生と地域をつなぐ仕組みづくり	環境福祉、会計、政治
内藤、松田、荒井、藤原	制度を考える	会計、政治、経営、法律
糟谷、伊藤、木暮、中村	企業制度を考える	経営、法律、政治、経済

新任教員紹介



荒井将志
(あらい まさし)
講師

本年度より杏林大学総合政策学部に着任いたしました荒井将志と申します。専門分野は経営学で、担当科目は国際経営論、経営情報論、キャリア開発論のほか、学際演習、基礎演習、プレゼミを担当しております。

二一世紀に入ってからこの約十年間の社会環境は、ICT革命や規制緩和によってグローバル化が進み、大きく変わりました。日本企業は、もはや国内市場から海外市場に成長の機会を求めています。私は学生に対し先進国のみならず発展途上国を含めたグローバルな視点でビジネスや経済について考えることを伝えたいと思っています。

インターネットの普及とデータベースの発展は、情報や知識を検索すれば世界中の誰でも簡単に手に入るような社会を作りました。この現代では、「知っている」だけの知識の価値は十年前と比べて相対的に低下した、ということができると思います。一方、個人が有する知識を、対話を通じて表出化し、組み合わせながら磨き上げて生み出された世界中のどこにもないような「新しい知識」の価値は、今日相対的に高まっているといえると思います。これは私が研究している国際経営やイノベーションにおける極めて本質的な今日の問題であると考えています。言い換えれば、新しい知識を生み出すことができる人材を育成することが今日の大学に求められている一つの大きな課題であると考えています。グローバル競争が進む今日では、大学教育においても従来型の教員がただ学生へ知識の移転をするだけの講義や、学生がただ講義を聞いて覚えるだけの知識の詰め込みでは十分だといえません。そのような中、とりわけ日本の大学独特の「ゼミナール」の重要性は、高まっていると思います。杏林大学総合政策学部は、ゼミナールをとっても大切にしているという印象を強く受けました。学生には、ゼミ活動の経験を通じて新しい興味の発見と、仲間同士で切磋琢磨し自分の可能性を広げて、自信と信念をもってもらいたいと思っています。情報が簡単に手に入る現代だからこそ、自らの価値や行動の基準である「信念」を作り上げることがもつとも重要であると信じており、そのような学生を育てられるような教育を目指します。



島村直幸
(しまむら なおゆき)
講師

はじめまして。総合政策学部に着任いたしました島村直幸です。「国際関係論」「アメリカ政治外交」を研究・教育しております。

さて二〇一一年は、「中東革命」と「3・11」そして「福島原発事故」と、歴史的な出来事が起こりました。こうした歴史の転換点に、大学で研究者・教育者であることには、歴史的な意義を少なからず感じます。また大学の学生であることにも、特別な意義があるでしょう（私自身が大学に入学した一九八九年は、「東欧革命」と「ベルリンの壁」崩壊そして「冷戦の終結」という歴史の転換点でした）。

こうして今こそ、「学際的に」学問の知見を絞り出し、日本経済と国際経済を再生させ、国際システム全体を再構築すべき歴史の瞬間であると考えます。またこうした文脈から、「学際的な」アプローチを特徴とする総合政策学部の意義は決して小さくはないと思います。

特に「国際関係論」は、「学際的な」社会科学の学問です。一九三九年夏に出版された歴史家E・H・カークの『危機の20年』が、戦間期の「ユートピアニズム」を厳しく批判し、国際システムが複数の主権国家から構成される現実（構造原理が「無政府状態」のため戦争も起こりうる）を直視する「リアリズム」の立場から、「国際関係論」の体系化を図りました。またカーは、「リアリズムとユートピアニズムの調和が必要である」と結論づけました。さらに、外交の手段として軍事力が最重要だが、経済力や世論を支配する力も無視できないと強調しています。こうして、健全な学問・研究者であるためには中庸（バランス）が肝要である、と示唆しています。

新任教員紹介



半田英俊
(はんだ ひでとし)
講師

今年の四月より着任した半田英俊と申します。

本大学では、政治学AおよびB、立法過程論、政策過程論、近現代史論、学際演習、基礎演習、プレゼミナールを担当いたします。

出身校は慶應義塾大学法学部政治学科で、大学二年生までは政治学の五大分野である日本政治、国際政治、地域研究、政治思想、政治社会論を学びました。大学三年生に進級すると、かねてから希望していた日本政治史のゼミに入って研究を進めることができました。大学卒業後、指導教授が杏林大学に移られたことから、同大学院の国際協力研究科に入学し、前期、後期博士課程で、政治史の研究をさらに発展させてきました。その結果、博士論文は『明治外債史の研究』という課題でまとめ、本年三月に博士号を取得しました。

博士課程の後には複数の大学で非常勤講師として勤務し、杏林大学でも非常勤講師を六年間勤めさせていただきました。このように、八王子キャンパスには十年以上通ってきたことから、本大学は私にとって親しみ深い場所となっています。

私が大学院生として通っていました頃と現在を比べると、専任教員の先生方の顔ぶれもだいぶ変わりました。杏林大学の特徴は、昔から指導に熱心で親切な先生方が数多く在籍しておられることにあります。そういった特徴が今も若い先生方に受け継がれており、その末席に名を連ねることができたことを光栄に思っております。

本大学に在籍していたこれまでの経験を活かして、教育、研究に一層の努力をして参りたいと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



藤原 究
(ふじわら きわむ)
講師

本年度より、杏林大学総合政策学部に着任いたしました藤原究と申します。

専門は法律学、中でも民法（不法行為法・家族法）、宗教法人法を専門としております。本学においては、債権法I、不法行為法、民法演習等を担当しております。

大学院時代においては、主に宗教団体の果たすべき社会的役割や民事上の問題を解決するために必要な方途について研究を重ねて参りました。現在は、子どもを犯罪から守るための多機関連携モデルの提唱をテーマに連携研究者の一人として、児童虐待の問題にも取り組んでおります。

現在、少子高齢化や雇用環境の変化、親子関係を中心とした家族制度の変容にみられるように、わが国においては、社会システム全体において大きな構造転換を求められています。そうした中、若者を取り巻く環境は決して簡単ではありません。大学における学びの意味は従来よりも広く・重要なものとなっており、学生も我々教員も情熱をもってそうした変化に適応していかなければなりません。振り返って、私自身が法学の研究者として歩むきっかけとなったのは、大学と大学院における二人の先生との出会いがきっかけでした。私自身も自らが学ぶことのできた二人の先生方のような情熱をもって研究・教育に向きあうことで、変化し続ける社会の荒波へ漕ぎ出す学生諸君の一助となること出来ればと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

板倉聖宣著 『歴史の見方考え方』 仮説社



大学教育の場では、学生にあることを伝える時に、その、あること、の裏付けを示さなければなりません。すべてとは言いませんが、多くの場合そうです。「日本の少子高齢化は…である」「日本の貿易は…だ」「地球環境問題は…」などと言う時には、

それを裏付ける証拠を示す必要があるということです。印象や主観や思い込み、あるいは何処かで誰かが言ったり書いたりしていたことを検証もせずに言うわけにはいきません（そうでない場合は、そうでないことを伝えなければ学生の知性と教養は危ういものになります）。

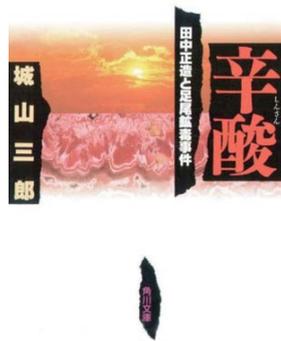
このような語り口で書評を書き始めることに至らしめた本書は、江戸時代と明治期の歴史的諸事象を科学的に実証する方法を提示しています。そして、それらを具体的に検証しつつ、私たちに、思い込みの誤りを気付かせてくれます（思い込みがなぜ生じたのかについては各自が考えてみればよいことですが、本書でも言及しています）。本書は二部構成になっており、第一部では江戸時代の農民の食を明かにしています。第二部では人口を手掛かりに社会の動向を検証しています。一般に考えられている、常識が幾つも組上に載せられ、その幾つかは否定されてゆきます。二五〇ページほどの三分の一が第一部ですが、第二部が特に楽しめます。記述に議論の余地がないわけではありませんが、読者に多くの設問を用意して検証を進めてゆくので、興味深く読み進めることができます。

本書は情緒的な感動を与えてくれるものでも、いわゆるハウツー

ものでも人生指南ものでもありません。また現代社会を展望したものでありませんが、「ほー、なるほど」などと知ることを楽しむことができます。「之を知る者は之を好む者に如かず。之を好む者は之を楽しむ者に如かず。」とは、孔子のことばですが、改めて江戸と明治を楽しみながら知ってはいかがと思い紹介しました。（一九八九年刊、税込み千六百八十円。簡単に入手できます。私の手元にあるのは定価千五百円ですが、少し値が上がったようです。）
（教授 高坂宏一）

城山三郎著 『辛酸』 田中正造と足尾鉍毒事件

角川文庫

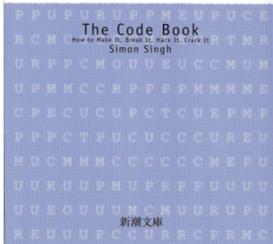


二年前の夏、『官僚たちの夏』というドラマが放映されました。高度経済成長期の日本の官僚たちを描いた作品ですが、原作は経済小説の第一人者城山三郎さんです。

『官僚たちの夏』の主人公風越信吾のように、豪放磊落・豪快な人物を描く城山作品は、ヒーロー映画さながらの爽快感すら感じさせるものでした。そんな折、書店で『辛酸』なる城山作品を目にしました。サブタイトルとして「田中正造と足尾鉍毒事件」とあります。足尾銅山から流出した鉍毒が、渡良瀬川流域に大きな影響を与え、国は栃木県谷中村に鉍毒を沈殿させる遊水池建設を計画しました。『辛酸』は、田中正造が谷中村に住まい、遊水池反対運動を展開する様子を描いたものです。

暗号解説

上
サイモン・シン
青木薫訳



サイモン・シン著
青木薫訳

『暗号解説』上下巻

新潮文庫

タイトルの『辛酸』は、正造が好んで揮毫した「辛酸入佳境 楽亦在其中」に由来します。小説は第一部「辛酸」と第二部「騒動」からなり、前半は正造の晩年と死が、後半は正造の遺志を継ぐ農民たちによる反対運動の様子が描かれます。歴史の教科書で知る正造は、帝国議会で鉅毒事件を告発し、天皇に直訴するなど力強い印象が強いのですが、この作品の中では弱弱しく描かれています。これまでに読んだ城山作品と異なり、爽快感は無く異色の作品でした。しかし信念を貫く人物の強さを描き出す点では、風越信吾の生き方と重なるものがあるかもしれません。

『辛酸』は淡々とした語り口で進んでいく小説ですが、テーマが重いものです。明治期の官民関係を知りたい人は、シヨートシヨートの神様、星新一さんによる『人民は弱し 官吏は強し』（新潮社）をどうぞ。官僚に『もう、きみには頼まない』なんて言ってみたい方は、城山さんの同名タイトルの小説をどうぞ。スカッとしますよ。

（准教授 進邦徹夫）

はるか昔から、人は秘密の情報を守るために暗号を考案し、それを用いてきました。また暗号を解読するために、多くの人たちが汗を流してきました。この本では、暗号がどのように発展してきたかをとっても興味深く描いています。暗号作成者と解

読者との戦いは、歴史のさまざまな場面において繰り広げられてきました。そして暗号も複雑なものとなっていきました。

一見、複雑に見える暗号文も、解読のための糸口が見つかったら、意外なほどあっけなく明らかになってしまいます。私たちがふだん使っている言葉にも、いろいろな特徴があり、そうしたことが解読のカギとなります。そのため、言語に通じた専門家たちの知見を参考に、暗号文の解読がおこなわれてきました。

二十世紀にはいって、暗号機がつけられ、さらに複雑化した暗号が用いられるようになると、今度は数学者や科学者たちの知見も応用されるようになります。暗号解読もこうした「学際的なアプローチ」によって一つの解答に近づいていっているわけです。

本のなかでは、暗号の解読の仕方についても詳しく説明があり、巻末には練習問題として暗号文が掲載されています。解読方法についての説明は、言語的要素と科学的要素の両方が含まれているので、少しむずかしく感じるところもあります。ただ、私たちの社会が現在抱えている問題も複雑なものになっていて、いろいろな学問の視点が必要になっていきます。さまざまな学問分野に触れ、どういう分野でどういうことが可能なのか、得意としているのかを知っておくことは、私たちの視野を広げるのに大いに役に立ってくれるでしょう。

現在、私たちはメールなどでたくさん情報をやり取りしています。こうしたプライベートな情報についてのセキュリティはかなり強化されていますので、暗号化された個人的な通信が簡単に第三者に明らかになるような可能性はとて低くなっています。ただ、そうは言っても、大事な情報の取り扱いには注意したいものですね。この本を読んで、そんなことをつくづく感じさせられました。

（准教授 斉藤崇）

食品中の放射性物質に関するリスクコミュニケーション

教授 野山 修

三月十一日の東日本大震災により福島第一原発事故が起きて、大量の放射性物質が大気中や海中に放出されました。一二日には、原子力災害対策特別措置法に基づき「原子力緊急事態宣言」が出され、様々な対応がとられました。同日、原発から二〇km圏の住民に避難のための立退きが指示され、一五日に二〇km～三〇km圏の住民に屋内退避が指示され、四月一日には、年間の積算放射線量が二〇mSvを超えると予測された地域が計画的避難区域とされました。原乳、野菜などの食品や水道水の放射能汚染についても、三月一七日に厚生労働省により暫定規制値が示されました。これらの対応において、国が参考にしたのが国際放射線防護委員会（ICRP）の考え方です。ICRPは、放射線被ばくから人や環境を守るために、1. 計画的に管理できる平常時、2. 事故や核テロなどの非常事態、3. 事故後の回復や復旧の時期等、の三つの状況に分けて、放射線防護の基準を定めています。二〇〇七年の勧告では、平常時の一般人の被ばくは一年間に一mSv未満としています。そして非常事態には、一般人は一年間に二〇〇mSvとしますが、被ばく量をそれ以下に抑える防護策を実施し、回復や復旧の時期には、一年間に一～二〇mSvに設定することもあります。

ところで人々は、宇宙から降り注ぐ宇宙線、大気中のラドンや地殻から放出される放射線、食物中のカリウム40や炭素14から放出される放射線を浴びて生活しています。地域によって被ばく量に差はありますが、全世界の平均値は年間二・四mSv、日本の平均値は年間一・五mSvとされています。こうした自然放射線による被ばくに対して、ICRPが勧告した被ばく線量は、基本的には浴びる必要のない人工放射線による被ばくに関するものです。つまり、放射線や原子力の平和利用を進める社会では、人工放射線の被ばくをある程度は受け入れざるを得ないという立場で、社会がやむを得ず許容する被ばく線量の目安として勧告されたのが上記の値です。

では、これらの目安の値以下は安全なのでしょうか。残念ですが、それらは安全を保証する値ではありません。現時点では、ある値以下の放射線被ばくは安全と言える境目の値（閾値）は存在しません。体外被ばくと体内被ばくを問わず、合計した被ばく量が一〇〇mSv未満の低線量については、健康影響の科学的評価は定まっていません。このような場合、線量が少ないほどリスクは小さくなりますが、低線量でもリスクはあるとするのが慎重な考え方で、ICRPもそう考えています。

ここで、基本的な言葉や放射線のリスクについて簡単に触れま
す。放射性物質は、何も手を加えなくても勝手に放射線を出して
他の原子に変化する原子です。たとえばセシウム137は、ベータ線
(高速で飛ぶ電子)とガンマ線(波長がごく短い電磁波)の二種
類の放射線を出して、非放射性のバリウム137に変化します。この
ような、放射性物質が持っている放射線を出す性質が放射能です。
ベクレル(Bq)は、放射線の量を示す単位で、1Bqは一秒間
に一つの原子が変化することを意味します。500Bq/Kgの
食品1kgは、50Bq/Kgの食品1kgの一〇倍の放射能をもち
ます。シーベルト(Sv)は、生体が放射線から受ける実質的な
エネルギー量の単位です。Svの値は、体外または体内に取り込
まれた放射線の量を基にして、種々の要素を考慮して求めます。
1Svは1000mSvです。

放射線被ばくは、数百mSv以上を一度に浴びる場合と、一〇
〇mSv未満の低線量を浴び続ける場合に分けられます。前者は、
原爆や核実験による場合や、原子力発電所などの労働者が事故で
浴びる場合に起きます。後者は、今回のように一般人が被ばくす
る場合で、急性の健康被害は生じませんが、長期的に発がんのリ
スクが高まります。

発がんのリスクの大きさは、広島・長崎の生存被爆者を長年追
跡したデータなどから推測されています。固形がん(白血病以外)
の死亡率を非被爆者のそれと比べたところ、約四〇年間でみたが
ん死亡率の増加の程度は、被ばく線量が2Svで二〇%増、1S
vで一〇%増、100mSvで一%増、という結果でした。10

〇mSv未満は有意でなかったため、前述の慎重な考え方に基
づいて、100mSv以上における直線関係を外挿して、50mS
vで〇・五%増、10mSvで〇・一%増、と推測されています。
事故発生以来、食の安全を巡る様々な議論があります。そこで
問われたことは、非常事態における食のリスクコミュニケーション
の在り方だろうと思います。リスクコミュニケーションは、消
費者、事業者、行政担当者などの関係者の間で食品のリスクに関
する情報や意見をお互いに交換することですが、食品安全基本法
(二〇〇三年)により、基本的な仕組みが整備されています。

非常事態に際しては、ICRPの考え方にあるように、事故の
状況、健康への影響、食料供給体制の確保、食品の規制体制など
を考慮した上で、平常時の基準をある程度上回る規制値を暫定的
に定める必要が生じます。そのような場合、国の役割は、食のリ
スクの実態とその推移を明らかにして、個人が妥当なリスク評価
を行えるように支援することだと思えます。

事故後半年の現在、出荷制限などの措置によって、食のリスク
は案外低めに推移しているように見えますが、地域差も含めて、
最も信頼できるリスクの推定範囲はどの程度なのでしょうか。測
定器具の数に限界がある中で、全食品の検査を望む声が上がって
いますが、食のリスクの実態と推移について説得力のある推定値
が得られると、全品検査ではなく標本検査の体制を目指すことも
可能かと思われます。それによって、高濃度汚染地域における対
策の強化を急ぐ必要があります。

地域交流委員会より

教授 北島 勉

某新聞社が大学の地域貢献度ランキングを発表するなど、大学の役割の一つとしての地域貢献が注目されています。大学の地域貢献といっても大学から地域への一方通行の貢献ということではなく、その基本は人と人とのつながり、交流です。杏林大学には、地域交流委員会があり、教員や学生などの大学の人的資源と地域の人々や団体をつなげる役割を担っています。地域交流委員会は八王子キャンパスの教職員が中心に構成されており、私は総合政策学部を代表して参加しています。

杏林大学の教職員も、地域住民や団体に関連した様々な研究や教育活動を行っています。それらの活動は、大学のホームページの「社会との連携」の中の「地域との連携」のページで紹介されていますので、是非ご覧下さい。以下では、今年度、総合政策学部の学生が参加した主な地域交流関連の活動と今後の予定についてお知らせします。

まず、卑近な例で恐縮ですが、五月八日に開催された八王子学生天国で、北島ゼミナールの学生が八王子市保健所の保健師さんと一緒に、HIV感染予防に関する情報提供を行いました。学生天国とは、八王子市とその周辺自治体にキャンパスがある大学による合同学園祭です。HIVに関するアンケート、資料の配付、シミュレーションゲームなどを行い、多くの参加者と交流し、情報提供を行いました。

次に、六月一八日に、八王子キャンパスが位置する宮下町の自治会の方々、民生委員、地域包括支援センターの職員の方々などを八

王子キャンパスにお招きして、学生と教職員と一緒に、杏ジャム、杏酒、梅酒、べっこう飴を作るイベントを行いました。今年で四回目になりますが、老若男女五〇名以上が参加し、出来たての杏ジャムを試食しながら、たくさんお話をすることができました。

今後の予定（八月九日現在）

ですが、大学コンソーシアム八王子による岩手県への震災ボランティア派遣（八月一七日～二三日）に、総合政策学部から二名の学生が参加します。身体に気をつけて、頑張ってきて欲しいです。そして、地域交流委員会主催の第五回八王子まちづくりフォーラムを一月五日（土）午後一時から、八王子学園都市センターで開催します。テーマは「東日本大震災から学ぶこと～震災に強いまちにするために～」で、被災地に救援に行った医師や看護師からの報告を聞くとともに、大地震による被害を最小限にするために、私達ができることを、学生、教職員、地域住民、自治体職員などと一緒に考えたいと思っています。詳細は大学のホームページでお知らせいたします。多くの方に参加していただけますと幸いです。





自発と自立

杏会副会長 加藤 篤

東日本大震災で被災されたご家庭の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。電力

事情があったとは言え杏林大学の卒業式、入学式共に行われなかった事は、学生並びにそのご父母の皆様にとって甚だ残念なことであったと推察いたします。震災の影響はまだまだ続いておりますが、まずは杏林大学にお子さんがご入学されたご父母の皆様には心よりお喜びを申し上げます。

さて、大学生になって感じる事はなんでしょう。最高学府たる大学の勉学の質でしょうか。大学生になるまでの学校の授業は、文部科学省の学習指導要領に則った教科書を使った覚える学習、あるいは、例題、類題をパターンに当てはめて解く反復学習が主であり、いかなれば受け身の学習能力を鍛えてきたのではないかと思います。ところが、大学では参考書はあるが教科書のない授業。正解が一つではない、はたまた解答が無い問題があり、自発的に考えるト

レーニングをする所、それが大学であると感じる事だと思えます。

私の子供は二〇〇九年に総合政策学部に入學し、今年で三年生となりました。緑豊かな八王子キャンパスで優れた先生、先輩友人と巡り会い、伸び伸びと過ごしているようです。私の様な昭和世代と平成世代の子供とでは物の感じ方、捉え方にも隔たりがあり、家庭で生活態度について叱ることがあります。以前は明らかに不承不承といった態度で従っておりましたが、最近はず議論になり、論破されることもしばしばです。そのため、こちらも理論武装するのですが、それでも手強く、杏林大学の先生の優れたご指導の成果を我が身で体感しております。

ところで、大学に先立つ高校が大学への受験予備校化し、中学校が高校への受験予備校化している現実、人間形成の大事な時期をずいぶん殺伐としたものになっている

と私は思います。いざ、大学に入ってみると、今度は大学が就職のための予備校化しているところがあり、私はなんともやるせない気持ちになり、子供の事をとても哀れに感じます。子供が安定した会社に就職して、早く経済的に自立できるようにすることは親の願いです。確かにその通りですが、仕事に就いて、そこで生き甲斐を見いだしてくれる事こそが、本当の望みです。そうなるためには、それまでに培ってきた経験と知識に基づく価値観、先輩、友人、恩師の方々との関係も少なからず影響するものと思えます。自発的に物事を考える時間と場を提供して大学四年間の過ごし方こそが、今後、子供たちが人生の岐路に立った時の指標になると信じています。

皆様のお子様が杏林大学での四年間で思う存分、学び、語り、自らチャレンジする精神を養っていただけるよう、皆様のご支援をどうぞお願い申し上げます。我々父母会もそれを応援したいと願っております。そして、杏林大学には、就職支援のみに偏らず、ぜひとも人間形成という基本的視点を忘れない、バランスのよい大学運営をお願い申し上げます。



身につけるべき人間力について

杏会副会長 山崎 克己

学生諸君の最大の関心事は一部の方を除いて就職・就活にあるかと思えます。企業それぞれ必要な人材は様々だと思えますが、現在多くの企業を中心となっていて、私の世代であると思えますので、その観点から少しお話をしたいと思います。企業に必要な人材とは「仕事の出来る人」という面白くもなんともない答えです。では出来る人になるために学生時代から身に付けておくべきものは何でしょうか？ 私は昨今よく言われる「人間力」だと思えます。

ゆとり教育の中で、徒競走の順位を付けたかったり、学芸会では主役が沢山いたり、モンスタージョーは論外としても、無理さえない、失敗させない、大人になつたら守ってあげられるはずも無いのに、競争は悪だと言わんばかりの社会と親たちが、総出で育まなかった「人間力」を持たないと、否応なしに競争と不平等を旗印にする就活に翻弄され、「仕事が出来ない」はおろか、スタートに立つことも出来なくなりそうです。

本来「人間力」とは努力したことが成功したり、成功せずに挫折したり、それでも出来るだけ頑張ったりした数の分だけ付いてくる力だと思えます。

非常識な話に聞こえるかも知れませんが、先の震災で被災された子供たちは非常に強い人間力を身に付けたのではないかと、テレビや新聞を見て感じます。さて、人それぞれ千差万別で習得する教科書など無いのが人間力ですが、ちょっと計ってみましょう。

自分の得意なこと、苦手なこと、良いところ、悪いところを出来るだけ客観的に、5m位後ろから自分を見ているような感じでしっかりと分析してみてください。苦手なことや、悪いところは別にないと思つた方は、勉強やスポーツは出来るかもしれませんが、残念ながら人間力はありません。苦手なこと、悪いところしか浮かんでこない方は、謙虚ではあるかもしれませんが、他人と競争になつたり、自分だけで解決できるか微妙な場面で頑張りが足りていないか、力に欠けています。

私の思う人間力を身に付ける第一歩は、自己分析を行い「得意なこと、良いところは誰にも負けない」、「苦手なこと、悪いところは出来るだけ誰にも見せない」そのた

めにはどうしたら良いかと考えて努力する。教科書はないので自分で考えて自分で行動する、だから「その人の力」↓「人間力」となる訳です。

就活に話を向けますと、採用面接で残念な勘違いをしている方が非常に多いと感じます。それは「よく見せよう」「失敗はしたくない」と過度に考え、小手先のテクニックのみに成功/失敗の結果を求めるようにしていることで、先の客観分析による自己表現が欠けてしまっています。正直、テクニクであれば就活マシーン養成学校である某専門学校には敵わないので、そちらに行かれた方がよいかと思えます。最低の礼儀や身だしなみは必要ですが、過度に自分を良く見せようとか、過度に失敗をしようと考えると、緊張して（気の毒なくらいです）噛んで、余計にあせつたり、質問の答えが出来なくなつたりしてしまいます。良くも悪くも自分は自分、持つてるものをしっかりと自覚して、過信することなく、卑下することもなく臨まれることをお勧めします。

それでも結果が必ずしも伴わないのが今の状況です。就活自体に挫折して人間力がアップするというのは、皮肉なことではあります。それはそれで人生の大きな糧となります。自分としっかりと向き合っていて、この困難な状況に立ち向かってください。その際にこのお話が少しでもお役に立てれば幸いです。

◆◆◆ 杏会総会のご報告 ◆◆◆

平成二三年度杏会総会が六月四日（土）八王子キャンパスにおいて開催されました。当日は梅雨の中休みといった快晴に恵まれ、三学部合わせて三〇〇名を超えるご父母が出席されました。

各学部の総会に先立ち行われた全体会では、まず、始めに跡見学長が挨拶をされ、大震災により被災された新入生、在学生に対する緊急支援についてのご理解、ご協力を求めました。また、今後の教育・学生支援体制については、四学部三研究科を持つ総合大学の特色を活かしたカリキュラムの推進や、学生が充実した学生生活が送れるよう各学部間の交流を図り、スポーツや課外活動などへのサポート体制を構築していく旨、話されました。

続いて、大手就職支援会社の毎日コミュニケーションズ・マイナビ編集長の望月様より「現在の就職環境と企業が求める人材」をテーマに一時間の講演がありました。望月様は東日本大震災により大企業を中心として採用活動を二ヶ月程度遅らせている現状、平成二三年度卒業生に対する新卒求人数は多少持ち直しているが選考の厳しさは変わらず、平成二四年度卒業生からは就職協定の改定による各種の対応が求められることなどの説明がありました。講演の最後にご家族による支援について、「社会生活の経験者としての職業観の支援」、「自己分析への協力」、「多様な悩みに対する良き相談役」などを挙げられ、成長を見守ることの大切さについても話されました。

つぎに黒田学生支援センター長より三学部の学生生活の概容と学生支援の取り組みについて紹介がありました。留学生、公認クラブ・同好会情報をはじめ、各種奨学金受給者、ボランティア活動参加者、学生相談室の利用者情報などが報告されました。

また、学生支援活動の一環としての学内学生アルバイトの実施状況、昨年杏林大学と協定を締結した羽村市や八王子市の小・中学校における学生の諸活動、今年五月の八王子「学生天国」に参加した学生たちの様子がスクリーンでも紹介されました。

その後、キャリアサポートセンター齋藤室長より就職報告が行われま

した。三カ年の就職率の推移がグラフで説明され、特に厳しさを増す人文社会系の就職に対する取組みの一環として「警察官受験サークル」や民間企業への就職を目指す「就活サークル」の活動が紹介されました。その後は各学部に分かれて総会・学部説明会が行なわれ、総合政策学部定期総会では平成二二年度の事業報告・決算報告、平成二三年度の役員改選・事業計画・予算(案)など、いずれも原案どおり承認されました。学部説明会では、松田和晃学部長、小野田欣也教務部長、原田奈々子学生部長より学部の現況教育・学生支援体制について説明がありました。最後に会場をガーデン丘に移して三学部合同の懇親会パーティーが開催され、短い時間ではありましたが、和やかな雰囲気の中、教職員、ご父母の方が懇親を深める良い機会となりました。

平成23年度 杏会定期総会内容

日時	平成23年 6月 4日 (土)		
場所	杏林大学八王子キャンパス		
時間	13:00~13:15	挨拶	学長 跡見 裕
	13:15~14:15	講演	「現在の就職環境と企業が求める人材」 株式会社毎日コミュニケーションズ マイナビ編集長 望月 一志 氏
	14:20~14:35	学生支援センター報告	学生支援センター長 黒田 有子 外国語学部教授
	14:35~14:50	就職報告会	キャリアサポートセンター室長 齋藤 幸雄
	15:00~15:40	杏会総会	
	15:40~16:00	学部説明会	
	16:10~17:10	懇親会パーティー	「ガーデン丘」



杏門会より

事務局 平本 実

「杏門会」^{きょうもんかい}は、平成一四年に総合政策学部への学部名称変更に伴い、「社会科学部卒業生の会」から改称する事となりました。

杏門会の「杏」は杏林大学の頭文字からいただき、そして「門」は一緒に学んだ仲間を表しており、杏林大学とともに学んだ場として、この名称が相応しいと考えました。

卒業生の数もすでに八三〇〇名を超えており、多くの卒業生とご父兄のご厚意により運営しております。卒業生皆様の一層の活躍を願ひ、また、親睦を深める事が出来るよう努力していきたいと思っております。

例年、卒業生一同からとして在校生の学生生活を充実させるべく様々な寄贈品を提供しております。

今後もさらに充実した同窓会組織として母校の発展ならびに社会の貢献を目的とした活動を進めてゆくつもりです。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

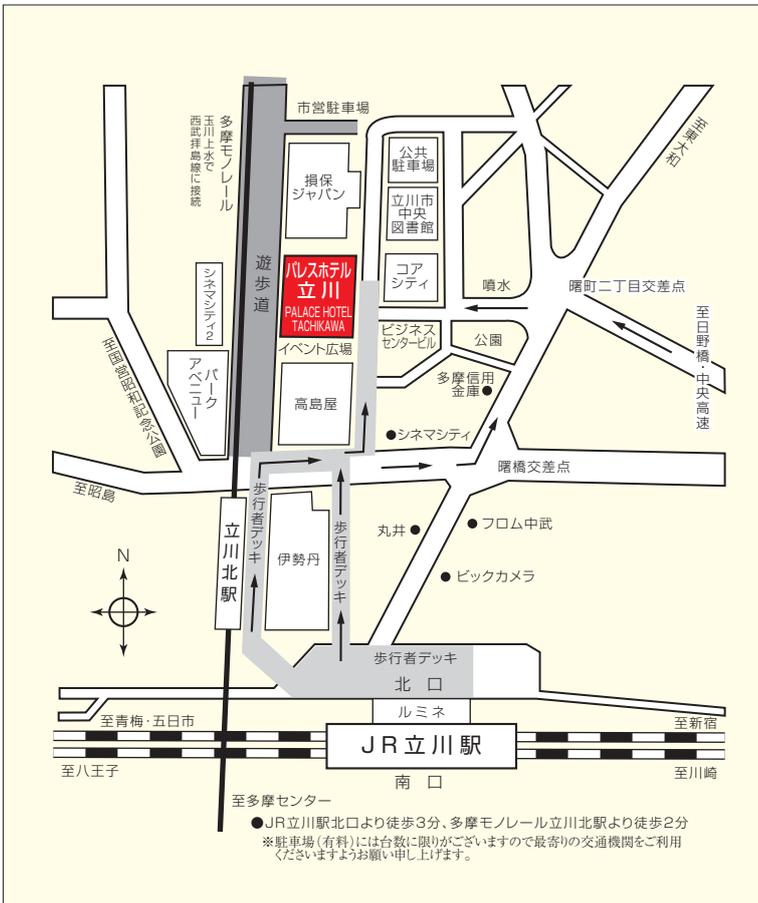
第24期生のご父母の皆様へ 卒業記念パーティーのお知らせ

平成24年3月16日(金) 午後5時 開宴予定(卒業式当日)

パレスホテル立川 ☎(042)527-1111 (代)

☆ご父母の皆様のご参加を心よりお待ちしております(無料)

〒190-0012 東京都立川市曙町2-40-15



2012年度 入試案内 総合政策学部

推薦入試

募集人員 60名（総合政策学科35名／企業経営学科25名）（公募制・資格取得者制・自己推薦スポーツ制）

試験会場：八王子キャンパス

※専願者に限る※推薦入試の募集人員には指定校制を含む

◎日程および選考方法

出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間	選考方法
11月1日(火)～ 11月15日(火)必着	11月19日(土)	11月24日(木) 12:00～	11月24日(木)～ 12月7日(水)必着	〈公募制〉●面接●小論文「大学生活」に関するテーマを出題(40分・800字以内) 〈資格取得者制・自己推薦スポーツ制〉●面接

出願資格

〈公募制〉

1. (1) 高等学校もしくは中等教育学校を2011年3月に卒業した者あるいは2012年3月に卒業見込みの者。(2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を2011年3月に修了した者あるいは2012年3月に修了見込みの者。
2. 出身学校長の推薦する者。

〈資格取得者制〉

1. (1) 高等学校もしくは中等教育学校を2011年3月に卒業した者あるいは2012年3月に卒業見込みの者。(2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を2011年3月に修了した者あるいは2012年3月に修了見込みの者。
2. 出身学校長の推薦する者。

3. 以下のうち一つ以上の資格を取得している者。
(1) 日本商工会議所一簿記検定試験2級以上。(2) (財)全国商業高等学校協会一簿記実務検定試験1級。(3) (社)全国経理学校協会一簿記能力検定試験1級以上。

(4) (財)日本英語検定協会主催による実用英語技能検定準2級以上。(5) Educational Testing ServiceのTOEFL®435点(ペーパー試験PBT)、120点(コンピュータ試験CBT)、41点(インターネット試験iBT)以上。(6) (財)国際ビジネスコミュニケーション協会(TOEIC®運営委員会)主催によるTOEIC®400点以上。

〈自己推薦スポーツ制〉

1. 高等学校もしくは中等教育学校を2012年3月に卒業見込みの者。
2. 出身学校長の推薦する者。
3. 都道府県大会ベスト16レベル、高校総体・国体などの全国規模の大会に出場し活躍した選手及び将来性のある優秀な選手で、入学後も継続して活動できる者。

【募集項目】

硬式野球部・軟式野球部・サッカー部・ラグビー部・アメリカンフットボール部・バレーボール部・男子バスケットボール部・ハンドボール部・バドミントン部・チアリーディング部・硬式庭球部・柔道部・剣道部・少林寺拳法部・Basic Ski部

編入学・転入学入試

募集人員 6名（総合政策学科4名／企業経営学科2名）試験会場：八王子キャンパス

◎日程および選考方法

出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間	選考方法
11月1日(火)～ 11月15日(火)必着	11月19日(土)	11月24日(木) 12:00～	11月24日(木)～ 12月7日(水)必着	●学業成績証明書 ●外国語「英語」(60分) ●面接 ●出願時に小論文(1600字)を課す。 (テーマ)「総合政策学部を志願する理由と今後の抱負」

●編入・転入学年

第3学年

出願資格

〔編入学〕

1. 短期大学又は高等専門学校を卒業した者あるいは2012年3月卒業見込みの者。
2. 日本の専修学校(修業年限2年以上の専門課程、修了必要総授業時数1700時間以上)を修了した者あるいは2012年3月までに修了見込みの者。ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る。

〔転入学〕

1. 大学を卒業した者あるいは2012年3月卒業見込みの者。
2. 日本の通信教育課程(大学4年制)または放送大学を卒業した者。
3. 日本の大学(通信制の課程を除く)において、2年の課程を修了した者あるいは2012年3月修了見込みの者で62単位以上修得している者、あるいは2012年3月修得見込みの者。
※外国において学校教育における14年以上の課程を修了した者は出願書類提出前に本学入学センターまで連絡を要する。

帰国子女入試

募集人員 2名（総合政策学科1名／企業経営学科1名）試験会場：八王子キャンパス

◎日程および選考方法

出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間	選考方法
11月1日(火)～ 11月15日(火)必着	11月19日(土)	11月24日(木) 12:00～	11月24日(木)～ 12月7日(水)必着	●面接

出願資格

日本国籍を有し、保護者の海外在住という事情で外国の学校教育を受け下記の1～3のいずれかに該当する者。

1. 外国の高等学校を卒業(卒業見込み)の者。
国の内外を問わず通常の課程による12年以上の学校教育を修め、海外において外国の教育課程に基づく高等学校に最終学年を含めて2年以上継続して在籍し、2011年以降2012年3月31日までに卒業(卒業見込み)の者。ただし、日本の高等学校における在籍期間が大学入試時までに1年半以内の者。

2. 帰国後、日本の高等学校もしくは中等教育学校を卒業見込みの者。
2012年3月31日までに卒業見込みの者で、海外において外国の教育課程に基づく高等学校に2年以上継続して在籍し、かつ日本の高等学校もしくは中等教育学校における在籍期間が大学入学時までに原則として1年半以内の者。
3. 外国の高等学校を卒業後、大学入学時まで2年未満の者。
※飛び級により、通常の学校教育を12年未満で終えて、大学受験資格を有する者は出願を認める。

センター試験利用入試

I期募集人員30名（総合政策学科20名／企業経営学科10名）
 II期募集人員22名 2科目型18名（総合政策学科11名／企業経営学科7名） 3科目型 4名（総合政策学科2名／企業経営学科2名）
 III期募集人員10名（総合政策学科6名／企業経営学科4名）

◎日程および試験内容 I期：＜2科目型＞ II期＜2科目型＞・＜3科目型＞ III期＜1科目型＞ ※I・III期：学科併願が可能。II期：学科併願・科目型併願が可能。

	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間	入試科目
I期	12月12日(月)～ 1月13日(金)必着	1月14日(土) ～1月15日(日) (大学入試センター試験日) ※個別学力検査は行わない	2月4日(土) 16:00～	2月4日(土)～ 2月14日(火)必着	◎2科目型：選択科目（以下の5教科12科目から2教科2科目を選択） ●外国語「英語」●数学「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」●国語「国語」（近代以降の文章のみ）●地理歴史「日本史B」 「世界史B」「地理B」●公民「現代社会」「政治・経済」
II期	1月16日(月)～ 2月17日(金)必着		2月24日(金) 12:00～	2月24日(金)～ 3月5日(月)必着	◎2科目型：選択科目（以下の5教科12科目から2教科2科目を選択） ◎3科目型：選択科目（以下の5教科12科目から3教科3科目を選択） ●外国語「英語」●数学「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」●国語「国語」（近代以降の文章のみ）●地理歴史「日本史B」 「世界史B」「地理B」●公民「現代社会」「政治・経済」
III期	2月25日(土)～ 3月9日(金)必着		3月15日(木) 12:00～	3月15日(木)～ 3月26日(月)必着	◎1科目型：選択科目（以下の2教科2科目から1科目を選択） ●外国語「英語」 ●国語「国語」（近代以降の文章のみ）

※英語「筆記200点・リスニング50点、計250点を100点に換算」または、「筆記200点を100点に換算」のどちらか高得点を合否判定に使用。

I期・II期（2科目型）

※選択科目において3科目以上受験した場合は、受験科目中高得点の2科目を合否判定に使用。

【配点について】各科目100点。合計200点満点。

II期（3科目型）

※選択科目において4科目以上受験した場合は、受験科目中高得点の3科目を合否判定に使用。

【配点について】各科目100点。合計300点満点。

III期（1科目型）

※選択科目において2科目を受験した場合は、高得点の1科目を合否判定に使用。

【配点について】100点満点。

一般入試

【A日程】 募集人員 100名（総合政策学科66名／企業経営学科34名）

試験会場：八王子キャンパス・東京ドームプリズムホール・新潟駅前・静岡駅前（但し、新潟・静岡は26日のみ）

◎日程および試験内容＜2科目型＞

出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間	入試科目
12月12日(月)～ 1月20日(金)必着	1月26日(木) 1月27日(金) ※試験日を自由に選択。 ※両日併願が可能。	1月31日(火) 12:00～	1月31日(火)～ 2月8日(水)必着	◎選択科目 外国語（英語）、数学、国語、日本史、世界史、政治・経済の中から 問題配付後に2科目を選択。 [出題範囲] ○英語は「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「リーディング」「ライティング」。 ○数学（数学Ⅰ・数学A）数学Aは「集合と論理」「場合の数と確率」。 ○国語は「国語総合」「国語表現Ⅰ」の内容を出題範囲とし、近代以降の文章のみ。 ○歴史（日本史B、世界史B）。 (時間120分 配点200点) ※1科目100点

※両日同一学科出願の場合、ベストスコア制適用
※学科併願が可能

【B日程】 募集人員 23名（総合政策学科15名／企業経営学科8名）

試験会場：八王子キャンパス

◎日程および試験内容＜2科目型＞

出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間	入試科目
1月24日(火)～ 2月6日(月)必着	2月10日(金)	2月14日(火) 12:00～	2月14日(火)～ 2月22日(水)必着	◎選択科目 外国語（英語）、数学、国語、日本史、世界史、政治・経済の中から 問題配付後に2科目を選択。 [出題範囲] ○英語は「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「リーディング」「ライティング」。 ○数学（数学Ⅰ・数学A）数学Aは「集合と論理」「場合の数と確率」。 ○国語は「国語総合」「国語表現Ⅰ」の内容を出題範囲とし、近代以降の文章のみ。 ○歴史（日本史B、世界史B）。 (時間120分 配点200点) ※1科目100点

※学科併願が可能

【C日程】 募集人員 15名（総合政策学科10名／企業経営学科5名）

試験会場：八王子キャンパス

◎日程および試験内容＜1科目型＞

出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間	入試科目
2月15日(水)～ 2月28日(火)必着	3月5日(月)	3月7日(水) 12:00～	3月7日(水)～ 3月15日(木)必着	◎選択科目 外国語（英語）、国語の中から問題配付後に1科目を選択。 [出題範囲] ○英語は「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「リーディング」「ライティング」。 ○国語は「国語総合」「国語表現Ⅰ」の内容を出題範囲とし近代以降の文章のみ。 (時間60分 配点100点)

※学科併願が可能

編集後記

今年度の『杏ジャーナル』をお届けいたします。学長をはじめ、学部長、杏会役員の皆さま、教職員、そして学生諸君から熱のこもった原稿をいただき、おかげさまで充実した内容に仕上がりました。

特集「私の国際交流」や「私の趣味」、「コーポレート・ガバナンス」、「義経北行伝説を追いかけて」、「私の記者時代」、「社会見学ツアー」、「震災の復興支援活動」、「読書のススメ」、「ゼミナール紹介」など、どのページから読んでも面白く読み応えのある記事ばかりです。是非お読みいただければと思います。

編集にあたり、広報・企画調査室、教務課、キャリアサポートセンターからもいろいろとご協力いただきました。この場を借りて、関係各位に感謝申し上げます。

『杏ジャーナル』が杏林大学総合政策学部の読者の皆さまをつなぐ懸け橋になることができれば幸いです。

杏ジャーナル 編集委員長

教務課長

内藤 高雄	馬田 啓一
大山 徹	川村 真理
木村 有里	齊藤 崇
高田 京子	半田 英俊
藤原 究	安藤 英視

杏ジャーナル 第28号

発行年月日 平成23年12月1日

編集発行人 杏林大学総合政策学部杏会

東京都八王子市宮下町四七六

電話042(691)8224

印刷所 有限会社シーズ 禁無断転載・複製



杏林大学
公式ホームページ
資料請求はこちらへ

杏林大学総合政策学部杏会

〒192-8508 東京都八王子市宮下町476 TEL.042(691)8224
杏林大学公式ホームページ URL:<http://www.kyorin-u.ac.jp/>